2 大学院保健科学院の教育理念・目標・アドミッションポリシー

○ ***最先端の知識と実践技術を有する***
高度医療専門職者および指導者の育成

○ ***次世代の保健科学を担う***
高度医療専門職者および教育・研究者の育成

○ ***専門分野をこえて***
世界の保健科学研究をリードする研究者の育成

保健科学院は，保健科学への医療及び社会の大きなニーズに応えるため，学部教育や実務経験で培った専門的な技術や知識を向上させ，高度な専門的判断能力と医療技術の実践的能力を身につけ，エビデンスに基づく保健科学の発展を担う高度医療専門職および保健科学研究をリードする教育者・研究者を育成することを目的としています。

○アドミッションポリシー（求める学生像）

・保健科学院は，保健科学における専門技術を高めると共に，様々な分野の融合と連携を通して，学術的な発展を目指すべく，保健医療系の学部教育を受けた学生のみならず，異なる背景の学問を身につけた学生を受け入れ，地域や文化，国籍を問わず，広く人材を求める。
・保健科学院の教育理念に基づいた人材育成を図るため，それにふさわしい意欲・学力・創造力・論理性・リーダーシップを有する学生を選抜する。

引用元：北海道大学大学院保健科学研究院保健科学研究院学生便覧2019年度

修士課程特論，演習及び実習，並びに博士後期課程特講及び特講演習の担当教員に関する申合せ

平成２４年７月１９日
保健科学院教授会決定

（趣旨）

第１条　この申合せは，北海道大学大学院保健科学院（以下「学院」という。）修士課程特論，演習及び実習，並びに博士後期課程特講及び特講演習の担当教員に関して，必要な事項を定めるものとする。

（修士課程講義，演習及び実習の担当教員）

第２条　修士課程の講義を担当することができるのは，教授又は准教授及び大学院保健科学研究院教員採用候補者に係る任用ガイドラインに規定される教員採用基準（以下「教員採用基準」という。）において講師以上の基準を満たす学院の専任教員（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員を含む。以下同じ。）並びに大学院保健科学研究院招へい教員のうち，客員教員として選考され且つ北海道大学客員教授の称号を付与された者（以下「客員教授」という）とする。ただし，科目責任者は，教授又は准教授とする。

２　修士課程の演習及び実習を担当することができるのは，学院の専任教員及び客員教授とする。ただし，科目責任者は，教授，准教授又は講師とする。

３　修士課程の講義，演習及び実習を担当する非常勤講師については，前３項の規定にかかわらず，学院教務委員会の審議を経て，学院教授会が決定する。

（博士後期課程特講及び特講演習の担当教員）

第３条　博士後期課程の特講を担当することができるのは，学院の専任教員のうち，教授，准教授及び大学院連携分野教員並びに客員教授とする。

２　博士後期課程の特講演習を担当することができるのは，教員採用基準において准教授以上の基準を満たす学院の専任教員及び客員教授とする。ただし，科目責任者は，教授，准教授又は大学院連携分野教員とする。

（担当教員の申請方法）

第４条　担当教員の申請は，科目責任者より履歴書及び研究業績を添えて学院教務委員会委員長（以下「教務委員長」という。）へ行うものとする。ただし，次のいずれかに該当するものを担当教員とする場合は，この条による申請は要しないものとする。

（1）大学院保健科学研究院教授会において，教授又は准教授として選考された者
（2）学院教授会において，指導教員の資格があるものとして承認された者
（3）学院教授会において，大学院連携分野教員として選出された者
（4）保健科学研究院以外の部局等を本籍とする教員
（5）次条により担当教員として選考された者であって，前年度同様の科目を担当することが予定されている者

（担当教員の決定）

第５条　教務委員長は，前条により申請があった場合は，履歴書及び研究業績を精査したうえで学院教務委員会に諮り，決定するものとする。

（雑則）

第６条　この申合せに定めるもののほか，修士課程特論，演習及び実習，並びに博士後期課程特講及び特講演習の担当教員に関し，必要な事項は，学院教授会の議を経て学院長が別に定める。

附　則

この申合せは，平成２４年７月１９日から実施する。

附　則

この申合せは，平成２６年１０月１６日から実施する。

附　則

この申合せは，平成２９年１月１２日から実施する。

附　則

この申合せは，平成３０年３月１５日から実施する。

資料保院3

国立大学法人北海道大学大学院保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コース
非常勤講師（臨地実習担当）要項

平成２５年１２月１９日
保健科学院教授会決定

（趣旨）

第１条　この要項は,北海道大学大学院保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コース(以下「保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コース」という。）における教育の推進に資するために採用する非常勤講師（臨地実習担当）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この要項において非常勤講師（臨地実習担当）とは，保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コースにおける臨地実習を担当する者であって，国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則（平成 16 年海大達第 88 号）第５条の規定により採用された者をいう。

（職務内容）

第３条　非常勤講師（臨地実習担当）は，保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コースの学生に対して，指定された臨地実習施設において，当該施設の指導者と連携及び分担し，臨地実習指導を行う。

（基本給）

第４条　非常勤講師（臨地実習担当）の基本給は，時給とし，１時間 2,500 円とする。

（雑則）

第５条　この要項に定めるもののほか，非常勤講師（臨地実習担当）に関し必要な事項は，保健科学院長が別に定める。

附　則

この要項は，平成 26 年４月１日から実施する。

北海道大学大学院保健科学院規程

平成20年４月１日
海 大 達 第８５号

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規程は，国立大学法人北海道大学組織規則（平成16年海大達第31号）第27条の３第４項の規定に基づき，保健科学院（以下「本学院」という。）の教育課程等に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　本学院は，保健科学に関する基礎的及び応用的な教育研究を行うことにより，保健科学に関する高度な専門的知識，判断力及び倫理性を有するとともに，最新の医療技術に関する実践的な能力を有する高度専門職業人並びに保健科学に関する独創的な研究及び開発を行うことができる教育者及び研究者を養成することを目的とする。

第２章　専攻，課程及びコース

（専攻）

第３条　本学院に，次の専攻を置く。

保健科学専攻

（課程）

第４条　本学院の課程は，博士課程とする。

（履修コース）

第５条　保健科学専攻に，履修上の区分として，次のコースを設ける。

保健科学コース
看護学コース

第３章　入学，再入学，転学及び所属変更

（入学）

第６条　本学院に入学することのできる者は，北海道大学大学院通則（昭和29年海大達第３号。以下「通則」という。）第４条第４項に規定する修士課程（以下「修士課程」という。）にあっては，通則第10条第１項各号のいずれかに，通則第４条第４項に規定する博士後期課程（以下「博士後期課程」という。）にあっては，通則第10条第２項各号のいずれかに該当する者とする。

２　前項に規定する者のうち，本学院の行う選考に合格した者については，教授会の議を経て，総長が入学を許可する。

（再入学及び転学）

第７条　通則第13条各号に該当する者が本学院に再入学又は転学を願い出た場合は，選考の上，教授会の議を経て，総長がこれを許可することがある。

（所属変更）

第７条の２　通則第13条の２第１号に該当する者が本学院に所属の変更を願い出た場合は，選考の上，教授会の議を経て，学院長がこれを許可することがある。

第４章　授業科目，修了要件，履修方法及び試験

（授業科目及び単位）

第８条　保健科学専攻の授業科目及び単位は，別表のとおりとする。

（単位数の計算の基準）

第９条　各授業科目の単位数を定めるに当たっては，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，講義及び演習については，15時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，修了論文，修了研究等の授業科目については，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めるものとする。

（課程の修了要件）

第10条　修士課程の修了要件は，大学院に２年以上在学し，30 単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士課程の目的に応じ，本学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた業績を上げた者については，大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

２　別表修士課程看護学コースの表に規定する公衆衛生看護学科目群，助産学科目群及び高度実践看護学科目群を選択する者の修了要件については，前項本文中及び次条第１項本文中「30 単位」とあるのは，公衆衛生看護学科目群及び助産学科目群を選択する者にあっては「36 単位」と，高度実践看護学科目群を選択する者にあっては「56 単位」と読み替えて，前項及び次条第１項の規定を適用する。

３　本学院において教育上有益と認めるときは，北海道大学（以下「本学」という。）の研究科，他の学院若しくは教育部の専攻又は学部の授業科目を指定して履修させ，修士課程の単位とすることができる。

４　本学院において教育上有益と認めるときは，北海道大学大学院共通授業科目規程（平成12年海大達第24号）に定める授業科目（次条第４項において「共通授業科目」という。）を指定して履修させ，修士課程の単位とすることができる。

５　本学院において教育上有益と認めるときは，学生が本学の研究科，他の学院又は教育部の専攻（次条第５項において「研究科等」という。）において１年を超えない範囲で，第１項に規定する必要な研究指導を受けることを認めることができる。

第11条　博士課程の修了要件は，大学院に５年（修士課程に２年以上在学し，当該課程を修了した者にあっては，当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学し，修士課程において30単位以上，博士後期課程において12単位以上をそれぞれ修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，大学院に３年（修士課程に２年以上在学し，当該課程を修了した者にあっては，当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

２　前条第１項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件については，前項中「５年（修士課程に２年以上在学し，当該課程を修了した者にあっては，当該課程における２年の在学期間を含む。）」とあるのは「修士課程における在学期間に３年を加えた期間」と，「３年（修士課程に２年以上在学し，当該課程を修了した者にあっては，当該課程における２年の在学期間を含む。）」とあるのは「３年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替えて，前項の規定を適用する。

３　前２項の規定にかかわらず，学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により，大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士課程の後期３年の課程に入学した場合の

博士課程の修了要件は，大学院に３年（専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第18条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，12単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，本学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，大学院に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

４　本学院において教育上有益と認めるときは，共通授業科目を指定して履修させ，第１項の規定により修得すべき単位とすることができる。

５　本学院において教育上有益と認めるときは，学生が本学の研究科等において第１項に規定する必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし，修士課程の学生について認める場合には，当該研究指導を受ける期間は１年を超えないものとする。

（長期履修）

第12条　本学院において，学生が職業を有している等の事情により，標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは，教授会の議を経て，その計画的な履修（次項において「長期履修」という。）を認めることができる。

２　長期履修に関し通則第４条の２に定めるもののほか，本学院において必要な事項は，教授会の議を経て，学院長が別に定める。

（他の大学の大学院等における履修等）

第13条　本学院において教育上有益と認めるときは，教授会の議を経て，学生が他の大学の大学院の授業科目を履修し，又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第１条第２項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（第15条において「国際連合大学」という。）において学修することを認めることができる。

２　前項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位又は学修の成果については，修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えない範囲において，第10条又は第11条の規定により修得すべき単位の一部とみなすことができる。

３　本学院において教育上有益と認めるときは，教授会の議を経て，学生が他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学の大学院若しくは研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし，修士課程の学生について認める場合には，当該研究指導を受ける期間は，１年を超えないものとする。

（休学期間中の外国の大学の大学院における学修）

第14条　本学院において教育上有益と認めるときは，教授会の議を経て，学生が休学期間中に外国の大学の大学院において学修した成果について，本学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は，前条第２項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて，修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位の認定）

第15条　本学院において教育上有益と認めるときは，教授会の議を経て，新たに本学院に入学した学生が，本学院に入学する前に本学若しくは他の大学の大学院において履修した授業科目について修

得した単位（科目等履修生として履修した授業科目について修得した単位を含む。）又は外国の大学の大学院若しくは国際連合大学において学修した成果を，本学院に入学した後の本学院における授業科目の履修により修　得したものとみなすことができる。

２　前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は，本学大学院において修得した単位以外のものについては，修士課程及び博士後期課程を通して10単位を超えない範囲において，第10条又は第11条の規定により修得すべき単位の一部とすることができる。

（履修方法）

第16条　授業科目の履修方法の細目については，教授会の議を経て，学院長が定める。

（試験）

第17条　各授業科目の試験（以下「科目試験」という。）は，当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。ただし，やむを得ない事由があるときは，教授会の議を経て臨時に実施することがある。

（成績の評価）

第18条　科目試験の成績は，秀，優，良，可及び不可の５種とし，秀，優，良及び可を合格とする。

（学位論文の提出期日）

第19条　修士課程及び博士課程の学位論文は，本学院の定める期日までに提出しなければならない。

第５章　課程修了の認定

（課程修了の認定）

第20条　修士課程及び博士課程の修了は，当該課程の修了要件を満たした者について，教授会の議を経て，総長がこれを認定する。

第６章　特別聴講学生，特別研究学生及び外国人留学生

（特別聴講学生）

第21条　本学院において特定の授業科目を履修し，単位を修得しようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは，教授会の議を経て，特別聴講学生としてこれを許可することができる。

２　特別聴講学生は，学期又は学年ごとに許可する。

３　特別聴講学生に係る科目試験の実施及び成績の評価については，第17条及び第18条の規定を準用する。

（特別研究学生）

第22条　本学院において研究指導を受けようとする他の大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生があるときは，教授会の議を経て，特別研究学生としてこれを許可することができる。

第23条　削除

（外国人留学生）

第24条　通則第47条の規定による外国人留学生の入学については，教授会の議を経て，総長がこれを許可することがある。

附　則

この規程は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成22年４月１日から施行する。

２　平成 22 年３月 31 日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び

同年４月１日以降に在学者の属する年次に入学する者については，改正後の別表の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則

１　この規程は，平成23年４月１日から施行する。

２　平成 23 年３月 31 日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年４月１日以降に在学者の属する年次に入学する者については，改正後の別表の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則

１　この規程は，平成25年４月１日から施行する。

２　平成 24 年３月 31 日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年４月１日以降に在学者の属する年次に入学する者については，改正後の別表の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則

１　この規程は，平成26年４月１日から施行する。

２　平成 26 年３月 31 日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年４月１日以降に在学者の属する年次に入学する者については，改正後の第 10 条第２項及び別表の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則

１　この規程は，平成27年４月１日から施行する。

２　平成 27 年３月 31 日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年４月１日以降に在学者の属する年次に入学する者については，改正後の別表の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則

１　この規程は，平成28年４月１日から施行する。

２　平成 28 年３月 31 日に本学大学院に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び同年４月１日以降に在学者の属する年次に入学する者については，改正後の北海道大学大学院保健科学院規程の規定にかかわらず，なお従前の例による。

別表（第８条関係）

修士課程

専攻共通基礎科目

区分	授業科目	単位	備考
必修科目	医療倫理・リスクマネージメント特論	2	１　必修科目２単位及び選択必修科目から２単位を含み，８単位以上を修得すること。 ２　前項の規定にかかわらず，看護学コース高度実践看護学科目群を選択する者は，必修科目２単位，選択必修科目から２単位及び選択科目から先端検査医学特論，機能解剖学特論，食品機能学特論，チーム医療特論，フィジカルアセスメント特論，病態生理学特論及び臨床薬理学特論の 14 単位を含み，18 単位以上を修得すること。
選択必修科目	実験研究方法特論	2	
	事例研究方法特論	2	
	質的研究方法特論	2	
	調査研究方法特論	2	
選択科目	保健統計学演習	2	
	先端検査医学特論	2	
	がん・再生医療特論	2	
	機能解剖学特論	2	
	健康科学特論	2	
	スポーツ・体力科学特論	2	
	食品機能学特論	2	
	栄養薬理学特論	2	
	チーム医療特論	2	
	フィジカルアセスメント特論	2	
	病態生理学特論	2	
	臨床薬理学特論	2	

保健科学コース

区分		授業科目	単位	備考
生体量子科学科目群	選択必修科目	医用物理工学特論	2	保健科学コースを履修する者は，生体量子科学科目群，生体情報科学科目群，リハビリテーション科学科目群又は健康科学科目群のいずれか一の科目群を選択し，当該科目群の特論及び演習各２単位並びに研究指導科目の保健
		医用量子線工学特論	2	
		医用理工学演習	2	
		機能画像解析学特論	2	
		機能画像解析学演習	2	
		臨床画像技術学特論	2	
		生体画像構造学特論	2	
		放射線治療技術学特論	2	
		放射線技術学演習	2	

生体情報科学科目群	選択必修科目	循環機能検査学特論	2	科学研究 10 単位を含み，14 単位以上を修得すること。
		超音波画像計測学演習	2	
		検査血液学特論	2	
		検査血液学演習	2	
		代謝分析化学特論	2	
		代謝分析化学演習	2	
		感染・生体ストレス応答学特論	2	
		感染・生体ストレス応答学演習	2	
		免疫病態学特論	2	
		免疫病態学演習	2	
リハビリテーション科学科目群	選択必修科目	運動制御学特論	2	
		運動制御学演習	2	
		運動器障害学特論	2	
		運動器障害学演習	2	
		人間作業行動学特論	2	
		人間作業行動学演習	2	
		発達期障害・高次脳機能障害作業適応学特論	2	
		発達期障害・高次脳機能障害作業適応学演習	2	
		精神障害リハビリテーション学特論	2	
		精神障害リハビリテーション学演習	2	
健康科学科目群	選択必修科目	環境健康科学特論	2	
		環境健康科学演習	2	
		人類生態学特論	2	
		人類生態学演習	2	
		代謝バイオマーカー特論	2	
		代謝バイオマーカー演習	2	
		機能情報計測学特論	2	
		機能情報計測学演習	2	
		保健情報科学特論	2	
		保健情報科学演習	2	
		高次脳機能障害学特論	2	
		高次脳機能障害学演習	2	
		環境健康疫学特論	2	
		環境健康疫学演習	2	
研究指導科目		保健科学研究	10	

看護学コース

区分		授業科目	単位	備考
看護学科目群	選択必修科目	看護管理学特論	2	1　看護学コースを履修する者は，看護学科目群，公衆衛生看護学科目群，助産学科目群又は高度実践看護学科目群のいずれか一の科目群を選択すること。 2　看護学科目群を選択する者は，当該科目群の特論及び演習各２単位並びに研究指導科目の看護科学研究 10 単位を含み，14 単位以上を修得すること。 3　公衆衛生看護学科目群を選択する者は，当該科目群の必修科目 12 単位及び研究指導科目の実践看護研究８単位を含み，20 単位以上を修得すること。 4　助産学科目群を選択する者は，当該科目群の必修科目 12 単位及び研究指導科目の実践看護研究８単位を含み，20 単位以上を修得すること。 5　高度実践看護学科目群を選択する者は，当該科目群の必修科目 26 単位，看護学科目群の選択必修科目から療養生活支援システム看護学特論及びがん看護学特論の４単位並びに研究指導科目の実践看護研究８単位を含み，
		看護管理学演習	2	
		看護技術学特論	2	
		看護技術学演習	2	
		療養生活支援システム看護学特論	2	
		療養生活支援システム看護学演習	2	
		がん看護学特論	2	
		がん看護学演習	2	
		地域看護学特論	2	
		地域看護学演習	2	
		看護教育学特論	2	
		看護教育学演習	2	
		高齢者看護学特論	2	
		高齢者看護学演習	2	
		高次脳機能障害・認知症看護学特論	2	
		高次脳機能障害・認知症看護学演習	2	
		精神・脳科学看護学特論	2	
		精神・脳科学看護学演習	2	
		国際母子看護学特論	2	
		国際母子看護学演習	2	
		母子看護学特論	2	
		母子看護学演習	2	
		予防看護学特論	2	
		予防看護学演習	2	
		国際看護学特論	2	
		国際看護学演習	2	
		看護情報科学特論	2	
		看護情報科学演習	2	
公衆衛生看護学科目群	必修科目	公衆衛生看護学特論	2	
		公衆衛生看護学演習	2	
		公衆衛生看護学実践演習	8	

	必 修 科目	公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学実践演習	2 2 8	38 単位以上を修得すること。
	選択 科目	公衆衛生看護学原論 健康生活支援論 地域健康組織活動論 産業看護論 地域健康危機管理論 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護活動演習Ⅰ 公衆衛生看護活動演習Ⅱ 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護疫学演習 保健医療福祉公共政策論 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅲ	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2	
助産学科目群	必修 科目	助産学特論 助産学演習 助産学実践演習	2 2 8	
	選択 科目	ウイメンズヘルス特論 リプロダクティブヘルス特論 助産対人関係論 助産診断・技術学特論 助産診断・技術学演習Ⅰ 助産診断・技術学演習Ⅱ 乳幼児支援論 地域・国際母子保健学 助産マネージメント特論 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 助産学実習Ⅲ	2 2 2 2 2 2 2 1 2 7 2 2	

高度実践看護学科目群	必修科目	高度実践看護学特論	2	
		高度実践看護学演習	2	
		高度実践看護診断・技術学Ⅰ	2	
		高度実践看護診断・技術学Ⅱ	2	
		臨床薬理学演習	2	
		高度実践看護学実践演習	2	
		高度実践看護学実習Ⅰ	4	
		高度実践看護学実習Ⅱ	4	
		高度実践看護学実習Ⅲ	4	
		高度実践看護学実習Ⅳ	2	
研究指導科目		看護科学研究	10	
		実践看護研究	8	

博士後期課程

専攻共通科目

区　　分	授業科目	単位	備　　考
必修科目	医療マネージメント特講	2	

保健科学コース

区分		授業科目	単位	備考
先進医療科学科目群	選択必修科目	医用画像科学特講 医用画像科学特講演習 生体情報機能解析学特講 生体情報機能解析学特講演習 重粒子医科学特講 重粒子医科学特講演習	2 2 2 2 2 2	保健科学コースを履修する者は，先進医療科学科目群又は総合健康科学科目群のいずれか一の科目群を選択し，当該科目群の同一の名称を冠する特講及び特講演習各２単位並びに研究指導科目の保健科学特別研究６単位を含み，10 単位以上を修得すること。
総合健康科学科目群	選択必修科目	先端リハビリテーション科学特講 先端リハビリテーション科学特講演習 健康評価科学特講 健康評価科学特講演習 健康マネジメント特講 健康マネジメント特講演習	2 2 2 2 2 2	
研究指導科目		保健科学特別研究	6	

看護学コース

区分		授業科目	単位	備考
看護科学科目群	選択必修科目	基盤看護科学特講 基盤看護科学特講演習 実践看護科学特講 実践看護科学特講演習 社会看護科学特講 社会看護科学特講演習	2 2 2 2 2 2	看護学コースを履修する者は，選択必修科目から同一の名称を冠する特講及び特講演習各２単位並びに研究指導科目の看護科学特別研究６単位を含み，10 単位以上を修得すること。
研究指導科目		看護科学特別研究	6	

大学院保健科学院修士課程学位審査要項

平成２１年９月１７日
保健科学院教授会決定

北海道大学大学院保健科学院（以下「学院」という。）規程第１０条の規定における修士論文及び特定課題研究報告書（以下「学位論文等」という。）の提出及び審査に関しては，関係諸規程に定めるもののほか，この要項の定めるところによる。

１．学位論文等の提出書類と提出期限

学位論文等の審査を受けようとする者は，修士課程研究指導教員（以下「研究指導教員」という。）の予備審査を経て，学位論文等と学位論文等の内容要旨を，学位論文等審査委員が決定される１週間前までに学院長へ提出する。

２．学位論文等の提出部数

学位論文等提出者は，研究指導教員の承認書（様式１）を添付して次の部数を提出する。

（１）学位論文等　４部
（２）学位論文等の内容要旨　５部

３．学位論文等の体裁

学位論文等の体裁は次のとおりとする。

（１）学位論文等は，日本文又は英文とし，Ａ４判縦長に表紙（様式２）を付け，左綴じとする。
（２）学位論文等の内容要旨（様式３）は，２，０００字以内の日本文又は６００ワード以内の英文とする。
（３）学位論文等及び学位論文等の内容要旨（本文）は，１２ポイント程度のＭＳ明朝体にて１ページあたり４０字４０行を目安として作成する（学位論文等を英文で作成する場合は，１２ポイント程度の Times New Roman 体でダブルスペースとする)。なお，各ページの下中央にはページ数（- X -）を付す。

（４）学位論文等は，目次を付し，以下，要約，緒言，対象と方法，結果，考察，結論，謝辞，文献，などの順に構成し，最後に業績リスト（著書，学術論文，総説・解説，学会発表，その他）を添付すること。図表は末尾にまとめるのではなく，論文中に挿入すること。目次には図表についての記載は不要とする。

４．学位論文等審査委員

学位論文等の審査は，修士課程の研究指導科目を担当する教員（以下「指導教員」という。）から選出された主査１名と副査２名によって行なわれる。主査は，学位論文等審査や審査報告書の作成など中心的な役割を担う。審査委員の構成は次のうちいずれかとする。

（１）主査：教授，副査：教授，教授又は准教授
（２）主査：准教授，副査：教授，教授

なお，研究指導教員が担当学生の審査委員となることを妨げない。但し，審査委員のうち１名以上は，その学生の研究指導教員以外の教員とする。また，審査上，必要と認められる場合には，副査の１名を本学の他研究科，学院又は研究所等の教授又は准教授（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成１８年海大達第３５号）第３条第２号に該当する特任教員のうち，特任教授及び特任准教授の職にある者を含む。）とすることができる。

主任指導教員は，審査委員が決定される学院教授会の１週間前までに，審査委員候補者を学院長に推薦する。審査委員は，主任指導教員が推薦する審査委員候補者を参考にして，学院教授会が決定する。

５．学位論文等の公開発表会及び審査

学位論文等審査のため，学位論文等提出者は公開発表会において学位論文等の発表を行う。公開発表会は，審査委員の決定後，速やかに実施するものとし，日時等は学院長が指定する。なお,修士論文等提出者は公開発表会での発表を原則とするが,学院長が特に必要と認めた場合には,公開発表会に代わる審査会等をもって代替できるものとする。

審査委員は，公開発表会において当該発表者の司会進行を務めると共に，学位論文等の審査を行う上で必要と認めた場合には，公開発表会以外においても，学位論文等提出者に対して，学位論文等に係る口頭試問を課すことができる。

６．審査報告

審査委員は，公開発表会終了後１週間以内に，協議の上，審査報告書（様式４）に審査の概要（様式５）を添付し，学院長に提出する。

７．合否判定および修了可否の判定

当該修了予定者の修士論文等の合否判定および修士課程の修了可否の判定は，学院教務委員会の確認を経た後，学院教授会の議決により行う。

８．学位論文等の保存

修士課程修了者の学位論文等は，保健科学研究院の医学部図書館保健学科分室で保存し，請求に応じて閲覧に供する。

附　則

この要項は，平成２１年９月１７日から実施する。

附　則

この要項は，平成２２年１月２１日から実施する。

附　則

この要項は，平成２３年１月２０日から実施する。

附　則

この内規は，平成２３年４月２１日から施行し，平成２３年４月１日から適用する。

附　則

この要項は，平成２７年４月１日から実施する。

附　則

この要項は，平成２８年８月１８日から実施する。

附　則

この要項は，平成２９年２月１６日から実施する。

＊ 以下，各様式において，(a)は修士論文に，(b)は特定課題研究報告書に対応する。

様式　１(a)

平成　　年　　月　　日

申請者

○　○　○　○　殿

修士課程研究指導教員

主任指導教員　○　○　○　○　印

副指導教員　○　○　○　○　印

副指導教員　○　○　○　○　印

学位論文（修士論文）提出に係る研究指導教員承認書

下記の学位論文（修士論文）について，修士学位審査に諮ることを承認しました。

記

修士論文提出者

学生番号　　○○○○○○○○○

氏　　名　　○　○　○　○

修士論文題名

「　　」

様式　1 (b)

平成　　年　　月　　日

申請者

○　○　○　○　殿

修士課程研究指導教員

主任指導教員　○　○　○　○　印

副指導教員　○　○　○　○　印

副指導教員　○　○　○　○　印

学位論文（特定課題研究報告書）提出に係る研究指導教員承認書

下記の学位論文（特定課題研究報告書）について，修士学位審査に諮ることを承認しました。

記

特定課題研究報告書提出者

学生番号　　○○○○○○○○○

氏　　名　　○　○　○　○

特定課題研究報告書題名

「　　」

様式　２(a)

２０ＸＸ年度

修 士 論 文

論文題名：

氏 名：　○　○　○　○

北海道大学大学院保健科学院

保健科学専攻 ○○○○コース

20ＸＸ年Ｘ月提出

様式　２(b)

２０ＸＸ年度

特 定 課 題 研 究 報 告 書

報告書題名：

氏　名：　○　○　○　○

北海道大学大学院保健科学院

保健科学専攻 看護学コース

20ＸＸ年Ｘ月提出

様式　３(a)

修　士　論　文　内　容　の　要　旨

修士課程のコース名称　　保健科学専攻 ○○○○コース

氏　名　　○　○　○　○

［修　士　論　文　題　名］

枠線は不要

［要　　旨］

最長次ページまでとする 枠線は不要

様式　３(b)

特 定 課 題 研 究 報 告 書 内 容 の 要 旨

修士課程のコース名称　　保健科学専攻 看護学コース

氏　名　　○　○　○　○

[特 定 課 題 研 究 報 告 書 題 名]

枠線は不要

[要　　旨]

最長次ページまでとする 枠線は不要

様式　４(a)

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

学位論文等審査委員

主査　○　○　○　○　　印

修 士 学 位 審 査 報 告 書

提出のありました修士学位審査及び公開発表を終了しましたので，下記のとおり報告します。

記

１．学位論文提出者氏名

２．審査判定　　可　・　否

主査　（自筆，以下同様）

副査

副査

３．添付書類

修士論文審査の概要　　１部

様式　4 (b)

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

学位論文等審査委員

主査　○　○　○　○　　印

修 士 学 位 審 査 報 告 書

提出のありました修士学位審査及び公開発表を終了しましたので，下記のとおり報告します。

記

１．特定課題研究報告書提出者氏名

２．審査判定　　可　・　否

主査　（自筆，以下同様）

副査

副査

３．添付書類

特定課題研究報告書審査の概要　　１部

様式　５(a)

修 士 論 文 審 査 の 概 要

（この１ページに収まるようにすること）

修士学位名称　　修士（○○○学）

氏　名

審査委員　主査

副査

副査

［修士論文題名］

枠線は不要

［審 査 の 概 要］

論文要旨 枠線は不要（以下、同様）
質問内容：誰が何を質問したか等
質問に対する対応等
本研究により何が期待されるか、示唆されるか等
判定

様式　５(b)

特 定 課 題 研 究 報 告 書 審 査 の 概 要

（この１ページに収まるようにすること）

修士学位名称　　修士（看護学）

氏　名

審査委員　主査

副査

副査

［特定課題研究報告書題名］

枠線は不要（以下、概要も同様）

［審 査 の 概 要］

論文要旨

質問内容：誰が何を質問したか等

質問に対する対応等

本研究により何が期待されるか、示唆されるか等

判定

大学院保健科学院博士後期課程学位論文審査要項

平成２２年５月２０日
保健科学院教授会決定

北海道大学大学院保健科学院（以下「学院」という。）規程第１１条の規定における学位論文（博士論文）の提出及び審査に関しては，関係諸規程に定めるもののほか，この要項の定めるところによる。

１．学位論文提出者の資格

学位論文提出者は，次のいずれかに該当する者とする。

（１）本学院に所定の年数以上在学（在学見込みの者を含む。）し、必要な研究指導を受け，かつ，所定の単位を修得した者。

（２）本学院に所定の年数以上在学し，必要な研究指導を受けたうえ，所定の単位を修得したのみで退学後１年以内の者。

２．学位論文の提出

学位論文提出者は，博士後期課程指導教員（以下「指導教員」という。）を通じて学院長の指示する期日までに，以下の書類を添えて学院教務委員会へ提出する。

（１）学位論文
（２）学位論文提出者の提出資格審査申請書（様式１）
（３）履歴書（様式２）
（４）論文目録（様式３）
（５）学位論文内容の要旨（様式５）
（６）学術誌上に掲載された論文の別刷（又はコピー）
（７）論文掲載原稿受理証明書（掲載予定の者のみ）
（８）博士論文のインターネット公表事前チェックリスト（様式１１）
（９）博士論文全文のインターネット公表について（様式１２）
（１０）博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書（様式１３・該当者のみ）
（１１）博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届（様式１４・該当者のみ）

３．学位論文の体裁

学位論文の体裁は次のとおりとする。

（１）学位論文は，日本文又は英文とし，Ａ４判縦長に表紙（様式４）を付け，左綴じとする。

（２）学位論文内容の要旨（様式５）は，３，０００字以内の日本文，もしくは，８００ワード以内の英文とする。

（３）学位論文内容の要旨（本文）は，１０．５ポイント程度のＭＳ明朝体にて１ページあたり４０字４０行程度を目安として作成する（学位論文を英文で作成する場合は，１２ポイント程度の Times New Roman 体でダブルスペースとする）。なお，各ページの下中央にはページ数（－ X －）を付す。

（４）学位論文等は，目次を付し，以下，要約，緒言，対象と方法，結果，考察，結論，謝辞，文献などの順に構成し，最後に業績リスト（著書，学術論文，総説・解説，学会発表，その他）を添付すること。図表は末尾にまとめるのではなく，論文中に挿入すること。目次

には図表についての記載は不要とする。

4．資格審査

学位論文提出者の資格（修了要件の修得単位を含む）について，学院教務委員会において審査し，論文提出の可否を決定する。

なお，審査項目は次のとおりとする。

（1）在学期間

ア．在学者：３年以上在学（見込み）し，所定の単位を修得（見込み）していること

イ．単位修得退学者：上記アの要件を満たし，退学後，１年以内であること

ウ．短縮修了者：優れた研究業績を上げた者については，保健科学院規定第１１条に従い，上記アの在学期間に依らない

（2）印刷公表と学位論文

ア．論文目録（様式３）に記載されている印刷公表論文（別刷又はコピー添付）が適正であるか

① 掲載論文が学位論文の内容に即し，博士後期課程入学後に掲載された（あるいは掲載が確約されている）論文であること（少なくとも１編は筆頭著者論文とする）

② 掲載誌がしっかりとした査読制のある学会学術誌または権威ある学術雑誌であること

イ．申請された学位論文が適正であるか

① 申請者による単著であること

② 「３．学位論文の体裁」に則り，適切に作成されていること

5．審査委員の選出

審査は，博士後期課程の研究指導科目を担当する教員から選出された，主査１名（主任指導教員となることのできる教員に限る）と副査２～３名によって行なわれる。主査は，学位論文審査や審査報告書の作成など中心的な役割を担う。審査委員の構成は次のうちいずれかとする。

（1）主査：教授，副査：教授と准教授で２～３名（ただし教授１名以上）

（2）主査：准教授，副査：教授と准教授で２～３名（ただし教授２名以上）

なお，主任・副指導教員は，担当学生の主査となることはできないが，副査の１名となることはできる。また，審査上，必要と認められる場合には，副査の１名を，本学の他研究科・学院又は研究所等の教授又は准教授，あるいは他大学の教授又は准教授とすることができる。

主任指導教員は，審査委員が決定される学院教授会（以下「教授会」という。）の１０日前までに，審査委員候補者を学院教務委員長に推薦する。審査委員は，学院教務委員長が提出する様式６の審査委員候補者を参考にして，教授会が決定する。

6．学位論文の審査及び試験

審査委員は，学位論文の審査を行うと共に，学位論文提出者に対して，論文内容及びそれに関連する授業科目について口頭試問を行うものとする。

7．公開発表

教授会は，学院教務委員会において資格審査を可とされた者に対し学位論文の内容について審査委員の出席のもとに公開発表を求めるものとする。

（1）公開発表時期： ６・９・１２月修了予定者に係るものについては，原則として，次項に定める審査委員が決定する月の末日までに行う。
（2）発表日の連絡： 当該論文の審査委員の主査は，発表日時等を様式７により発表日の１０日前までに学院長へ通知する。
（3）発表日の通知： 学院長は，公開発表の日時，場所，発表者の氏名，論文題名等を本学院の科目群（領域）等へ通知すると共に公開掲示板に掲示する。
（4）発表時間： 質疑・応答を含め１題あたり４０分以内とする。
（5）司会・進行： 当該審査委員の主査が行う。
（6）配布資料： 発表における配布資料は，発表者が用意・配布する。

８．審査の報告

審査委員の主査は，公開発表会終了後，協議の上，速やかに「審査報告書（様式８）」を「審査の要旨（様式９）」「公開発表の状況（様式１０）」と共に，学院長に提出する。

また，学院長は，主査から報告のあった「審査の要旨」を学位授与の可否を決定する教授会開催日の１週間前までに，教授会構成員に配布する。

９．学位授与の決定

教授会は，審査の要旨に基づき，学位授与の可否について審議・議決する。この審議にあたっては，教授会構成員の３分の２以上の出席を必要とし，学位を授与できるものと議決するには，出席した構成員の３分の２以上の賛成がなければならない。

１０．総長へ報告

学院長は，上記９で決定した者を学位論文とともに所定様式により総長へ報告する。

１１．学位論文の公表

学位を授与された者は，学位授与日から１年以内に，当該学位論文全文（やむを得ない事由があるときは当該学位論文を要約したもの）をインターネットにより公表しなければならない。

１２．その他

この要項の定めるものの他，必要な事項は教授会の議を経て学院長が別に定める。

附　則

この要項は，平成２２年５月２０日から実施する。

附　則

この要項は，平成２４年１０月１８日から実施する。

附　則

この要項は，平成２５年１０月２４日から実施する。

附　則

この要項は，平成２６年３月２０日から実施する。

附　則

この要項は，平成２８年２月１９日から実施する。

附　則

この要項は，平成２８年８月１８日から実施する。

附　則

この要項は，平成２９年２月１６日から実施する。

附　則

この要項は，平成３０年３月１５日から実施する。

様式　1

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士後期課程指導教員
主任指導教員　　印
副指導教員　　印
副指導教員　　印

学位論文（博士論文）提出者の提出資格審査申請書

下記の学位論文について，提出者の提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

１．学位論文提出者

学生番号
ふりがな
氏　　名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ローマ字表記）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２．学位論文題名

様式　１【記入例】主任指導教員→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士後期課程指導教員
主任指導教員　○　○　○　○　印
副 指 導 教 員　○　○　○　○　印
副 指 導 教 員　○　○　○　○　印

学位論文（博士論文）提出者の提出資格審査申請書

下記の学位論文について，提出者の提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

１．学位論文提出者

学生番号　○○○○○○○○
ふりがな　ほくだい　たもつ
氏　　名　北　大　　保　（ローマ字表記）Tamotsu HOKUDAI

２．学位論文題名

（※学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。）

Functional analysis of　○○○○　the　○○○　on　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

様式　２

履　　歴　　書

本　　籍
現 住 所

ふ り が な
氏　　名
昭和 ・平成　　年　　月　　生

学　　歴

職　　歴

研 究 歴

賞　　罰

上 記 の と お り 相 違 あ り ま せ ん。

平成　　年　　月　　日

学位申請者

様式　２【記入例】申請者→教務

履　　歴　　書

本　　籍　　○○ 県[1]
現 住 所　　札幌市○○区○○条○○丁目○の○○
ふりがな　　ほく　だい　　たもつ
氏　　名　　北　大　　保
昭和○○年○○月○○日生

学　　歴[2]

平成○○年３月３１日	○○県立○○○○高等学校　卒業
平成○○年４月　１日	北海道大学医学部保健学科　入学
平成○○年３月３１日	同　上　卒業
平成○○年４月　１日	○○大学大学院○○○研究科△△専攻修士課程　入学
平成○○年３月３１日	同　上　修了
平成○○年４月　１日	北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻博士後期課程　入学
平成○○年○月○○日	同　上　修了見込

職　　歴[3][4]

平成○○年４月　１日	株式会社◎◎◎◎に　入社
平成○○年１０月１日	同社△△△△研究部に　配属
平成○○年３月３１日	同　上　退社
平成○○年４月　１日	○○県立○○○研究所に　入所
平成○○年１２月１日	○○県立○○○保健部に　異動
	現在に至る

研 究 歴[5][6]

平成○○年４月１日～平成○○年１０月１日
　△△大学大学院○○○学研究科□□専攻修士課程において，◎◎◎に関する研究に従事
平成○○年４月１日～平成○○年３月３１日
　株式会社◎◎◎◎研究所において，□□□に関する研究に従事
平成○○年４月１日～現在
　北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻博士後期課程において，◇◇◇に関する研究に従事

賞　　罰

平成○○年○○月○○日　　論文「○○○○○○○○○○」により，○○国○○学会から「○○○○年度◎◎◎◎賞」を受賞

上 記 の と お り 相 違 あ り ま せ ん。

平成　　年　　月　　日[7]
学位申請者[8]　　北　大　　保

---

[1] 都道府県のみ記載すること。外国籍は国籍を記入すること。
[2] 研究生・聴講生の期間については学歴に記入しないこと。研究生の期間は研究歴に記入すること。
最終行は本学院博士後期課程の修了見込年月日を記入すること。
[3] 現在の職を必ず記入すること。非常勤の職は記入しないこと。同一部署の昇給等を記入しないこと。
[4] 職歴が無い場合は，なし　と記入すること。
[5] 会社・研究所等の研究歴の他，修士課程修了者は出身大学大学院修士課程における研究歴も記入すること。
[6] 本学院博士後期課程における研究歴を　入学時～現在　として記入すること
[7] 申請年月日は空欄とすること。
[8] 自署またはワープロ書きした場合は押印すること。

様式　３

論　文　目　録

学位論文

Ⅰ．題　名

Ⅱ．印刷公表の方法及び時期

1.

2.

Ⅲ．参考論文

平成　　年　　月　　日

学位申請者

様式　３【記入例】申請者→教務

論　文　目　録

学位論文

Ⅰ．題　名 [9]

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　　on　　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

Ⅱ．印刷公表の方法及び時期 [10] [11] [12]

1. Development of ○○○○ for ○○○○ ○○○○ ○○○○.
   著者名１，著者名２，・・・
   ○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (20○○年公表)
2. Characteristics of ○○○○ with ○○○○ ○○○○ ○○○○.
   Author１，Author２，・・・
   ○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (in press, 20○○年公表予定)

Ⅲ．参考論文 [13]

な　し

又は

1. ○○○○に作用する○○○○への○○○○因子に関する研究
   著者名１，著者名２，・・・
   ○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (19○○年)
2. ○○○○における○○○○の研究
   著者名１，著者名２，・・・
   ○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (20○○年)

平成　　年　　月　　日 [14]

学位申請者 [15]　　北　大　　保

---

[9] 学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を(　)を付して記入すること。
（上記記載の題名はあくまで記入例である。）

[10] 学会学術雑誌等に受理された論文がまだ印刷公表されていないときには，その予定を記載すること。

[11] 掲載決定のものは記載し，投稿中で未確定のものを除く。

[12] 印刷公表には，インターネット公表を含む。

[13] 上記Ⅱ．以外の論文等。該当する場合に記載し，該当論文が無い場合は　なし　と記載すること。

[14] 申請年月日は空欄とすること。

[15] 自署またはワープロ書きした場合は押印すること。

様式　４

学 位 論 文

北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻〇〇〇〇コース

２０＊＊年度

様式　４[16]【記入例】申請者→教務

学 位 論 文

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　　on　　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

北　大　　保

北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻○○○○コース[17]

２０＊＊年度

---

[16] 仮製本提出時に，ファイル表紙に貼り付け，中表紙にも綴って提出すること。その際は「様式４」の標記は削ること。

[17] 専攻・コース名（保健科学コース又は看護学コース）のみを記入し，科目群（領域）は記入しないこと。

様式　５

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（　　学）　　氏名：

学位論文題名

様式　５【記入例】申請者→教務

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（○○学）　　　　　氏名：北　大　　保

学位論文題名
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
(××××××××××××××××)

　○○
○○…

※最長次頁までとする
※３,０００文字以内（英文の場合，８００ワード以内）
※学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。
※学位は博士（保健科学）または博士（看護学）と記載すること

様式　６

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

学院教務委員長

学位論文（博士論文）提出資格審査結果と審査委員候補者の推薦について（申請）

このことについて，本学院規定及び審査要項に基づき，学位論文を提出する資格があると認めましたので，下記のとおり学位論文審査委員の選定について，ご了承願います。

記

１．学位論文提出者

２．学位論文題名

３．学院教務委員会の所見

（１）提出資格について

申請者は，本学院規定１１条の規定に基づき，学位論文を提出するための資格があることを認める。

（２）その他（※特記事項）

４．学位論文審査委員候補者

主 査	副 査
副 査	副 査

様式　６【記入例】学院教務委員長→学院長

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

学院教務委員長
○　○　○　○

学位論文（博士論文）提出資格審査結果と審査委員候補者の推薦について（申請）

このことについて，本学院規定及び審査要項に基づき，学位論文を提出する資格があると認めましたので，下記のとおり学位論文審査委員の選定について，ご了承願います。

記

１．学位論文提出者　　ほく だい　北　大　　たもつ　保

２．学位論文題名（＊学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。）
Functional analysis of　○○○○　the　○○○　on　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

３．学院教務委員会の所見
（１）提出資格について
申請者は，本学院規定１１条の規定に基づき，学位論文を提出するための資格があることを認める。

（２）その他（※特記事項）
（※在学期間短縮による申請者については，優れた研究業績に関する審査結果について明記すること。）

４．学位論文審査委員候補者

主 査　教 授　保 健　一 郎	副 査　准教授　保 健　二 郎
副 査　教 授　保 健　三 郎	副 査　教 授　生 命　四 郎 （生命科学研究院）

様式　7

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査

学位論文（博士論文）の公開発表会開催日程通知書

このことについて，下記のとおり開催しますので，お知らせいたします。

記

日　　時：

場　　所：

発表者氏名：

論 文 題 名：

様式　7【記入例】主査→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査　　○　○　○　○

学位論文（博士論文）の公開発表会開催日程通知書

このことについて，下記のとおり開催しますので，お知らせいたします。

記

日　　時：平成○○年○○月○○日（○）　○○：○○ ～

場　　所：○○○○

発表者氏名：北　大　　保

論 文 題 名：（＊学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。）

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　on　○○○

（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

様式　8

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査　　㊞

学 位 論 文（博 士 論 文） 審 査 報 告 書

提出のありました学位論文審査及び試問・公開発表を終了しましたので，下記のとおり報告します。

記

１．学位論文提出者氏名

２．審査判定　　可　・　否

主査　（自筆，以下同様）

副査

副査

副査

３．提出書類

学位論文審査の要旨　　１部（教務担当に電子データを提出）

公開発表の状況　　１部

様式　８【記入例】主査→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査　　㊞

学 位 論 文（博 士 論 文） 審 査 報 告 書

提出のありました学位論文審査及び試問・公開発表を終了しましたので，下記のとおり報告します。

記

１．学位論文提出者氏名　　北　大　　保

２．審査判定　　（可）・　否

主査　（自筆，以下同様）

副査

副査

副査

３．提出書類

学位論文審査の要旨　　１部（教務担当に電子データを提出）

公開発表の状況　　１部

様式　９

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（　　学）　　氏名：

審査委員	主査
	副査
	副査
	副査

学位論文題名

様式　９【記入例】主査→教務

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（〇〇学）　　氏名：北　大　　保

審査委員	主査　教授	〇〇　〇〇
	副査　教授	〇〇　〇〇
	副査　教授	〇〇　〇〇
	副査　准教授	〇〇　〇〇

学位論文題名
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
（×××××××××××××××××××××××）

（*学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）に付して記入すること。）

（*審査の要旨は 2,000 字以内，A4 判 2 枚以内にまとめること。標準＝40～41 文字/行×45～47 行，文字ポイント 10.5 が望ましい。）

当審査は平成〇〇年〇〇月〇〇日実施の公開発表にて行われた。（出席者〇〇名）

近年，〇〇の〇〇に関する研究が盛んに行われている。しかし，その多くは〇〇と〇〇の〇〇を目的としており，〇〇の〇〇は未開拓の分野で，今後の発展が待たれている状況にある。

本論文は，このような現況にある〇〇〇〇について，〇〇を用いて，〇〇に関して〇〇的に研究し，

〇〇上の有益な〇〇を得ることを目的として〇〇したもので，〇〇〇〇～

（*学位論文の内容に即して，研究の成果に対する具体的評価を明記すること。）

（以　下　中　略）

これを要するに，著者は，〇〇について〇〇〇〇の新知見を得たものであり，〇〇に対して〇〇貢献するところ大なるものがある。
よって著者は，北海道大学博士（〇〇学）の学位を授与される資格あるものと認める。

様式　１０

学位論文（博士論文）公開発表の状況

審査委員主査

学位論文提出者氏名

［開催日時・出席者数］

［質疑・応答の内容等］

様式　１０【記入例】主査→教務

学位論文（博士論文）公開発表の状況

審査委員主査　○　○　○　○

学位論文提出者氏名

［開催日時・出席者数］

平成○○年○○月○○日　○○：○○～○○：○○

出席者数○○名

［質疑・応答の内容等］

（質疑・応答等，公開発表の内容について記載すること。）

様式　１１

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号，平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより，博士学位を授与された者は，その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。ただし，博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など，やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には，事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等，チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は，附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1)　□　他者に個人情報，著作権，肖像権その他，法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

□　当該他者に対し，①論文に含めること，②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は，指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は併せて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている，または現在投稿中の場合）

(2)　□　掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3)　□　投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み，大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4)　□　出版社との契約上，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

※出版後，出版日から起算して原則 10 年を上限に公表保留を延長できる。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5)　□　出願及び国内移転手続きのため，インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

様式　１１【記入例】申請者→教務

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号，平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより，博士学位を授与された者は，その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。ただし，博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など，やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には，事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等，チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は，附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1) ■ 他者に個人情報，著作権，肖像権その他，法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

□ 当該他者に対し，①論文に含めること，②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は，指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は併せて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている，または現在投稿中の場合）

(2) ■ 掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3) □ 投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み，大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4) □ 出版社との契約上，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

※出版後，出版日から起算して原則 10 年を上限に公表保留を延長できる。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5) □ 出願及び国内移転手続きのため，インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

申請者氏名　　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

様式　１２

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表について

私が執筆した博士論文の全文は，学位取得予定日より，インターネットの利用による公表が可能です。

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成　　年　　月　　日

指導教員確認欄	印

※自署の場合は押印不要

※　本様式は，論文申請書類と併せて提出して下さい。学位取得予定日にインターネット公表ができない場合は，状況に応じて様式１３または様式１４の提出が必要です。

様式　１２【記入例】申請者→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表について

私が執筆した博士論文の全文は，学位取得予定日より，インターネットの利用による公表が可能です。

申請者氏名　　北　大　　保　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成〇〇年〇〇月〇〇日

指導教員確認欄	〇〇　〇〇　　印

※自署の場合は押印不要

※　本様式は，論文申請書類と併せて提出して下さい。学位取得予定日にインターネット公表ができない場合は，状況に応じて様式１３または様式１４の提出が必要です。

様式　１３

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は、博士学位を授与された者はその授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで、次の事由により、博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので、博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち、公表保留の期間に上限が設けられている場合は、下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日、又は公表保留上限年数（以下、公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には、公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（様式 16）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

☐ 投稿済み、あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により、学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　投稿時期（　　）

☐ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　投稿予定時期（　　）

☐ 書籍として出版する予定があるため（５年上限、ただし実際に出版した場合は、出版日から起算して 10 年を上限とした公表保留延長が可能）。

（他者への権利帰属に関する事由）

☐ 博士論文が特定個人の情報を含むことで、インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が他者の著作物を含み、博士論文への掲載は認められたが、インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定）。

（特許・その他の事由）

☐ 特許や実用新案の申請との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により、明らかな不利益が学位取得予定日から１年を超えて生じるため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含むため（公表可能時期未定）。

☐ その他、やむを得ない特別な事由があるため（５年上限）。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

☐　平成　　年　　月　　日　　☐　未定

（※１で（公表可能時期未定）の記載がある項目を選択した場合のみ可）

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得(予定)日　平成　　年　　月　　日

指導教員確認欄 ※論文博士は不要	印

様式　１３【記入例】申請者→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は、博士学位を授与された者はその授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで、次の事由により、博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので、博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち、公表保留の期間に上限が設けられている場合は、下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日、又は公表保留上限年数（以下、公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には、公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（様式 16）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

■投稿済み、あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により、学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能)。
ジャーナル名（　　）　投稿時期（　　）

□ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能)。

ジャーナル名（　　）　投稿予定時期（　　）

□ 書籍として出版する予定があるため（５年上限、ただし実際に出版した場合は、出版日から起算して 10 年を上限とした公表保留延長が可能)。

（他者への権利帰属に関する事由）

□ 博士論文が特定個人の情報を含むことで､インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定)。

□ 博士論文が他者の著作物を含み、博士論文への掲載は認められたが、インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定)。

（特許・その他の事由）

□ 特許や実用新案の申請との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により、明らかな不利益が学位取得予定日から１年を超えて生じるため（公表可能時期未定)。

□ 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含むため（公表可能時期未定)。

□ その他、やむを得ない特別な事由があるため（５年上限)。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

□　平成○○年○○月○○日　　□　未定

（※１で（公表可能時期未定）の記載がある項目を選択した場合のみ可）

申請者氏名　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得(予定)日　平成　　年　　月　　日

指導教員確認欄 ※論文博士は不要	印

様式　１４

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は，下記公表可能日以降に，インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　平成　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成　　年　　月　　日

※　本様式は，学位取得予定日から１年以内の一定期間，公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

様式　１４【記入例】申請者→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は，下記公表可能日以降に，インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　平成○○年○○月○○日 以降

届出者氏名　　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成○○年○○月○○日

※　本様式は，学位取得予定日から１年以内の一定期間，公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

様式　１５

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について，下記公表可能日以降に，インターネットの利用による公表が可能となりましたので，届け出ます。

記

公表可能日：　平成　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成　　年　　月　　日

学位記番号

様式　１５【記入例】申請者→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について，下記公表可能日以降に，インターネットの利用による公表が可能となりましたので，届け出ます。

記

公表可能日：　平成〇〇年〇〇月〇〇日 以降

届出者氏名　　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成〇〇年〇〇月〇〇日

学位記番号　　〇〇〇〇〇

様式　１６

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は，博士論文全文の公表保留を申請していましたが，当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので，公表保留の延長を申請します。

なお，全文を公表できない事由が解消した際には，速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

☐ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済，あるいは投稿予定であり，当該学術ジャーナルの規定により，インターネット公表できない期間が継続するため。

（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名，投稿時期等を具体的に明記すること。

☐ 博士論文の内容を書籍として出版したため。　（出版日：平成　　年　　月　　日）

（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

平成　　年　　月　　日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

☐　平成　　年　　月　　日

☐　未定（著作権が出版社に譲渡され，公表の合意が得られない場合のみ選択可）

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成　　年　　月　　日

学位記番号

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　　印

※自署の場合は押印不要

様式　１６【記入例】申請者→教務

平成〇〇年〇〇月〇〇日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は，博士論文全文の公表保留を申請していましたが，当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので，公表保留の延長を申請します。

なお，全文を公表できない事由が解消した際には，速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

■ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済，あるいは投稿予定であり，当該学術ジャーナルの規定により，インターネット公表できない期間が継続するため。

（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名，投稿時期等を具体的に明記すること。 〇〇〇〇　投稿時期　平成〇〇年〇〇月〇〇日

□ 博士論文の内容を書籍として出版したため。　（出版日：平成　　年　　月　　日）

（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

平成〇〇年〇〇月〇〇日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

■　平成〇〇年〇〇月〇〇日

□　未定（著作権が出版社に譲渡され，公表の合意が得られない場合のみ選択可）

申請者氏名　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成〇〇年〇〇月〇〇日

学位記番号　　〇〇〇〇

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　　印

※自署の場合は押印不要

論文提出による学位申請者の学位論文審査要項

平成２４年４月１９日
保健科学院教授会決定

北海道大学大学院保健科学院（以下「本学院」という。）における論文提出による学位論文（博士論文）審査は，北海道大学大学院通則関係諸規程に基づき，この要項の定めるところによる。

１．学位論文の提出資格

学位論文を提出できる者は，次のいずれかに該当する者とする。

（１）修士の学位を取得後（医・歯・薬・獣医学等，６年制の学部課程を経た者は卒業後），５年以上の研究歴を有する者。

（２）大学卒業後（大学卒の資格審査を受けた者は学士を取得後），８年以上の研究歴を有する者。

（３）その他本学院教授会（以下「教授会」という。）において，前各号と同等以上と認める研究歴を有する者。

２．研究歴の条件

前項における研究歴とは，次に該当する期間とする。

（１）大学の専任教員，特任教員，専任研究員として研究に従事した期間

（２）大学院を退学した者は，大学院に在学した期間

（３）本学大学院保健科学研究院の研究生として在学した期間

（４）教授会の認める研究機関において専任職員として研究に従事した期間

（５）教授会が前各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間

３．学位の授与申請

学位の授与を申請する者は，本学院専任教員（再雇用教員を含む）を通じ（以下「申請教員」という。）学院長を経由して，所定の手続きにより総長に学位論文を提出しなければならない。学位論文は単著とし，申請者が筆頭著者の原著論文（別刷又はコピー）を３編以上（少なくとも１編は英文誌に掲載された英文論文とする）添付するものとする。

４．学位論文の体裁

学位論文の体裁は次のとおりとする。

（１）学位論文は，日本文又は英文とし，Ａ４判縦長に表紙（様式４）を付け，左綴じとする。

（２）学位論文内容の要旨（様式５）は，３，０００字以内の日本文，もしくは，８００ワード以内の英文とする。

（３）学位論文内容の要旨（本文）は，１０．５ポイント程度のＭＳ明朝体にて１ページあたり４０字４０行程度を目安として作成する（学位論文を英文で作成する場合は，１２ポイント程度の Times New Roman 体でダブルスペースとする）。なお，各ページの下中央にはページ数（- X -）を付す。

（４）学位論文等は，目次を付し，以下，要約，緒言，対象と方法，結果，考察，結論，謝辞，文献などの順に構成し，最後に業績リスト（著書，学術論文，総説・解説，学会発表，その他）を添付すること。図表は末尾にまとめるのではなく，論文中に挿入すること。目次には図表についての記載は不要とする。

５．資格審査

学位論文提出者の提出資格について，学院教務委員会において審査し，論文提出の可否を決定する。

なお，審査項目は次のとおりとする。

（１）研究歴

（２）印刷公表と学位論文

ア．学位論文に添付された，申請者が筆頭の原著論文（別刷又はコピー添付）が適正であるか

① 掲載論文が学位論文の内容に即し，過去８年以内に掲載された（あるいは掲載が確約されている）論文３編以上であること（少なくとも１編は英文誌に掲載された英文論文とする）

② 掲載誌がしっかりとした査読制のある学会学術誌（Web ジャーナルを含む）または権威ある学術雑誌であること

イ．申請された学位論文が適正であるか

① 申請者による単著であること

② 「４．学位論文の体裁」に則り，適切に作成されていること

６．審査委員の選出

審査は，博士後期課程の研究指導科目を担当する教員から選出された主査１名と副査３～４名によって行なわれる。主査は，本学院博士後期課程において主任指導教員となりうる教授に限る。なお，添付論文の共著者となっている場合は主査となることはできない。また，副査には最低１名以上の教授を入れるものとする。主査は，学位論文審査や審査報告書の作成など中心的な役割を担う。なお，審査上必要と認められる場合には，副査の２名までを，本学の他研究科・学院又は研究所等の教授又は准教授，あるいは他大学の教授又は准教授とすることができる。

申請教員は，審査委員が決定される教授会の１０日前までに，審査委員候補者を学院教務委員長に推薦する。審査委員は，学院教務委員長が提出する様式６の審査委員候補者を参考にして，教授会が決定する。

７．学位論文の審査及び試験

審査委員は，学位論文の審査を行うと共に，学位論文提出者に対して，論文内容とそれに関連する専門知識についての口頭試問を行なうものとする。また，学位論文提出者は，本学院の認める語学試験（英語）を受験しなければならない。ただし，外国人（在日外国人を除く。）については，英語及び日本語の語学試験とする。

８．学位授与時期と公開発表

論文提出による学位授与の時期は，６月と１２月とする。教授会は，学院教務委員会において資格審査を可とされた者に対し学位論文の内容について審査委員の出席のもとに公開発表を求めるものとする。

（１）公開発表時期：原則として，次項に定める審査委員が決定する月の末日までに行う。

（２）発表日の連絡： 当該論文の審査委員の主査は，発表日時等を様式７により発表日の１０日前までに学院長へ通知する。

（３）発表日の通知： 学院長は，公開発表の日時，場所，発表者の氏名，論文題名等を本学院の科目群（領域）等へ通知すると共に公開掲示板に掲示する。

（４）発表時間： 質疑・応答を含め１題あたり５０分以内とする。

（５）司会・進行： 当該審査委員の主査が行う。

（６）配布資料： 発表における配布資料は，発表者が用意・配布する。

（７）発表状況報告： 公開発表時における出席者数及び質疑・応答の内容等について，主査が取りまとめ，学位論文審査結果の報告時に学院長へ文書（様式１０）で報告する。

９．審査の報告

審査委員の主査は，公開発表会終了後，協議の上，速やかに「審査報告書（様式８）」を「審査の概要（様式９－１）」「審査の要旨（様式９－２）」「公開発表の状況（様式１０）」と共に，学院長に提出する。

また，学院長は，主査から報告のあった「審査の概要」及び「審査の要旨」を学位授与の可否を決定する教授会開催日の１週間前までに，教授会構成員に配布する。

１０．学位授与の決定

教授会は，審査の概要に基づき，学位授与の可否について審議・議決する。この審議にあたっては，教授会構成員の３分の２以上の出席を必要とし，学位を授与できるものと議決するには，出席した構成員の３分の２以上の賛成がなければならない。

１１．総長へ報告

学院長は，上記１０で決定した者を学位論文とともに所定様式により総長へ報告する。

１２．学位論文の公表

学位を授与された者は，学位授与日から１年以内に，当該学位論文全文（やむを得ない事由があるときは当該学位論文を要約したもの）をインターネットにより公表しなければならない。

１３．その他

この要項の定めるものの他，必要な事項は教授会の議を経て学院長が別に定める。

附　則

この要項は，平成２５年４月１日から実施する。

附　則

この要項は，平成２５年１０月２４日から実施する。

附　則

この要項は，平成２８年２月１９日から実施する。

附　則

この要項は，平成２８年８月１８日から実施する。

附　則

この要項は，平成２９年２月１６日から実施する。

附　則

この要項は，平成３０年３月１５日から実施する。

様式　1

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

申請教員

㊞

学位論文（博士論文）提出者の提出資格審査申請書

下記の学位論文について，提出者の提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

１．学位論文提出者

ふりがな
氏　　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ローマ字表記）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２．学位論文題名

３．添付原著論文
（１）題名：
著者名：
掲載学術雑誌：

（２）題名：
著者名：
掲載学術雑誌：

（３）題名：
著者名：
掲載学術雑誌：

様式　1【記入例】申請教員→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

申請教員

○　○　○　○　　㊞

学位論文（博士論文）提出者の提出資格審査申請書

下記の学位論文について，提出者の提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

１．学位論文提出者

ふりがな　　ほくだい　　たもつ
氏　　名　　北　大　　保　　（ローマ字表記）　Tamotsu HOKUDAI

２．学位論文題名

（※学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。）

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　　on　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

３．添付原著論文

（１）題名：Development of ○○○○ for ○○○○ ○○○○ ○○○○.
著者名：著者名１，著者名２，･･･
掲載学術雑誌：○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (20○○年○月公表)

（２）題名：○○に関する○○○の検討
著者名：著者名１，著者名２，･･･
掲載学術雑誌：○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (20○○年○月公表)

（３）題名：Characteristics of ○○○○ with ○○○○ ○○○○ ○○○○.
著者名：著者名１，著者名２，･･･
掲載学術雑誌：○○誌, Vol.○, No.○○, pp.○○-○○ (in press, 20○○年○月公表予定)

様式　２－１

学　　位　　申　　請　　書

貴学学位規程第 4 条第 1 項の規定により学位論文，論文題目，履歴書及び学位審査手数料　　円を添え博士（　　学）の学位の授与を申請いたします。

平成　　年　　月　　日

氏　名（自署）

北　海　道　大　学　総　長　　殿

様式　２－１【記入例】申請者→教務

学　　位　　申　　請　　書

貴学学位規程第 4 条第 1 項の規定により学位論文，論文題目，履歴書及び学位審査手数料〇〇〇〇〇[1]円を添え博士（〇〇学）の学位の授与を申請いたします。

平成　　年　　月　　日　　（※申請年月日は空欄とすること。）

氏　名（自署）　北　大　　保

北　海　道　大　学　総　長　　殿

[1] 本学の卒業生若しくは大学院生であった者又は国立大学法人北海道大学の職員若しくは職員であった者は，90，000 円，それ以外の者は，180，000 円を記入し，指定の振込票にて払込むこと。

様式　２－２

履　　歴　　書

本　　籍
現 住 所

ふり　がな
氏　　名
昭和・平成　　年　　月　　生

学　　歴

職　　歴

研 究 歴

賞　　罰

上 記 の と お り 相 違 あ り ま せ ん。

平成　　年　　月　　日

学位申請者

様式　２－２【記入例】申請者→教務

履　　歴　　書

本　　籍　　○○ 県[2]
現 住 所　　札幌市○○区○○条○○丁目○の○○

ふり　がな　　ほく　だい　　たもつ
氏　　名　　北　大　　保
昭和○○年○○月○○日生

学　　歴[3]

平成○○年３月３１日	○○県立○○○○高等学校　卒業
平成○○年４月　１日	北海道大学医学部保健学科　入学
平成○○年３月３１日	同　上　卒業
平成○○年４月　１日	○○大学大学院○○○研究科△△専攻修士課程　入学
平成○○年３月３１日	同　上　修了

職　　歴[4]

平成○○年４月　１日	株式会社◎◎◎◎に　入社
平成○○年１０月１日	同社△△△△研究部に　配属
平成○○年３月３１日	同　上　退社
平成○○年４月　１日	○○県立○○○研究所に　入所
平成○○年１２月１日	○○県立○○○保健部に　異動
	現在に至る

研 究 歴[5]　　平成○○年４月１日～平成○○年１０月１日
△△大学大学院○○○学研究科□□専攻修士課程において，◎◎◎に関する研究に従事
平成○○年４月１日～平成○○年３月３１日
株式会社◎◎◎◎研究所において，□□□に関する研究に従事
平成○○年４月１日～現在
北海道大学大学院保健科学研究院において，研究生として◇◇◇に関する研究に従事

賞　　罰
平成○○年○○月○○日　　論文「○○○○○○○○○○」により，○○国○○学会から「○○○○年度◎◎◎◎賞」を受賞

上 記 の と お り 相 違 あ り ま せ ん。

平成　　年　　月　　日[6]
学位申請者[7]　　北　大　　保

---

[2] 都道府県のみ記載すること。外国籍は国籍を記入すること。
[3] 研究生・聴講生の期間については学歴に記入しないこと。研究生の期間は研究歴に記入すること。
[4] 現在の職を必ず記入すること。非常勤の職は記入しないこと。同一部署の昇給等を記入しないこと。
[5] 会社・研究所等の研究歴の他，修士課程修了者は出身大学大学院修士課程における研究歴も記入すること。
[6] 申請年月日は空欄とすること。
[7] 自署又はワープロ書きした場合は押印すること。

様式　２－３

共　著　論　文　使　用　同　意　書

下記の論文は，　　氏と私との共著であり，当該論文は同氏が主体の研究であったため，同氏の学位申請にあたり学位論文に含めることに同意いたします。

なお，私は当該論文を，博士の学位申請のための主論文として使用しないことを申し立てます。

記

共著者

論文題目

発表雑誌

平成　　年　　月　　日

氏　名（自署）

様式　２－３【記入例】申請者→教務　該当者のみ提出

共　著　論　文　使　用　同　意　書

　下記の論文は，　北　大　　保　氏と私との共著であり，当該論文は同氏が主体の研究であったため，同氏の学位申請にあたり学位論文に含めることに同意いたします。

　なお，私は当該論文を，博士の学位申請のための主論文として使用しないことを申し立てます。

記

共著者　　○○　○○

論文題目　○○○○○○○○○○

発表雑誌　○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp,○○-○○（20○○年○月公表）

平成　　年　　月　　日

氏　名（自署）　○○　○○

様式　２－４

研　究　歴　証　明　書

氏　名
昭和　　年　　月　　日生

上記の者，下記のとおり研究に従事していた（又は，従事している）ことを

証明する。

記

研究従事期間
自　昭和・平成　　年　　月　　日
至　昭和・平成　　年　　月　　日

研究従事機関

研究身分・職種

研究題目

平成　　年　　月　　日

印

様式　２－４【記入例】申請者→教務

研　究　歴　証　明　書

氏　名　北　大　　保
昭和〇〇年〇〇月〇〇日生

上記の者，下記のとおり研究に従事していた（又は，従事している）ことを

証明する。

記

研究従事期間
自　昭和・平成　××　年　〇〇　月　〇〇　日
至　昭和・平成　△△　年　〇〇　月　〇〇　日

研究従事機関
〇〇株式会社〇〇研究所〇〇研究室

研究身分・職種
〇〇研究室研究員及び研究室長

研究題目
〇〇〇〇〇〇に関する研究

平成　　年　　月　　日

〇〇株式会社〇〇研究所
所長　　××　××　　印

様式　３

論　文　目　録

学位論文題目

原著論文題目

１．

２．

３．

平成　　年　　月　　日

学位申請者

様式　３【記入例】申請者→教務

論　文　目　録

学位論文題目

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　　on　　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

原著論文題目

1. Development of ○○○○ for ○○○○ ○○○○ ○○○○.
　　著者名１，著者名２，・・・
　　○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (20○○年公表)

2. Characteristics of ○○○○ with ○○○○ ○○○○ ○○○○.
　　Author１，Author２，・・・
　　○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (in press, 20○○年公表予定)

3. ○○○○ with ○○○○ ○○○○ ○○○○.
　　Author１，Author２，・・・
　　○○○○誌, Vol.○○, No.○○, pp.○○-○○ (20○○年公表)

平成　　年　　月　　日 [8]

学位申請者 [9]　　北　大　　保

[8] 申請年月日は空欄とすること。
[9] 自署又はワープロ書きした場合は押印すること。

様式　4

学　位　論　文

北海道大学大学院保健科学院

２０＊＊年度

様式　４[10]【記入例】申請者→教務

学　位　論　文

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　　on　　○○○
（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

北　大　　保

北海道大学大学院保健科学院

２０＊＊年度

[10] 仮製本提出時に，ファイル表紙に貼り付け，中表紙にも綴って提出すること。その際は「様式４」の標記は削ること。

様式　５

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（　　学）　　氏名：

学位論文題名

様式　５【記入例】申請者→教務

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（〇〇学）　　　　　氏名：北　大　　保

学位論文題名
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
(××××××××××××××××)

〇〇〇…

※最長次頁までとする
※３,０００文字以内（英文の場合，８００ワード以内）
※学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。
※学位は博士（保健科学）または博士（看護学）と記載すること

様式　６

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

学院教務委員長

学位論文（博士論文）提出資格審査結果と審査委員候補者の推薦について（申請）

このことについて，本学院規定及び審査要項に基づき，学位論文を提出する資格があると認めましたので，下記のとおり学位論文審査委員の選定について，ご了承願います。

記

１．学位論文提出者

２．学位論文題名

３．学院教務委員会の所見

（提出資格について）

申請者は，北海道大学大学院通則第５章の規程および本学院の審査要項に基づき，学位論文を提出するための資格があることを認める。

学位論文に添付した原著学術論文：

１）筆頭論文　　編

２）参考論文　　編

４．学位論文審査委員候補者

主 査　　副 査

副 査　　副 査

副 査

様式　６【記入例】学院教務委員長→学院長

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

学院教務委員長
○　○　○　○

学位論文（博士論文）提出資格審査結果と審査委員候補者の推薦について（申請）

このことについて，本学院規定及び審査要項に基づき，学位論文を提出する資格があると認めましたので，下記のとおり学位論文審査委員の選定について，ご了承願います。

記

１．学位論文提出者　　ほく だい　北　大　　たもつ　保

２．学位論文題名　（＊学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。）

Functional analysis of　○○○○　the　○○○　on　○○○

（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

３．学院教務委員会の所見

（提出資格について）

申請者は，北海道大学大学院通則第５章の規程および本学院の審査要項に基づき，学位論文を提出するための資格があることを認める。

学位論文に添付した原著学術論文：

１）筆頭論文＊＊編

２）参考論文＊＊編

４．学位論文審査委員候補者

主 査　教 授　保 健　一 郎　　副 査　准教授　保 健　二 郎

副 査　教 授　保 健　三 郎　　副 査　教 授　保 健　四 郎

副 査　准教授　生 命　五 郎（生命科学研究院）

様式　7

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査

学位論文（博士論文）の公開発表会開催日程通知書

このことについて，下記のとおり開催しますので，お知らせいたします。

記

日　　時：

場　　所：

発表者氏名：

論 文 題 名：

様式　7【記入例】主査→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査

学位論文（博士論文）の公開発表会開催日程通知書

このことについて，下記のとおり開催しますので，お知らせいたします。

記

日　　時：平成○○年○○月○○日（○）　○○：○○ ～

場　　所：○○○○

発表者氏名：北　大　　保

論 文 題 名：（＊学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）を付して記入すること。）

Functional analysis of　○○○○　　the　○○○　on　○○○

（□□□ に作用する □□□□ の □□□□□ の機能解析）

様式　８

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査　　印

学 位 論 文（博 士 論 文） 審 査 報 告 書

提出のありました学位論文審査及び試問・公開発表を終了しましたので，下記のとおり報告します。

記

１．学位論文提出者氏名

２．審査判定　　可　・　否

主査　（自筆，以下同様）

副査

副査

副査

副査

３．提出書類

学位論文審査の概要　　１部
学位論文審査の要旨　　１部（教務担当に電子データを提出）
公開発表の状況　　１部

様式　８【記入例】主査→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

審査委員主査　　○○　○○　　印

学 位 論 文（博 士 論 文） 審 査 報 告 書

提出のありました学位論文審査及び試問・公開発表を終了しましたので，下記のとおり報告します。

記

１．学位論文提出者氏名　　北　大　　保

２．審査判定　　（可）・　否

主査　（自筆，以下同様）

副査

副査

副査

副査

３．提出書類

学位論文審査の概要　　１部
学位論文審査の要旨　　１部（教務担当に電子データを提出）
公開発表の状況　　１部

様式　９－１

学 位 論 文 審 査 の 概 要

博士の専攻分野の名称：博士（　　学）　　氏名：

	主査
	副査
審査委員	副査
	副査
	副査

［学位論文題名］

［審査の概要］

様式　９－１【記入例】主査→教務

学 位 論 文 審 査 の 概 要

博士の専攻分野の名称：博士（　　学）　　氏名：

審査委員	主査	教授	○○　○○
	副査	教授	○○　○○
	副査	教授	○○　○○
	副査	准教授	○○　○○
	副査	教授	○○　○○（生命科学研究院）

（＊（　）は，本学院担当教員以外の場合に記載する。なお，本学教員の場合は，「○○学院（研究科）」のみ記載すること。）（＊審査の概要は 800 字以内，Ａ４判１頁以内にまとめること。標準＝40～41 文字／行×45～47 行）

［学位論文題名］

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（×××××××××××××××××××××××）

［審査の概要］

論文要旨 枠線は不要（以下，同様）
質問内容：誰が何を質問したか等
質問に対する対応等
本研究により何が期待されるか，示唆されるか等
判定

様式　９－２

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（　　学）　　氏名：

	主査
	副査
審査委員	副査
	副査
	副査

学位論文題名

様式　９－２【記入例】主査→教務

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（〇〇学）　　氏名：北　大　　保

	主査	教授	〇〇　〇〇
	副査	教授	〇〇　〇〇
審査委員	副査	教授	〇〇　〇〇
	副査	准教授	〇〇　〇〇
	副査	教授	〇〇　〇〇（生命科学研究院）

学位論文題名

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

（×××××××××××××××××××××××）

（*学位論文題名が外国語で表示されている場合には，日本語訳を（　）に付して記入すること。）

（*審査の要旨は 2,000 字以内，A4 判 2 枚以内にまとめること。標準＝40～41 文字/行×45～47 行，文字ポイント 10.5 が望ましい。）

当審査は平成〇〇年〇〇月〇〇日実施の公開発表にて行われた。（出席者〇〇名）

近年，〇〇の〇〇に関する研究が盛んに行われている。しかし，その多くは〇〇と〇〇の〇〇を目的としており，〇〇の〇〇は未開拓の分野で，今後の発展が待たれている状況にある。

本論文は，このような現況にある〇〇〇〇について，〇〇を用いて，〇〇に関して〇〇的に研究し，

〇〇上の有益な〇〇を得ることを目的として〇〇したもので，〇〇〇〇～

（*学位論文の内容に即して，研究の成果に対する具体的評価を明記すること。）

（以　下　中　略）

これを要するに，著者は，〇〇について〇〇〇〇の新知見を得たものであり，〇〇に対して〇〇貢献するところ大なるものがある。

よって著者は，北海道大学博士（〇〇学）の学位を授与される資格あるものと認める。

様式　１０

学位論文（博士論文）公開発表の状況

審査委員主査

学位論文提出者氏名

［開催日時・出席者数］

［質疑・応答の内容等］

様式　１０【記入例】主査→教務

学位論文（博士論文）公開発表の状況

審査委員主査　○　○　○　○

学位論文提出者氏名　　北　大　　保

［開催日時・出席者数］

平成○○年○○月○○日　○○：○○～○○：○○

出席者数○○名

［質疑・応答の内容等］

（質疑・応答等，公開発表の内容について記載すること。）

様式　１１

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号，平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより，博士学位を授与された者は，その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。ただし，博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など，やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には，事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等，チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は，附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1)　□　他者に個人情報，著作権，肖像権その他，法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

□　当該他者に対し，①論文に含めること，②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は，指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は併せて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている，または現在投稿中の場合）

(2)　□　掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3)　□　投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み，大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4)　□　出版社との契約上，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

※出版後，出版日から起算して原則 10 年を上限に公表保留を延長できる。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5)　□　出願及び国内移転手続きのため，インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

様式　１１【記入例】申請者→教務

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号，平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより，博士学位を授与された者は，その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。ただし，博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など，やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には，事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等，チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は，附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1)　■　他者に個人情報，著作権，肖像権その他，法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

□　当該他者に対し，①論文に含めること，②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は，指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は併せて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている，または現在投稿中の場合）

(2)　■　掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3)　□　投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み，大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4)　□　出版社との契約上，学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

※出版後，出版日から起算して原則 10 年を上限に公表保留を延長できる。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5)　□　出願及び国内移転手続きのため，インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」，②１年を超える場合は，「公表保留承認申請書」を提出すること。

申請者氏名　　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

様式　１２

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表について

私が執筆した博士論文の全文は，学位取得予定日より，インターネットの利用による公表が可能です。

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成　　年　　月　　日

申請教員確認欄	印

※自署の場合は押印不要

※　本様式は，論文申請書類と併せて提出して下さい。学位取得予定日にインターネット公表ができない場合は，状況に応じて様式１３または様式１４の提出が必要です。

様式　１２【記入例】申請者→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表について

私が執筆した博士論文の全文は，学位取得予定日より，インターネットの利用による公表が可能です。

申請者氏名　　北　大　　保　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成○○年○○月○○日

申請教員確認欄	○○　○○　　印

※自署の場合は押印不要

※　本様式は，論文申請書類と併せて提出して下さい。学位取得予定日にインターネット公表ができない場合は，状況に応じて様式１３または様式１４の提出が必要です。

様式　１３

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は，博士学位を授与された者はその授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで，次の事由により，博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので，博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお，全文を公表できない事由が解消した際には，速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち，公表保留の期間に上限が設けられている場合は，下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日，又は公表保留上限年数（以下，公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には，公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（様式１６）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

☐ 投稿済み，あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により，学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限，ただし１年毎の延長が可能)。

ジャーナル名（　　）　投稿時期（　　）

☐ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限，ただし１年毎の延長が可能)。

ジャーナル名（　　）　投稿予定時期（　　）

☐ 書籍として出版する予定があるため（５年上限，ただし実際に出版した場合は，出版日から起算して 10 年を上限とした公表保留延長が可能)。

（他者への権利帰属に関する事由）

☐ 博士論文が特定個人の情報を含むことで，インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定)。

☐ 博士論文が他者の著作物を含み，博士論文への掲載は認められたが，インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定)。

（特許・その他の事由）

☐ 特許や実用新案の申請との関係で，インターネットの利用による博士論文の全文の公表により，明らかな不利益が学位取得予定日から１年を超えて生じるため（公表可能時期未定)。

☐ 博士論文が，立体形状による表現を含む等の理由により，インターネットの利用により公表することができない内容を含むため（公表可能時期未定)。

☐ その他，やむを得ない特別な事由があるため（５年上限)。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

☐ 平成　　年　　月　　日　　☐ 未定

（※１で（公表可能時期未定）の記載がある項目を選択した場合のみ可）

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得(予定)日　平成　　年　　月　　日

指導教員確認欄 ※論文博士は不要	印

様式　１３【記入例】申請者→教務

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は，博士学位を授与された者はその授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで，次の事由により，博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので，博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお，全文を公表できない事由が解消した際には，速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち，公表保留の期間に上限が設けられている場合は，下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日，又は公表保留上限年数（以下，公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には，公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（様式１６）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

■ 投稿済み，あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により，学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限，ただし１年毎の延長が可能)。

ジャーナル名（　○○○○　　）　投稿時期（　平成○○年○○月○○日　）

□ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限，ただし１年毎の延長が可能)。

ジャーナル名（　　）　投稿予定時期（　　）

□ 書籍として出版する予定があるため（５年上限，ただし実際に出版した場合は，出版日から起算して 10 年を上限とした公表保留延長が可能)。

（他者への権利帰属に関する事由）

□ 博士論文が特定個人の情報を含むことで，インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定)。

□ 博士論文が他者の著作物を含み，博士論文への掲載は認められたが，インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定)。

（特許・その他の事由）

□ 特許や実用新案の申請との関係で，インターネットの利用による博士論文の全文の公表により，明らかな不利益が学位取得予定日から１年を超えて生じるため（公表可能時期未定)。

□ 博士論文が，立体形状による表現を含む等の理由により，インターネットの利用により公表することができない内容を含むため（公表可能時期未定)。

□ その他，やむを得ない特別な事由があるため（５年上限)。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

■　平成○○年○○月○○日　　□　未定

（※１で（公表可能時期未定）の記載がある項目を選択した場合のみ可）

申請者氏名　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得(予定)日　平成○○年○○月○○日

指導教員確認欄 ※論文博士は不要	○○　○○　　印

様式　１４

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は，下記公表可能日以降に，インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　平成　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　平成　　年　　月　　日

※　本様式は，学位取得予定日から１年以内の一定期間，公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

様式　１４【記入例】申請者→教務　該当者のみ提出

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は，下記公表可能日以降に，インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　平成〇〇年〇〇月〇〇日 以降

届出者氏名　　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　　平成〇〇年〇〇月〇〇日

※　本様式は，学位取得予定日から１年以内の一定期間，公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

様式　１５

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について，下記公表可能日以降に，インターネットの利用による公表が可能となりましたので，届け出ます。

記

公表可能日：　平成　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成　　年　　月　　日

学位記番号

様式　１５【記入例】申請者→教務　該当者のみ提出

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について，下記公表可能日以降に，インターネットの利用による公表が可能となりましたので，届け出ます。

記

公表可能日：　平成〇〇年〇〇月〇〇日 以降

届出者氏名　　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成〇〇年〇〇月〇〇日

学位記番号　　〇〇〇〇〇

様式　１６

平成　　年　　月　　日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は，博士論文全文の公表保留を申請していましたが，当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので，公表保留の延長を申請します。

なお，全文を公表できない事由が解消した際には，速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

☐ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済，あるいは投稿予定であり，当該学術ジャーナルの規定により，インターネット公表できない期間が継続するため。

（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名，投稿時期等を具体的に明記すること。

☐ 博士論文の内容を書籍として出版したため。　（出版日：平成　　年　　月　　日）

（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

平成　　年　　月　　日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

☐　平成　　年　　月　　日

☐　未定（著作権が出版社に譲渡され，公表の合意が得られない場合のみ選択可）

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成　　年　　月　　日

学位記番号

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　　印

※自署の場合は押印不要

様式　１６【記入例】申請者→教務

平成〇〇年〇〇月〇〇日

保 健 科 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は，博士論文全文の公表保留を申請していましたが，当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので，公表保留の延長を申請します。

なお，全文を公表できない事由が解消した際には，速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

■ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済，あるいは投稿予定であり，当該学術ジャーナルの規定により，インターネット公表できない期間が継続するため。

（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名，投稿時期等を具体的に明記すること。 〇〇〇〇　投稿時期　平成〇〇年〇〇月〇〇日

☐ 博士論文の内容を書籍として出版したため。　（出版日：平成　　年　　月　　日）

（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

平成〇〇年〇〇月〇〇日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

■　平成〇〇年〇〇月〇〇日

☐　未定（著作権が出版社に譲渡され，公表の合意が得られない場合のみ選択可）

申請者氏名　北　大　　保　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　　平成〇〇年〇〇月〇〇日

学位記番号　　〇〇〇〇

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　　印

※自署の場合は押印不要

北海道大学大学院保健科学院教務委員会内規

平成 20 年４月３日
制　　定

（設置）

第１条　北海道大学大学院保健科学院（以下「本学院」という。）に大学院保健科学院教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項について審議する。

(1)　本学院のカリキュラムに関すること。

(2)　本学院学生の教育・研究指導に関すること。

(3)　修士及び博士の学位授与に関すること。

(4)　本学院の入学者選抜に関すること。

(5)　その他本学院の教務に関すること。

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

(1)　保健科学院副学院長（以下「副学院長」という。）

(2)　各科目群（領域）を担当する教授，准教授又は講師（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員のうち，特任教授，特任准教授及び特任講師の職にある者を含む。）　各１名

(3)　その他保健科学院長が必要と認めた者　若干名

（任期）

第４条　前条の委員の任期は，２年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は，再任されることができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置く。

２　委員長は，副学院長とする。

３　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

４　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員が，その職務を代行する。

（議事）

第６条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

２　委員会の議事は，出席委員の過半数をもって決するものとする。

（専門委員会）

第７条　委員会に専門事項を審議又は調査するため，必要に応じて専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会の組織及び運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

（委員以外の者の出席）

第８条　委員会が必要と認めたときは，委員会に委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。

（庶務）

第９条　委員会の庶務は，医学系事務部が行う。

（雑則）

第10条　この内規に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

附　則

この内規は，平成 20 年４月３日から施行し，平成 20 年４月１日から適用する。

附　則

この内規は，平成 23 年４月 21 日から施行し，平成 23 年４月１日から適用する。

北海道大学大学院保健科学院の指導教員及び研究指導に関する申合せ

平成２９年２月１６日
学　院　教　授　会

（趣旨）

第１条　この申合せは，北海道大学大学院保健科学院規程（平成 20 年４月１日海大達第 85 号，以下「学院規程」という。）第 10 条及び第 11 条の規定による北海道大学大学院保健科学院（以下「本学院」という。）の修士課程又は博士後期課程（以下「博士課程」という。）の修了に関し，指導教員及び研究指導について必要な事項を定めるものとする。

（指導教員）

第２条　指導教員は，本学院の専任教員（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員を含む。以下同じ。）及び大学院連携分野教員とし，博士課程の修了に関して，学院規程第８条及び別表に規定される研究指導科目を担当するとともに，大学院生に対して，必要な研究指導を行うものとする。

２　主任指導教員及び副指導教員は，指導教員から選出されるものとする。

３　主任指導教員は，大学院生の受け入れを行い，大学院生の履修科目，履修方法並びに研究方法等の指導を主体的に行う者とする。

４　主任指導教員となることのできる者は，本学院の教授，准教授又は大学院連携分野教員とし，大学院教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であり，原則として，博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。以下同じ。）を有するものとする。

５　副指導教員は，主任指導教員が受け入れた大学院生の履修科目，履修方法並びに研究方法等の指導を行うものとする。

６　副指導教員となることのできる者は，大学院教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であり，原則として，博士の学位を有するものとする。ただし，講師及び助教については，次条による副指導教員の資格審査を経て，副指導教員の資格を確認できた者とする。

（副指導教員の資格審査）

第３条　領域責任者は，副指導教員の資格を取得させようとする者（以下「資格審査対象者」という。）について，次に掲げる書類を，大学院保健科学院長（以下「学院長」という。）に提出するものとする。

（１）副指導教員の資格審査申請書（別紙様式第１号）
（２）教育研究業績書（別紙様式第２号）
（３）教員採用基準計算書（別記様式）

２　前項において資格審査対象者とすることができる者は，講師及び助教とする。

３　学院長は，第１項により申請があった場合は，「大学院保健科学研究院教員候補者選考に係る任用ガイドライン」（平成 30 年２月 15 日一部改正（平成 30 年４月１日適用））に規定される准教授以上の教員採用基準を満たすことを確認したうえで，学院教授会に審査を委託するものとする。

４　学院長は，前項による審査の結果を，別紙様式第３号及び別紙様式第４号により領域責任者及び資格審査対象者に通知するものとする。

（指導教員の決定）

第４条　主任指導教員は，博士課程の１年次１学期末までに学院教授会において決定されるものとする。

２　副指導教員は，研究指導を受けようとする大学院生との合意に基づき，指導教員から２名を上限として選出され，博士課程の１年次終了時までに学院教授会において決定されるものとする。

３　前項において，２年次以降に副指導教員を追加する必要が生じた場合は，副指導教員として担当する研究指導の期間が１年以上となる場合に限り，学院教授会の承認に基づき，これを認めることができるものとする。

（修士課程の研究指導）

第５条　指導教員は，大学院生に対して適切な研究指導を行い，随時又は定期的にその修学状況を確認するものとする。

２　主任指導教員は，大学院生に対して修士課程の１年次終了時までに修士論文又は特定課題研究報告書（以下「学位論文等」という。）におけるテーマの決定及び研究計画書の作成を指導するものとし，学位論文等を学院長に提出させるものとする。

３　指導教員は，原則として，学位論文等の提出の６箇月前までに研究成果の中間報告会を開催するものとし，大学院生に対して，研究方法等における助言及び指導をするものとする。

４　前項の中間報告会は，受け入れた大学院生毎，又は複数の大学院生に対して合同で実施するものとする。

５　主任指導教員は，学位論文等の提出前までに学位論文等の予備審査を行うものとする。

（博士後期課程の研究指導）

第６条　指導教員は，大学院生に対して適切な研究指導を行い，随時又は定期的に修学状況を確認するものとする。

２　主任指導教員は，大学院生に対して博士後期課程の１年次終了時までに学位論文（博士課程）（以下「学位論文」という。）におけるテーマの決定及び研究計画書の作成を指導するものとし，学位論文を学院長に提出させるものとする。

３　指導教員は，原則として，学位論文の提出の１年６箇月前までに研究成果の中間報告会を開催するものとし，大学院生に対して，研究方法等における助言及び指導をするものとする。

４　前項の中間報告会は，受け入れた大学院生毎，又は複数の大学院生に対して合同で実施するものとする。

５　主任指導教員は，学位論文の提出前までに学位論文の予備審査を行うものとする。

（雑則）

第７条　この申合せに定めるもののほか，指導教員及び研究指導に関し，必要な事項は，学院教授会の議を経て学院長が別に定める。

附　則

この申合せは，平成２９年２月１６日から施行する。

附　則

この申合せは，平成３０年４月１日から施行する。

別紙様式第１号（第３条関係）

副指導教員の資格審査申請書

申請年月日　平成　　年　　月　　日

大学院保健科学院長　殿

領　　域　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿科目群
領域責任者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　㊞

副指導教員の資格について，下記のとおり申請します。

１．資格審査対象者	
所属分野等名	
職　　名	□講師　　□助教
氏　　名	
２．課程・担当科目	
□修 士 課 程	
担 当 科 目	
□博 士 後 期 課 程	
担 当 科 目	
３．教授会附議希望日	平成　　年　　月　　日
４．備　　考	

注）教授会附議希望日の３週間前までに提出すること。

注）資格審査対象者における教育研究業績書（別紙様式第２号）及び教員採用基準計算書（別記様式）を添付すること。

別紙様式第２号（第３条関係）

教　育　研　究　業　績　書

平成〇〇年〇〇月〇〇日　　氏名　〇　〇　〇　〇　㊞

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項		年月日	概　　要
1	教育方法の実践例		
(1)	学生による〇〇〇学習発表の実践	平成〇〇年〇月	……。
(2)	△△△を用いた〇〇学実習	平成〇〇年〇月	……。
2	作成した教科書，教材		
(1)	〇〇学のための補助教材	平成〇〇年〇月～現在	……。
(2)	△△実験マニュアル	平成〇〇年〇月〇日	……。
3	教育上の能力に関する大学等の評価		
(1)	学生による授業評価	平成〇〇年〇月	……。
(2)	〇〇大学自己点検評価	平成〇〇年〇月	……。
4	実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)			
(2)			
5	その他		
(1)			
(2)			

優れた教育方法の実践例，マルチメディア機器を活用した授業，授業外における学習促進のための取組，ＷＥＢ上での授業内容の公開，他の教育機関での教育経験などを記載願います。

教育上の能力に関する事項の概要について，事項ごとに具体的に記入してください。

各大学における自己点検・評価結果，学生による授業評価，教員による相互評価等，過去に受けた設置審による評価等について記載願います。

企業内教育，大学公開講座・社会教育講座の講師，シンポジウムにおける講演等，教育にかかる経験を記載願います。

１～４以外で教育に関する事項について記載願います。
（国家試験問題作成，ＦＤ参加実績など）

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項			
事項		年月日	概　　要
1	資格，免許		
(1)	看護師免許（第××××号）	平成〇〇年〇月	厚生労働大臣が与える看護師としての資格
(2)	助産師免許（第××××号）	平成〇〇年〇月	厚生労働大臣が与える助産師としての資格
2	特許等		
(1)			
(2)			
3	実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)			
(2)	臨床経験，大学との共同研究，企業・官公庁等の研究者，各種審議会・行政委員会等委員，研究者としての留学・海外事情調査，国際援助・開発等について記載願います。		
4	科学研究費等外部資金獲得状況 （過去 10 年間）		
(1)	文部科学省科学研究費基盤研究（C） 「〇〇の△△障害に関する臨床的，疫学的研究」	平成〇〇～〇〇年度	研究代表，2,500 千円 金額は全期間の合計を記載して下さい。
(2)	文部科学省科学研究費基盤研究（B） 「〇〇における××と△△に関する基礎的研究」	平成〇〇～〇〇年度	研究分担，1,200 千円（分担金） 分担者の場合，金額は配分を受けた全期間の分担金の合計を記載し，（分担金）と記入して下さい。 分担金が不明な場合は，研究代表者が受けた全期間の合計を記載し，（総額）と記入して下さい。
(3)	日本〇〇財団奨励研究助成 「△△細胞による□□発症モデルの確立と発症機構の分子生物学的解析」	平成〇〇年度	研究代表，1,000 千円
5	その他		
(1)			
(2)	１～４以外で研究に関する事項について記載願います。 （論文の引用実績，研究成果を利用した社会貢献活動等）		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）					
(1)	○○学概論	共著	平成○○年○月	□□出版社	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。（ｐ55－ｐ80）北海太郎，△△△子
(2)	□□□ガイド	単著	平成○○年○月	△△書店 古いものから順に記載して下さい。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。（ｐ1－ｐ120）
（学術論文）					
(1)	○○○解析における××法の検討	共著	平成13年8月	□□□学会誌 第10巻第8号	○○○解析のために××法を開発し，その方法の実証を△△を用いて○○○解析が可能であることを示した研究。 （ｐ15－ｐ20）×××男，北海太郎，△△△子
(2)	Study of ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	共著	2002. 2.	J. Med. ・・・. Vol. 56, No. 2	○○○である△△を，××法を用いて検出，定量的な解析を行った。○○が□□であることを初めて示した。 （ｐ25－ｐ32）○○○○，△△△△，Hokkai T.＊
(3)					応募者が論文の連絡著者の場合には，氏名の後に＊印を付して下さい
(4)					
(5)					
（その他）					
（解説等）					
(1)					
（研究報告書）					
(1)					
（学会報告）					
(1)	○○○解析における××法の検討	共著	平成○○年○月	第○回日本○○学会（東京都）	○○○解析のために××法を開発し，その方法の実証を△△を用いて○○○解析が可能であることを報告した。北海太郎，○○○○

別紙様式第３号（第３条関係）

副指導教員の資格審査結果通知書

平成　　年　　月　　日

〇〇〇〇科目群領域責任者
〇　〇　〇　〇　　殿

大学院保健科学院長

【承認となった場合】

先に貴職から申請のありました副指導教員の資格審査申請について，審議した結果，下記のとおり承認されましたので，通知します。

なお，資格審査対象者には別途通知している旨申し添えます。

記

資格審査対象者名	所属分野等名	職　名	課　程
〇　〇　〇　〇	〇〇〇〇分野	〇　〇	□修　士　課　程 □博士後期課程

【不承認となった場合】

先に貴職から申請のありました副指導教員の資格審査申請について，審議した結果，承認に至りませんでしたので，通知します。

なお，資格審査対象者には別途通知している旨申し添えます。

別紙様式第４号（第３条関係）

副指導教員の資格審査結果通知書

平成　　年　　月　　日

〇〇〇〇分野
〇〇　〇　〇　〇　〇　殿

大学院保健科学院長

【承認となった場合】

先に貴領域責任者から申請のありました副指導教員の資格審査申請について，審議した結果，下記のとおり承認されましたので，通知します。

記

課　程	備　考
□修　士　課　程 □博士後期課程	平成〇〇年〇〇月〇〇日承認 （保健科学院教授会）

【不承認となった場合】

先に貴領域責任者から申請のありました副指導教員の資格審査申請について，審議した結果，承認に至りませんでしたので，通知します。

北海道大学大学院保健科学院成績評価専門委員会申合せ

平成 21 年 5 月 21 日
制　　定

（設置）

第１条　北海道大学大学院保健科学院教務委員会内規第７条第２項の規定に基づき，北海道大学大学院保健科学院教務委員会（以下「教務委員会」という。）に成績評価専門委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，大学院保健科学院の授業科目（専門教育科目に限る。以下同じ。）の成績評価について，適正に行なわれているかを定期的に調べ審議すると共に，保健科学院の学生が異議申立てをした場合に調査・検討を行ない，教務委員会へ報告する。

（組織）

第３条　委員会は次に掲げる者をもって組織する。

(1)　教務委員会委員（１名）

(2)　各科目群（前項の委員が所属する科目群を除く。）の大学院保健科学院の授業科目を担当しうる教員（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員を含む。）（各１名）

(3)　その他，保健科学院長が認めた者（若干名）を加えてよいものとする

（任期）

第４条　前条の委員の任期は，１年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は，再任されることができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き，第３条第１号の委員をもって充てる。ただし，第７条に掲げる場合であって，委員長が第９条第２項の規定により委員会の構成員となれないときには，他の委員が代行するものとする。

（成績評価の適正化について）

第６条　第２条に基づき，委員会は，大学院保健科学院の授業科目の成績評価結果を定期的に調べ，必要に応じて，当該授業科目の担当教員に事情聴取することができる。調査・検討の後，必要が認められるときには，教務委員会の議を経て，該当教員に評価の適正化を促す。

（異議申立て）

第７条　第２条に基づき，学生から授業科目の成績評価について異議申立てがあった際には，随時委員会を開催する。異議申立てに係る委員会の開催は，次に掲げる場合とする。

(1) シラバスに記載してある成績評価方法や授業中に指示のあった成績評価方法と，異なる成績評価方法により評価されたことを，学生が客観的・具体的事実をもって示すことができる場合

(2) 明らかに誤記入によるものと思われる場合で，学生が客観的・具体的事実をもって示すことが出来る場合

（異議申立ての方法）

第８条　前条第１号又は第２号の異議申立ては，別紙様式による質問票を，保健科学研究

院教務担当窓口へ提出することによって行なう。

２　異議申立ての受付期間は，学期毎に定める。

（異議申立てに関する事項の審議）

第９条　第７条に規定される異議申立てがあった場合には，当該異議申し立てに関する事項の調査及び検討を，委員会が行なうものとする。

２　第３条に掲げる委員であっても，異議申立てに係る授業科目の担当教員である場合には，委員会の構成員となることはできない。この場合，保健科学院長は，当該委員会の構成員が３名以上となるよう第３条第３項に掲げる者を指名しなければならない。

３　委員会は，異議申立てを行なった学生及び当該授業科目の担当教員から事情聴取を行う等の調査を行い，検討する。

４　委員会は，前項の検討結果に基づき，調査・検討結果の回答書面を作成し，教務委員会に報告後，学生に通知するものとする。

（雑則）

第 10 条　この申合わせに定めるものの他，大学院保健科学院の授業科目の成績評価に関して，適正化へ向けた対策や異議申立ての取扱いについて必要な事項は，大学院保健科学院教授会の議を経て，保健科学院長が定める。

附　則

この申合せは，平成 21 年５月 21 日から実施する。

附　則

この申し合わせは，平成 23 年４月 21 日から実施し，平成 23 年４月１日から適用する。

附　則

この申合せは，平成 30 年４月１日から実施する。

別紙様式（第８条関係）

大学院保健科学院開講科目に係る成績評価に関する質問票

所属科目群名			
学生番号		学年	年
氏　　名			
連絡先（電話番号）			
E-mail アドレス			
科目・講義題目	年度（ 第１学期・ 第２学期 ） ※年度を記入し，該当する学期を○で囲むこと。 科目名： 講義題目：		
担当教員氏名			

質問内容

注：申立てできるのは以下の場合です。

(1) シラバスに記載してある成績評価方法や授業中に指示のあった成績評価方法と，異なる成績評価方法により評価されたことを，学生が客観的・具体的事実をもって示すことができる場合（客観的・具体的事実を示す資料を添付すること）

(2) 明らかに誤記入によるものと思われる場合で，学生が客観的・具体的事実をもって示すことができる場合（客観的・具体的事実を示す資料を添付すること）

※事務担当者確認欄	受領月日　（平成　　年　　月　　日）

【保健科学院】H28修了時アンケート集計結果MC

MC

① 基本的事項

52 ／57

問１　あなたの性別を教えて下さい

１．男性	29
２．女性	23

問２　あなたの所属コース（科目群）を教えて下さい

保健科学コース　36　　看護学コース　15　　未記入　1

問３　あなたは北海道大学の出身ですか？

１．はい	47
２．いいえ	5

問４　あなたは社会人学生ですか？

１．はい	6
２．いいえ	46

② 本学院への進学について

問５　本学院を選択した理由を教えて下さい（複数回答可）

１．研究（学修）したい分野があった	37
２．指導して欲しい教員がいた	24
３．希望する職業分野の学修ができる	13
４．就職に有利	5
５．資格取得のため	8
６．学力が適当	3
７．経済状況	2
８．通学が容易	9
９．親・先生・友人等に勧められた	9
１０．北海道大学出身のため	23
１１．その他	0

③ 学修・研究計画について

問６　入学時点で立てた学修・研究計画はどれくらい達成できましたか？

１．十分達成できた	10
２．まあまあ達成できた	31
３．あまり達成できなかった	11
４．全く達成できなかった	0

問７　本学院・専攻で掲げている“教育目標”は知っていましたか？

１．知っていた	25
２．知らなかった	27

問８　本学院の“カリキュラム・ポリシー”は知っていましたか？

１．知っていた	22
２．知らなかった	30

問９　本学院の “ディプロマ・ポリシー” は知っていましたか？

１．知っていた	22
２．知らなかった	30

④　在学時の学修と経験

問10　在学中、以下の学修や経験についてどの程度熱心に取り組みましたか？それぞれ４段階でお答え下さい（学修又は経験した項目のみお答え下さい）

1．熱心　　2．やや熱心　　3．やや不熱心　　4．不熱心

A．講義	1	24	2	19	3	8	4	1	空欄	0
B．外国語	1	15	2	21	3	9	4	2	空欄	5
C．演習・ゼミ	1	34	2	14	3	3	4	0	空欄	1
D．実験・実習	1	27	2	12	3	2	4	0	空欄	11
E．研究・論文作成	1	37	2	11	3	3	4	0	空欄	1
F．海外留学	1	3	2	5	3	1	4	12	空欄	31
G．ＴＡ業務	1	16	2	17	3	8	4	3	空欄	8
H．ＲＡ業務	1	1	2	0	3	4	4	10	空欄	37
I．ＴＦ業務	1	0	2	0	3	3	4	10	空欄	39
J．学会発表	1	27	2	15	3	8	4	0	空欄	2
K．資格の取得	1	7	2	10	3	1	4	8	空欄	26
L．インターンシップ・就職活動	1	10	2	18	3	9	4	2	空欄	13
M．部・サークル活動	1	3	2	8	3	4	4	9	空欄	28
N．アルバイト	1	17	2	21	3	2	4	1	空欄	11
O．ボランティア・社会奉仕活動	1	8	2	11	3	2	4	8	空欄	23
P．保健科学または看護学に関する専門的知識	1	27	2	14	3	2	4	1	空欄	8

問11　在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか？それぞれ４段階でお答え下さい

1．十分身についた　2．まあまあ身についた　3．あまり身につかなかった　4．全く身につかなかった

A．発表・プレゼンテーション能力	1	23	2	29	3	0	4	0	空欄	0
B．ディスカッション能力	1	12	2	34	3	6	4	0	空欄	0
C．コミュニケーション能力	1	11	2	33	3	6	4	2	空欄	0
D．外国語能力	1	6	2	23	3	17	4	6	空欄	0
E．リーダーシップ	1	8	2	21	3	17	4	6	空欄	0
F．集団の中での協調性	1	14	2	27	3	8	4	3	空欄	0
G．情報収集・分析能力	1	19	2	30	3	3	4	0	空欄	0
H．企画・アイディア等の創造力	1	8	2	24	3	17	4	3	空欄	0

問12　カリキュラム（講義、演習、実験・実習、ゼミ等）の満足度を教えて下さい

1．非常に満足　　2．概ね満足　　3．やや不満　　4．非常に不満

A．講義	1	15	2	23	3	10	4	4	空欄	0
B．演習・ゼミ	1	17	2	24	3	10	4	1	空欄	0
C．実験・実習	1	16	2	22	3	5	4	9	空欄	0
D．研究（論文作成）指導	1	25	2	20	3	5	4	2	空欄	0
E．カリキュラム全体	1	15	2	27	3	10	4	0	空欄	0

⑤　在学中の海外経験について

問13　在学中の海外渡航のうち、もっとも長期の滞在経験を教えてください

1．1年以上の留学	0
2．3ヶ月～半年程度の留学	1
3．1ヶ月程度の語学研修	3
4．1～2週間程度の海外研修	14
5．中長期ボランティアやインターンシップ	2
6．在学中に海外渡航はしていない	28
7．その他（　1週間未満の学会参加3・未記入1）	4

⑥　本学での学生生活等について

問14　本学の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度を教えて下さい

1．とても満足　2．満足　3．どちらでもない　4．不満　5．とても不満

A．学修や研究のための施設・設備	1	12	2	19	3	9	4	8	5	4	空欄	0
B．立地を始めとした学修環境	1	33	2	16	3	1	4	2	5	0	空欄	0
C．学生相談室や保健センター等における学生生活支援	1	4	2	16	3	24	4	3	5	4	空欄	1
D．奨学金・授業料免除などの経済的支援	1	10	2	12	3	21	4	7	5	1	空欄	1
E．キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談	1	6	2	10	3	23	4	6	5	6	空欄	1

⑦　修了後の進路について

問15　今後の進路を教えて下さい

1．保健医療系機関	23
2．民間企業	11
3．大学教員	1
4．公務員	9
5．自営業	
6．ポスドク	
7．大学院進学	6
8．その他（大学技術職員1・未記入1）	2

※複数選択1名有

⑧　本学の教育に対する要望について

問16　本学の教育に対して、ご意見・要望などがありましたら、記入願います。

研究活動に時間を費やすことができるよう、必須授業のコマ数を減らした方がよいと感じました。

大変お世話になりありがとうございました。

夜間開講の講義はとても有難い存在でした。先生方の負担は大きいかと思いますが、科目数なども増えると良いと思いました。

端末室が汚い。カラーコピー設備が学生用に欲しい（有料で良いので）

医療機関以外への就職に対するサポートの充実

DC
4／4

①　基本的事項

問１　あなたの性別を教えて下さい

１．男性	３
２．女性	１

問２　あなたの所属コース（科目群）を教えて下さい

保健科学コース　４　　看護学コース　０

問３　あなたは北海道大学の出身ですか？

１．はい	３
２．いいえ	１

問４　あなたは社会人学生ですか？

１．はい	１
２．いいえ	３

②　本学院への進学について

問５　本学院を選択した理由を教えて下さい（複数回答可）

１．研究（学修）したい分野があった	４
２．指導して欲しい教員がいた	３
３．希望する職業分野の学修ができる	０
４．就職に有利	０
５．資格取得のため	０
６．学力が適当	０
７．経済状況	０
８．通学が容易	０
９．親・先生・友人等に勧められた	０
１０．北海道大学出身のため	０
１１．その他（　　）	０

③　学修・研究計画について

問６　入学時点で立てた学修・研究計画はどれくらい達成できましたか？

１．十分達成できた	３
２．まあまあ達成できた	１
３．あまり達成できなかった	０
４．全く達成できなかった	０

問７　本学院・専攻で掲げている“教育目標”は知っていましたか？

１．知っていた	４
２．知らなかった	０

問８　本学院の“カリキュラム・ポリシー”は知っていましたか？

１．知っていた	４
２．知らなかった	０

問９　本学院の “ディプロマ・ポリシー” は知っていましたか？

１．知っていた	２
２．知らなかった	２

④　在学時の学修と経験

問10　在学中、以下の学修や経験についてどの程度熱心に取り組みましたか？それぞれ４段階でお答え下さい（学修又は経験した項目のみお答え下さい）

１．熱心　　２．やや熱心　　３．やや不熱心　　４．不熱心

A．講義	1	2	2	2	3		4		空欄	
B．外国語	1		2	2	3	1	4		空欄	1
C．演習・ゼミ	1	3	2		3		4		空欄	1
D．実験・実習	1	3	2		3		4		空欄	1
E．研究・論文作成	1	3	2		3		4	1	空欄	
F．海外留学	1		2		3		4	2	空欄	2
G．ＴＡ業務	1		2	1	3		4	2	空欄	1
H．ＲＡ業務	1	1	2		3		4	2	空欄	1
Ｉ．TF業務	1	1	2	1	3	1	4		空欄	1
J．学会発表	1	2	2	1	3		4	1	空欄	
K．資格の取得	1		2		3	1	4	1	空欄	2
L．インターンシップ・就職活動	1		2	1	3		4	2	空欄	1
M．部・サークル活動	1		2		3		4	2	空欄	2
N．アルバイト	1		2	1	3		4	2	空欄	1
O．ボランティア・社会奉仕活動	1		2		3		4	2	空欄	2
P．保健科学または看護学に関する専門的知識	1	4	2		3		4		空欄	

問11　在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか？それぞれ４段階でお答え下さい

１．十分身についた　２．まあまあ身についた　３．あまり身につかなかった　４．全く身につかなかった

A．発表・プレゼンテーション能力	1	3	2	1	3		4	
B．ディスカッション能力	1	2	2	2	3		4	
C．コミュニケーション能力	1	1	2	3	3		4	
D．外国語能力	1		2	3	3	1	4	
E．リーダーシップ	1		2	2	3	2	4	
F．集団の中での協調性	1		2	3	3	1	4	
G．情報収集・分析能力	1	2	2	2	3		4	
H．企画・アイディア等の創造力	1	2	2	2	3		4	

問12　カリキュラム（講義、演習、実習・実習、ゼミ等）の満足度を教えて下さい

１．非常に満足　　２．概ね満足　　３．やや不満　　４．非常に不満

A．講義	1	2	2	2	3		4	
B．演習・ゼミ	1	2	2	1	3		4	1
C．実験・実習	1	1	2	2	3		4	1
D．研究（論文作成）指導	1	3	2	1	3		4	
E．カリキュラム全体	1	3	2	1	3		4	

⑤　在学中の海外経験について

問13　在学中の海外渡航のうち、もっとも長期の滞在経験を教えてください

1．1年以上の留学	
2．3ヶ月～半年程度の留学	
3．1ヶ月程度の語学研修	
4．1～2週間程度の海外研修	1
5．中長期ボランティアやインターンシップ	
6．在学中に海外渡航はしていない	3
7．その他（学科発表4日程度、1ヶ月程度の海外調査　）	

⑥　本学での学生生活等について

問14　本学の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度を教えて下さい

1．とても満足　2．満足　3．どちらでもない　4．不満　5．とても不満

A．学修や研究のための施設・設備	1	2	2	1	3	1	4		5	
B．立地を始めとした学修環境	1	4	2		3		4		5	
C．学生相談室や保健センター等における学生生活支援	1		2	1	3	3	4		5	
D．奨学金・授業料免除などの経済的支援	1		2	1	3	3	4		5	
E．キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談	1	1	2	1	3	2	4		5	

⑦　修了後の進路について

問15　今後の進路を教えて下さい

1．保健医療系機関	1
2．民間企業	1
3．大学教員	1
4．公務員	
5．自営業	
6．ポスドク	
7．大学院進学	
8．その他（未定）	1

※複数選択1名有

⑧　本学の教育に対する要望について

問16　本学の教育に対して、ご意見・要望などがありましたら、記入願います。

図書館でかなりの量の文献を検索でき、さらにリモートで取り寄せることができたのは、北大ならではだと思います。修了しても年会費を払うような形で、文献サービスを使わせていただけないでしょうかねぇ…。

【保健科学院】H29修了時アンケート集計結果MC

MC

① 基本的事項

39 /40

問1 あなたの性別を教えて下さい

1．男性	22
2．女性	17

問2 あなたの所属コース（科目群）を教えて下さい

保健科学コース 29　　看護学コース　10

問3 あなたは北海道大学の出身ですか？

1．はい	35
2．いいえ	4

問4 あなたは社会人学生ですか？

1．はい	2
2．いいえ	37

② 本学院への進学について

問5 本学院を選択した理由を教えて下さい（複数回答可）

1．研究（学修）したい分野があった	31
2．指導して欲しい教員がいた	11
3．希望する職業分野の学修ができる	12
4．就職に有利	2
5．資格取得のため	7
6．学力が適当	1
7．経済状況	1
8．通学が容易	3
9．親・先生・友人等に勧められた	2
10．北海道大学出身のため	18
11．その他	0

③ 学修・研究計画について

問6 入学時点で立てた学修・研究計画はどれくらい達成できましたか？

1．十分達成できた	8
2．まあまあ達成できた	26
3．あまり達成できなかった	5
4．全く達成できなかった	0

問7 本学院・専攻で掲げている“教育目標”は知っていましたか？

1．知っていた	20
2．知らなかった	19

問8 本学院の“カリキュラム・ポリシー”は知っていましたか？

1．知っていた	13
2．知らなかった	26

問9 本学院の “ディプロマ・ポリシー” は知っていましたか？

1．知っていた	12
2．知らなかった	27

④　在学時の学修と経験

問10　在学中、以下の学修や経験についてどの程度熱心に取り組みましたか？それぞれ４段階でお答え下さい
（学修又は経験した項目のみお答え下さい）

１．熱心　　２．やや熱心　　３．やや不熱心　　４．不熱心

	1		2		3		4		空欄	
A．講義	1	12	2	19	3	7	4	1	空欄	0
B．外国語	1	7	2	15	3	11	4	3	空欄	3
C．演習・ゼミ	1	28	2	9	3	1	4	1	空欄	0
D．実験・実習	1	19	2	11	3	1	4	0	空欄	8
E．研究・論文作成	1	24	2	13	3	2	4	0	空欄	0
F．海外留学	1	0	2	3	3	2	4	17	空欄	17
G．ＴＡ業務	1	16	2	13	3	5	4	4	空欄	1
H．ＲＡ業務	1	0	2	1	3	3	4	7	空欄	28
I．ＴＦ業務	1	0	2	0	3	3	4	8	空欄	28
J．学会発表	1	24	2	9	3	3	4	1	空欄	2
K．資格の取得	1	9	2	2	3	2	4	8	空欄	18
L．インターンシップ・就職活動	1	13	2	7	3	7	4	4	空欄	8
M．部・サークル活動	1	5	2	4	3	3	4	10	空欄	17
N．アルバイト	1	18	2	9	3	6	4	4	空欄	2
O．ボランティア・社会奉仕活動	1	4	2	6	3	3	4	9	空欄	17
P．保健科学または看護学に関する専門的知識	1	14	2	20	3	3	4	0	空欄	2

問11　在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか？それぞれ４段階でお答え下さい

１．十分身についた　２．まあまあ身についた　３．あまり身につかなかった　４．全く身につかなかった

	1		2		3		4		空欄	
A．発表・プレゼンテーション能力	1	11	2	26	3	2	4	0	空欄	0
B．ディスカッション能力	1	8	2	28	3	3	4	0	空欄	0
C．コミュニケーション能力	1	13	2	23	3	3	4	0	空欄	0
D．外国語能力	1	5	2	15	3	17	4	2	空欄	0
E．リーダーシップ	1	3	2	12	3	23	4	1	空欄	0
F．集団の中での協調性	1	6	2	28	3	5	4	0	空欄	0
G．情報収集・分析能力	1	11	2	26	3	2	4	0	空欄	0
H．企画・アイディア等の創造力	1	3	2	23	3	13	4	0	空欄	0

問12　カリキュラム（講義、演習、実験・実習、ゼミ等）の満足度を教えて下さい

１．非常に満足　　２．概ね満足　　３．やや不満　　４．非常に不満

	1		2		3		4		空欄	
A．講義	1	11	2	23	3	4	4	1	空欄	0
B．演習・ゼミ	1	16	2	17	3	6	4	0	空欄	0
C．実験・実習	1	13	2	19	3	2	4	0	空欄	5
D．研究（論文作成）指導	1	19	2	18	3	2	4	0	空欄	0
E．カリキュラム全体	1	8	2	28	3	3	4	0	空欄	0

⑤　在学中の海外経験について

問13　在学中の海外渡航のうち、もっとも長期の滞在経験を教えてください

1．1年以上の留学	0
2．3ヶ月～半年程度の留学	0
3．1ヶ月程度の語学研修	2
4．1～2週間程度の海外研修	5
5．中長期ボランティアやインターンシップ	0
6．在学中に海外渡航はしていない	20
7．その他（　1週間未満の学会参加6・旅行1・未記入5）	12

⑥　本学での学生生活等について

問14　本学の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度を教えて下さい

1．とても満足　2．満足　3．どちらでもない　4．不満　5．とても不満

A．学修や研究のための施設・設備	1	10	2	16	3	8	4	3	5	2	空欄	0
B．立地を始めとした学修環境	1	14	2	20	3	4	4	1	5	0	空欄	0
C．学生相談室や保健センター等における学生生活支援	1	1	2	16	3	19	4	2	5	0	空欄	1
D．奨学金・授業料免除などの経済的支援	1	6	2	14	3	17	4	1	5	1	空欄	0
E．キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談	1	3	2	13	3	20	4	2	5	0	空欄	1

⑦　修了後の進路について

問15　今後の進路を教えて下さい

1．保健医療系機関	20
2．民間企業	8
3．大学教員	2
4．公務員	2
5．自営業	0
6．ポスドク	0
7．大学院進学	5
8．その他（研究生1・未定1・未記入1）	3

※複数選択1名有

⑧　本学の教育に対する要望について

問16　本学の教育に対して、ご意見・要望などがありましたら、記入願います。

・実験機器や工作機器を置く場所がせまく、非常に不便。各研究室に1つではなく所有している資産に応じて分配していただきたい。

・留学に関するサポートをもう少し充実させてほしい

・設備（実習・研究機器）に不満あります。

・研究室の学生人数に対し与えられている部屋が少なく、学生の居場所が分散し円滑に実験、ディスカッションが行えなかった。普段から使用されていない部屋も多いと感じるので、今一度再考願いたい
・立地上観光客が校舎のトイレを使用することもあり、以前外国人女性が男性トイレを使用していたのはさすがに不快であった

・教育については大変満足していますが、今後も子供を育てながら進学する人が困らないようせめて北大の保育園の一時保育は受け入れる環境を作ってほしいです。登録すら断られてしまい大変でした。

DC

7 /7

① 基本的事項

問１　あなたの性別を教えて下さい

１．男性	５
２．女性	２

問２　あなたの所属コース（科目群）を教えて下さい

保健科学コース ７　　看護学コース　０

問３　あなたは北海道大学の出身ですか？

１．はい	７
２．いいえ	０

問４　あなたは社会人学生ですか？

１．はい	５
２．いいえ	２

② 本学院への進学について

問5　本学院を選択した理由を教えて下さい（複数回答可）

１．研究（学修）したい分野があった	７
２．指導して欲しい教員がいた	４
３．希望する職業分野の学修ができる	０
４．就職に有利	０
５．資格取得のため	０
６．学力が適当	０
７．経済状況	０
８．通学が容易	０
９．親・先生・友人等に勧められた	２
１０．北海道大学出身のため	３
１１．その他	０

③ 学修・研究計画について

問６　入学時点で立てた学修・研究計画はどれくらい達成できましたか？

１．十分達成できた	１
２．まあまあ達成できた	５
３．あまり達成できなかった	１
４．全く達成できなかった	０

問７　本学院・専攻で掲げている“教育目標”は知っていましたか？

１．知っていた	３
２．知らなかった	４

問８　本学院の“カリキュラム・ポリシー”は知っていましたか？

１．知っていた	４
２．知らなかった	３

問９　本学院の “ディプロマ・ポリシー” は知っていましたか？

１．知っていた	３
２．知らなかった	４

④ 在学時の学修と経験

問10　在学中､以下の学修や経験についてどの程度熱心に取り組みましたか？それぞれ４段階でお答え下さい
（学修又は経験した項目のみお答え下さい）

【保健科学院】H29修了時アンケート集計結果DC

1．熱心　　2．やや熱心　　3．やや不熱心　　4．不熱心

A．講義	1	2	2	5	3	0	4	0	空欄	0
B．外国語	1	1	2	6	3	0	4	0	空欄	0
C．演習・ゼミ	1	5	2	2	3	0	4	0	空欄	0
D．実験・実習	1	3	2	3	3	0	4	0	空欄	1
E．研究・論文作成	1	7	2	0	3	0	4	0	空欄	0
F．海外留学	1	1	2	0	3	1	4	2	空欄	3
G．ＴＡ業務	1	1	2	3	3	0	4	1	空欄	2
H．ＲＡ業務	1	1	2	1	3	0	4	1	空欄	4
I．ＴＦ業務	1	0	2	1	3	0	4	3	空欄	3
J．学会発表	1	7	2	0	3	0	4	0	空欄	0
K．資格の取得	1	0	2	0	3	2	4	2	空欄	3
L．インターンシップ・就職活動	1	1	2	2	3	1	4	0	空欄	3
M．部・サークル活動	1	0	2	0	3	1	4	3	空欄	3
N．アルバイト	1	0	2	2	3	1	4	1	空欄	3
O．ボランティア・社会奉仕活動	1	0	2	2	3	2	4	1	空欄	2
P．保健科学または看護学に関する専門的知識	1	3	2	4	3	0	4	0	空欄	0

問11　在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか？それぞれ４段階でお答え下さい

1．十分身についた　2．まあまあ身についた　3．あまり身につかなかった　4．全く身につかなかった

A．発表・プレゼンテーション能力	1	2	2	5	3	0	4	0	空欄	0
B．ディスカッション能力	1	2	2	5	3	0	4	0	空欄	0
C．コミュニケーション能力	1	3	2	4	3	0	4	0	空欄	0
D．外国語能力	1	2	2	4	3	1	4	0	空欄	0
E．リーダーシップ	1	1	2	4	3	2	4	0	空欄	0
F．集団の中での協調性	1	1	2	6	3	0	4	0	空欄	0
G．情報収集・分析能力	1	4	2	2	3	1	4	0	空欄	0
H．企画・アイディア等の創造力	1	3	2	2	3	2	4	0	空欄	0

問12　カリキュラム（講義、演習、実験・実習、ゼミ等）の満足度を教えて下さい

1．非常に満足　　2．概ね満足　　3．やや不満　　4．非常に不満

A．講義	1	1	2	5	3	1	4	0	空欄	0
B．演習・ゼミ	1	3	2	4	3	0	4	0	空欄	0
C．実験・実習	1	3	2	1	3	2	4	0	空欄	1
D．研究（論文作成）指導	1	6	2	1	3	0	4	0	空欄	0
E．カリキュラム全体	1	4	2	2	3	1	4	0	空欄	0

⑤　在学中の海外経験について

問13　在学中の海外渡航のうち、もっとも長期の滞在経験を教えてください

1．1年以上の留学	0
2．3ヶ月～半年程度の留学	1
3．1ヶ月程度の語学研修	1
4．1～2週間程度の海外研修	2
5．中長期ボランティアやインターンシップ	0
6．在学中に海外渡航はしていない	2
7．その他（　学会発表1 ）	1

⑥　本学での学生生活等について

問14　本学の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度を教えて下さい

1．とても満足　2．満足　3．どちらでもない　4．不満　5．とても不満

A．学修や研究のための施設・設備	1	1	2	2	3	3	4	0	5	1	空欄	0
B．立地を始めとした学修環境	1	2	2	5	3	0	4	0	5	0	空欄	0
C．学生相談室や保健センター等における学生生活支援	1	0	2	1	3	5	4	1	5	0	空欄	0
D．奨学金・授業料免除などの経済的支援	1	1	2	3	3	0	4	2	5	1	空欄	0
E．キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談	1	0	2	1	3	5	4	1	5	0	空欄	0

⑦　修了後の進路について

問15　今後の進路を教えて下さい

1．保健医療系機関	2
2．民間企業	0
3．大学教員	2
4．公務員	0
5．自営業	0
6．ポスドク	3
7．大学院進学	0
8．その他	0

⑧　本学の教育に対する要望について

問16　本学の教育に対して、ご意見・要望などがありましたら、記入願います。

・研究指導や方針に対して大変満足しておりますが、一部の教員で一方的な意見の押し付け合いを行い、良い研究発想やディスカッションの機会を奪う時も見られた。今度、より柔軟で科学的な議論をできる環境づくりがなされることを期待します。また、教員のイザコザにより、学生に不利益が出ないように配慮された環境づくりにも期待します。

・研究設備が古すぎる

【保健科学院】H30修了時アンケート集計結果MC

MC

① 基本的事項

46 /48

問1 あなたの性別を教えて下さい

1．男性	26
2．女性	20

問2 あなたの所属コース（科目群）を教えて下さい

保健科学コース 29　　看護学コース 17

問3 あなたは北海道大学の出身ですか？

1．はい	35
2．いいえ	11

問4 あなたは社会人学生ですか？

1．はい	4
2．いいえ	42

② 本学院への進学について

問5 本学院を選択した理由を教えて下さい（複数回答可）

1．研究（学修）したい分野があった	33
2．指導して欲しい教員がいた	20
3．希望する職業分野の学修ができる	11
4．就職に有利	4
5．資格取得のため	7
6．学力が適当	1
7．経済状況	3
8．通学が容易	7
9．親・先生・友人等に勧められた	0
10．北海道大学出身のため	19
11．その他	0

③ 学修・研究計画について

問6 入学時点で立てた学修・研究計画はどれくらい達成できましたか？

1．十分達成できた	15
2．まあまあ達成できた	22
3．あまり達成できなかった	9
4．全く達成できなかった	0

問7 本学院・専攻で掲げている“教育目標”は知っていましたか？

1．知っていた	27
2．知らなかった	19

問8 本学院の“カリキュラム・ポリシー”は知っていましたか？

1．知っていた	25
2．知らなかった	21

問9 本学院の “ディプロマ・ポリシー” は知っていましたか？

1．知っていた	17
2．知らなかった	29

④　在学時の学修と経験

問10　在学中、以下の学修や経験についてどの程度熱心に取り組みましたか？それぞれ４段階でお答え下さい
（学修又は経験した項目のみお答え下さい）

１．熱心　　２．やや熱心　　３．やや不熱心　　４．不熱心

A．講義	1	22	2	20	3	3	4	1	空欄	0
B．外国語	1	14	2	19	3	8	4	2	空欄	3
C．演習・ゼミ	1	32	2	12	3	2	4	0	空欄	0
D．実験・実習	1	22	2	12	3	2	4	2	空欄	8
E．研究・論文作成	1	30	2	11	3	5	4	0	空欄	0
F．海外留学	1	3	2	4	3	3	4	19	空欄	17
G．ＴＡ業務	1	13	2	22	3	4	4	4	空欄	3
H．ＲＡ業務	1	2	2	0	3	3	4	19	空欄	22
I．ＴＦ業務	1	0	2	2	3	4	4	18	空欄	22
J．学会発表	1	23	2	15	3	5	4	0	空欄	3
K．資格の取得	1	8	2	5	3	3	4	15	空欄	15
L．インターンシップ・就職活動	1	14	2	13	3	7	4	4	空欄	8
M．部・サークル活動	1	6	2	3	3	6	4	14	空欄	17
N．アルバイト	1	14	2	20	3	6	4	3	空欄	3
O．ボランティア・社会奉仕活動	1	4	2	9	3	6	4	15	空欄	12
P．保健科学または看護学に関する専門的知識	1	19	2	12	3	4	4	3	空欄	8

問11　在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか？それぞれ４段階でお答え下さい

１．十分身についた　２．まあまあ身についた　３．あまり身につかなかった　４．全く身につかなかった

A．発表・プレゼンテーション能力	1	23	2	22	3	0	4	0	空欄	1
B．ディスカッション能力	1	17	2	26	3	1	4	1	空欄	1
C．コミュニケーション能力	1	17	2	25	3	3	4	0	空欄	1
D．外国語能力	1	8	2	22	3	11	4	4	空欄	1
E．リーダーシップ	1	10	2	19	3	13	4	3	空欄	1
F．集団の中での協調性	1	14	2	23	3	6	4	2	空欄	1
G．情報収集・分析能力	1	17	2	25	3	3	4	0	空欄	1
H．企画・アイディア等の創造力	1	12	2	22	3	10	4	1	空欄	1

問12　カリキュラム（講義、演習、実験・実習、ゼミ等）の満足度を教えて下さい

１．非常に満足　　２．概ね満足　　３．やや不満　　４．非常に不満

A．講義	1	11	2	32	3	2	4	0	空欄	1
B．演習・ゼミ	1	22	2	21	3	1	4	1	空欄	1
C．実験・実習	1	12	2	23	3	3	4	1	空欄	7
D．研究（論文作成）指導	1	26	2	18	3	0	4	1	空欄	1
E．カリキュラム全体	1	10	2	29	3	4	4	2	空欄	1

⑤　在学中の海外経験について

問13　在学中の海外渡航のうち、もっとも長期の滞在経験を教えてください

1．1年以上の留学	0
2．3ヶ月～半年程度の留学	1
3．1ヶ月程度の語学研修	1
4．1～2週間程度の海外研修	10
5．中長期ボランティアやインターンシップ	0
6．在学中に海外渡航はしていない	24
7．その他（海外学会発表5、空白7）	12

⑥　本学での学生生活等について

問14　本学の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度を教えて下さい

1．とても満足　2．満足　3．どちらでもない　4．不満　5．とても不満

A．学修や研究のための施設・設備	1	13	2	19	3	9	4	4	5	0	空欄	1
B．立地を始めとした学修環境	1	23	2	18	3	3	4	1	5	0	空欄	1
C．学生相談室や保健センター等における学生生活支援	1	11	2	17	3	16	4	1	5	0	空欄	1
D．奨学金・授業料免除などの経済的支援	1	13	2	16	3	10	4	4	5	2	空欄	1
E．キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談	1	8	2	19	3	14	4	3	5	1	空欄	1

⑦　修了後の進路について

問15　今後の進路を教えて下さい

1．保健医療系機関	22
2．民間企業	8
3．大学教員	1
4．公務員	4
5．自営業	0
6．ポスドク	0
7．大学院進学	7
8．その他（専門学校教員1、空白2）	3

※複数選択1名有

⑧　本学の教育に対する要望について

問16　本学の教育に対して、ご意見・要望などがありましたら、記入願います。

- カリキュラムがハードだったのでもう少し考慮してほしい
- 研究や臨床などの専門領域に進む人がほとんどだと思いますが、カリキュラム内にキャリア教育を組み込めないでしょうか？博士課程を修了できず退学する者や博士修了後の進路が定まらない者もいるかと思います。医療系の盲点で他学部に比べキャリア教育が軽視されている面があるように感じます。
- 今までありがとうございました。
- 実習がうつになりかけるくらいつらかった
- 6年間お世話になりました
- 海外の学生も増えているのでぜひ英語の講義を増やしていっていただきたいです。
- We will be pleased if this faculty could provide the documents in English/ bilingual (Guidelines, hand-out etc.) It will help us a lot.
- It would be helpful to get the questionnair in English for foreign students.
- 構内の観光客を何とかしてほしい。いつも邪魔です。
- この2年間大変お世話になりました。

DC

①　基本的事項

問１　あなたの性別を教えて下さい

１．男性	2
２．女性	0

問２　あなたの所属コース（科目群）を教えて下さい

保健科学コース 2　　看護学コース　0

問３　あなたは北海道大学の出身ですか？

１．はい	1
２．いいえ	1

問４　あなたは社会人学生ですか？

１．はい	1
２．いいえ	1

②　本学院への進学について

問5　本学院を選択した理由を教えて下さい（複数回答可）

１．研究（学修）したい分野があった	1
２．指導して欲しい教員がいた	1
３．希望する職業分野の学修ができる	1
４．就職に有利	0
５．資格取得のため	0
６．学力が適当	0
７．経済状況	0
８．通学が容易	1
９．親・先生・友人等に勧められた	0
１０．北海道大学出身のため	1
１１．その他	0

③　学修・研究計画について

問６　入学時点で立てた学修・研究計画はどれくらい達成できましたか？

１．十分達成できた	0
２．まあまあ達成できた	2
３．あまり達成できなかった	0
４．全く達成できなかった	0

問７　本学院・専攻で掲げている“教育目標”は知っていましたか？

１．知っていた	0
２．知らなかった	2

問８　本学院の“カリキュラム・ポリシー”は知っていましたか？

１．知っていた	0
２．知らなかった	2

問９　本学院の “ディプロマ・ポリシー” は知っていましたか？

１．知っていた	0
２．知らなかった	2

④　在学時の学修と経験

問10　在学中、以下の学修や経験についてどの程度熱心に取り組みましたか？それぞれ４段階でお答え下さい
（学修又は経験した項目のみお答え下さい）

【保健科学院】H30修了時アンケート集計結果DC

1．熱心　　2．やや熱心　　3．やや不熱心　　4．不熱心

A．講義	1	1	2	1	3	0	4	0	空欄	0
B．外国語	1	0	2	1	3	1	4	0	空欄	0
C．演習・ゼミ	1	2	2	0	3	0	4	0	空欄	0
D．実験・実習	1	1	2	0	3	0	4	0	空欄	1
E．研究・論文作成	1	2	2	0	3	0	4	0	空欄	0
F．海外留学	1	0	2	0	3	0	4	1	空欄	1
G．ＴＡ業務	1	1	2	0	3	0	4	0	空欄	1
H．ＲＡ業務	1	0	2	1	3	0	4	0	空欄	1
I．ＴＦ業務	1	1	2	0	3	0	4	0	空欄	1
J．学会発表	1	2	2	0	3	0	4	0	空欄	0
K．資格の取得	1	0	2	1	3	0	4	0	空欄	1
L．インターンシップ・就職活動	1	0	2	0	3	1	4	0	空欄	1
M．部・サークル活動	1	0	2	0	3	0	4	1	空欄	1
N．アルバイト	1	0	2	0	3	1	4	0	空欄	1
O．ボランティア・社会奉仕活動	1	0	2	0	3	0	4	1	空欄	1
P．保健科学または看護学に関する専門的知識	1	2	2	0	3	0	4	0	空欄	0

問11　在学中、以下のことについてどの程度身についたと思いますか？それぞれ４段階でお答え下さい

1．十分身についた　2．まあまあ身についた　3．あまり身につかなかった　4．全く身につかなかった

A．発表・プレゼンテーション能力	1	1	2	1	3	0	4	0	空欄	0
B．ディスカッション能力	1	0	2	1	3	1	4	0	空欄	0
C．コミュニケーション能力	1	0	2	1	3	1	4	0	空欄	0
D．外国語能力	1	0	2	1	3	1	4	0	空欄	0
E．リーダーシップ	1	0	2	1	3	1	4	0	空欄	0
F．集団の中での協調性	1	1	2	0	3	1	4	0	空欄	0
G．情報収集・分析能力	1	0	2	2	3	0	4	0	空欄	0
H．企画・アイディア等の創造力	1	0	2	1	3	1	4	0	空欄	0

問12　カリキュラム（講義、演習、実験・実習、ゼミ等）の満足度を教えて下さい

1．非常に満足　　2．概ね満足　　3．やや不満　　4．非常に不満

A．講義	1	1	2	1	3	0	4	0	空欄	0
B．演習・ゼミ	1	0	2	2	3	0	4	0	空欄	0
C．実験・実習	1	1	2	0	3	0	4	0	空欄	1
D．研究（論文作成）指導	1	2	2	0	3	0	4	0	空欄	0
E．カリキュラム全体	1	1	2	1	3	0	4	0	空欄	0

⑤　在学中の海外経験について

問13　在学中の海外渡航のうち、もっとも長期の滞在経験を教えてください

1．1年以上の留学	0
2．3ヶ月～半年程度の留学	0
3．1ヶ月程度の語学研修	0
4．1～2週間程度の海外研修	1
5．中長期ボランティアやインターンシップ	0
6．在学中に海外渡航はしていない	1
7．その他	0

⑥　本学での学生生活等について

問14　本学の修学支援等に係る各種サービスに対する満足度を教えて下さい

1．とても満足　2．満足　3．どちらでもない　4．不満　5．とても不満

A．学修や研究のための施設・設備	1	1	2	1	3	0	4	0	5	0	空欄	0
B．立地を始めとした学修環境	1	0	2	2	3	0	4	0	5	0	空欄	0
C．学生相談室や保健センター等における学生生活支援	1	0	2	2	3	0	4	0	5	0	空欄	0
D．奨学金・授業料免除などの経済的支援	1	0	2	2	3	0	4	0	5	0	空欄	0
E．キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談	1	0	2	2	3	0	4	0	5	0	空欄	0

⑦　修了後の進路について

問15　今後の進路を教えて下さい

1．保健医療系機関	0
2．民間企業	0
3．大学教員	2
4．公務員	0
5．自営業	0
6．ポスドク	0
7．大学院進学	0
8．その他	0

⑧　本学の教育に対する要望について

問16　本学の教育に対して、ご意見・要望などがありましたら、記入願います。

資料保院12

令和２年度

北海道大学大学院保健科学院

保健科学専攻（修士課程）

学 生 募 集 要 項

（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜）

令和元年6月

令和２年度北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻
修士課程　学生募集要項

１．専攻及び募集人数

保健科学専攻

保健科学コース
看護学コース　} 40名

(1) 募集人数40名には，社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜の募集人数を含む。
(2) 募集人数40名には，看護学コースの公衆衛生看護学科目群，助産学科目群，高度実践看護学科目群の募集人数，各若干名を含む。
(3) **出願に先立ち，志望する教育研究領域の教員（P11～13参照）と研究内容について事前に相談すること。**

２．教育研究コース・科目群（領域）

専　攻	コース	科目群（教育研究領域）
保健科学専攻	保健科学コース	生体量子科学 生体情報科学 リハビリテーション科学 健康科学
	看護学コース	看護学 公衆衛生看護学 助産学 高度実践看護学

３．出願資格

【一般選抜】
次のいずれかに該当する者とする。
(1) 大学を卒業した者及び令和2年3月31日までに卒業見込みの者
(2) 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び令和2年3月31日までに授与される見込みの者
(3) 外国において，学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者
(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者
(5) 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者
(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が3年以上である課程を修了することにより，学士の学位に相当する学位を授与された者
(7) 文部科学大臣の指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者
(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
(9) 大学に3年以上在学し，保健科学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
(10) 外国において学校教育における15年の課程，外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程，若しくは我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，保健科学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者

(11) 保健科学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和2年3月31日までに22歳に達する者
(12) 看護学コース入学志願者のうち，公衆衛生看護学科目群，助産学科目群を志望することができる者は，(1)～(11)のいずれかに該当する出願資格を有し，かつ，看護師免許（令和2年3月31日までに取得見込みを含む。）を有すること。
(13) 看護学コース入学志願者のうち，高度実践看護学科目群を志望することができる者は，(1)～(11)のいずれかに該当する出願資格を有し，かつ，看護師として3年以上の実務経験を有すること（事前に高度実践看護学科目群の指導教員に確認のこと）

※ 出願資格(11)の「個別の出願資格審査」は，短期大学，高等専門学校，専修学校，各種学校やその他の教育施設の卒業又は修了者等で大学卒業の資格を有しない者について，研究歴や実務経験等の個人の能力について個別に審査を行い，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者について出願を受付け，受験を許可する。
※ **出願資格(9)，(10)又は(11)により出願しようとする者は，事前に出願資格審査を行うので，「9. 出願資格審査（P6）」により出願前に出願資格の認定を受けること。**

【社会人特別選抜】

上記「一般選抜」の(1)から(13)の出願資格のいずれかに該当する者で，かつ，令和2年4月時点で，医療・保健・福祉施設，教育研究機関，官公庁，企業等において，2年以上の専門的な実務経験（通算可）を有し，入学後もその身分を継続する者。なお，この選抜により入学した社会人は，大学院での学修を容易とするための「大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例」の制度を活用することができる。

・第14条適用希望者は，入学願書の第14条適用希望有無欄に○印で表記してください。
・ただし，看護学コース公衆衛生看護学科目群，助産学科目群，高度実践看護学科目群で開講される実習科目及び実践看護研究については，第14条の適用はありません。

※ 参考：大学院設置基準第14条（昭和49年文部省令第28号抜粋）
第14条 大学院の課程においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

【外国人留学生特別選抜】

上記(3)から(6)，(10)，(11)の出願資格のいずれかに該当し，
・国費（日本国政府（文部科学省）奨学金による）留学を希望する場合
日本政府（文部科学省）奨学金の申請にあたって「受入内諾書（Letter of Acceptance）」が必要な場合は，希望する研究分野の教員に直接受入を依頼し，内諾が得られた場合は教員に「受入内諾書」を記入してもらう。
・私費留学を希望する場合
入学したい研究分野の教員の「受入教員の推薦書」が必要。

4. 出願手続

(1) 出願期間

令和元年7月8日（月）から令和元年7月12日（金）午後5時まで
受付時間：午前8時30分から午後5時まで（土日を除く）
（郵送による場合は書留速達とし，出願期間内必着のこと）

※外国人留学生特別選抜の出願方法
①インターネット出願
Ⅰ. 北海道大学のホームページインターネット出願サイトにアクセスすること。
（http://e-apply.jp/e/hokudai-hs/）
注1）事前に操作手順や注意事項を必ず確認すること。
注2）本サイト利用にあたり，必要書類の出力，申込み及び入学検定料支払いの完了メールの通知を受信するため，プリンター及びメールアドレスが必要となる。必ず事前にプリンター及びメールアドレス（携帯電話のメールアドレスは不可）を用意すること。
Ⅱ. 画面のガイダンスに従い必要事項を選択，入力すること。

Ⅲ. 必要事項の入力が正常に完了すると，登録されたメールアドレス宛に「出願完了メール」が届く。

②検定料の支払い（国費外国人留学生を除く）

Ⅰ. インターネット出願後に表示される支払手続き画面に従い，支払手続きを行うこと。
次のa）～c）のいずれかの方法により支払うこと。

a）クレジットカードによる支払い
「カード番号」「有効期限」「カード名義」「セキュリティコード」を入力すること。

b）Pay-easy（銀行ATM,ゆうちょ銀行ATM,ネットバンキング），コンビニエンスストア，ジャパンネット銀行，楽天銀行による支払い
【Pay-easyの場合】
支払機関選択後に発行される「収納機関番号」「お客様番号」「確認番号」を必ずメモし，Pay-easy対応ATMで支払うこと。
【コンビニエンスストアの場合】
支払機関選択後に発行される「お客様番号」「確認番号」又は「オンライン決済番号」を必ずメモし，コンビニエンスストアで支払うこと。
（ローソン，ファミリーマート，サークルKサンクス，ミニストップ，デイリーヤマザキにて利用可能）
【ジャパンネット銀行，楽天銀行の場合】
画面の説明に従い支払うこと。

c）中国銀聯ネット決済（ChinaPay）による支払い
各銀行の支払い画面にて,「銀行口座番号」「有効期限」「パスワード」などの支払い情報を入力し支払うこと。

Ⅱ. 支払機関により支払に必要な情報や方法が異なるので，画面の説明を必ず確認すること。
検定料の他，出願者は事務手数料として500円を負担することになるので注意すること。
☆クレジットカード又は中国銀聯ネット決済による支払ができない者で，出願時に海外に在住する者は，日本国内にいる者に依頼し，a）又はb）の支払方法より支払うこと。

③出願書類の郵送

Ⅰ. インターネット出願後に作成される願書，及びその他出願に必要な書類を（郵送の場合は願書と一緒に印刷される宛名ラベルを封筒に貼り）出願期間内に提出（郵送）すること。

Ⅱ. **全ての書類が本学に到着した時点をもって出願手続完了となる。インターネットで出願登録を行っただけでは出願手続完了とならないので注意すること。**

④インターネット出願に関する問い合わせ

・問い合わせ方法
電話又は電子メールによること。
「学び・教育」出願・申込サービスサポートセンター
電　話：0120-708898　※フリーダイヤルが利用できない場合　03-5804-5515
E-mai：cvs-web@disc.co.jp

(2) 出願書類及び検定料

【一般選抜】

1	入学願書	所定の用紙
2	受験票・写真票	所定の用紙 必要事項を記入し，写真（縦4cm×横3cm，正面・上半身・無帽・無背景で出願前3ヶ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名を記入のうえ，所定欄に各1枚貼付すること。
3	志望理由書	所定の用紙
4	卒業証明書又は 卒業見込証明書	出身大学（学部）長が作成したもの 本学医療技術短期大学部卒業者及び本学医学部保健学科卒業（見込を含む）者は提出不要 出願資格（9），（10）又は（11）の者は，入学資格審査結果の（写）
5	成績証明書	出身大学（学部）長が作成し，厳封したもの 本学医療技術短期大学部卒業者及び本学医学部保健学科卒業（見込を含む）者は提出不要 （出願資格審査を受け，提出している場合は省略）

6	検定料	30,000円（国費外国人留学生を除く） 最寄りの郵便局又は銀行において，添付の振込用紙（郵便局・銀行併用・5票式）により納付すること。
7	検定料受付証明書台紙	氏名を記入し，上記の入学検定料を納付した際に交付される「検定料受付証明書」を指定欄に貼付すること。
8	受験票送付用封筒	所定の封筒に志願者の住所，氏名，郵便番号を記入し，定形料金の切手（82円）を貼ったもの。
9	宛名票	所定の用紙 2カ所に志願者の住所，氏名，郵便番号を記入したもの 入学手続き関係書類及び試験結果通知書送付用
10	在留カード等（写）	日本に在住している外国人は，在留資格が明記されている証明書（写）を提出すること。
11	【公衆衛生看護学・助産学・高度実践看護学科目群を志願する方のみ】 看護師免許証（写）又は登録済証明書（写）	公衆衛生看護学科目群，助産学科目群，高度実践看護学科目群を志願する者は，出願時に看護師免許を有する者は看護師免許証（写）を提出すること。看護師免許取得見込みの者は国家試験終了後，すみやかに厚生労働省発行の登録済証明書（写）を提出すること。 提出しなかった場合は，入学を取り消すことがある。

注　学位授与機構からの学士の学位授与者は，学位授与証明書及び学位授与審査を受けた修得単位に係る成績証明書を添付すること。

【社会人特別選抜】

社会人特別選抜による出願者は，上記の一般選抜による出願書類等の他に，下記書類を併せて提出すること。

12	就学承諾書	所定の用紙 所属長が発行したもの
13	在職期間証明書	在職時の職名，勤務期間を証明できる書類（任意の様式） （出願資格審査を受け，提出している場合は省略）

【外国人留学生特別選抜】

外国人留学生特別選抜による出願者は，1～10の書類を準備し，出願期間内に提出すること。

1	入学願書	インターネット出願サイトにて，必要事項の入力後に作成される願書をA4判で印刷し，出願前3ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真（縦4cm×横3cm）を所定の欄に貼ること。（履歴事項を含む）
2	受験票・写真票	インターネット出願サイトにて，願書と一緒に印刷される写真票に，出願前3ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真（縦4cm×横3cm）を所定の欄に貼ること。なお，写真の裏には，氏名を記入すること。
3	推薦書	所属長または最終出身学校の校長もしくは教員の推薦書
4	卒業証明書又は卒業見込証明書	出身大学の長が証明したもの（英文または和文）
5	成績証明書	出身大学の長が証明したもの（英文または和文）
6	志望理由書	A4判2枚程度（様式あり，手書き不可）
7	検定料	30,000円（国費外国人留学生を除く） 《納入方法》 ①検定料は，インターネット出願後に表示される支払手続き画面に従い，支払手続きをとること。支払方法は以下のとおり。 Ⅰ．クレジットカードによる支払い （VISA,MasterCard,JCB,AMERICAN EXPRESS等） Ⅱ．Pay-easy（銀行ATM,ゆうちょ銀行ATM,ネットバンキング），コンビニエンスストア，ジャパンネット銀行，楽天銀行による支払い （支払方法の選択後に発行される各種支払用の番号を忘れずにメモし，各支払機関に持参すること。）

7	検定料	Ⅲ．中国銀聯ネット決済（ChinaPay）による支払い 注）クレジットカード又は中国銀聯ネット決済（ChinaPay）で支払ができない者で,出願時に海外に居住する者は,日本国内にいる者に依頼して,Ⅰ又はⅡのいずれかの方法により支払うこと。 ②普通為替や現金では受理できないので,注意すること。 ③支払後に受け取るお客様控え又は支払完了通知メールを印刷したものは,本人の控えとして大切に保管すること。
8	語学力を証明する書類 （英語・日本語）	英語：TOEFLまたはIELTSの得点票（原本） 日本語：日本語検定試験結果，予め研究生として本学に在籍している学生は留学生センターの講義受講修了証でも可
9	受入内諾書または 受入教員の推薦書	A4判1枚程度（書式は任意，手書き不可） （入学したいコースの科目群の受入予定教員が記入したもの）
10	その他	「学費を保障する書類」「パスポート（写）または在留カード（写）」

（3）出願書類提出先

〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目

北海道大学医学系事務部保健科学研究院事務課教務担当　電話：011-706-3318

（4）出願にあたっての注意事項

① 出願書類に不備がある場合は受理しないことがある。誤記又は記入漏れのないことを確認すること。

② 出願書類の受理後は，提出された出願書類の返却及び変更には応じない。

③ 出願書類の記載内容が事実と相違する場合は，入学を取り消すことがある。

④ 改姓等により卒業証明書等の氏名が異なっている場合は，戸籍抄本を添付すること。

⑤ 郵送により出願する場合は，綴じ込みの封筒を使用して書留速達とすること。また，持参する場合も，同封筒に出願書類を入れて提出すること。

⑥ 身体に障害を有する者で，受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は，出願期間前までに出願書類提出先の保健科学研究院事務課教務担当に申し出ること。

⑦ 7頁の「10.長期履修制度について」に申請する場合は，同制度への申請書を出願書類提出時に併せて申し出ることになっているので注意すること。

⑧ 既納の検定料は次の場合を除き，返還しない。

a） 検定料を納付したが，出願しなかった場合又は出願書類に不備があり受理されなかった場合

b） 検定料を誤って二重に納付した場合

※ 上記に該当する場合は，保健科学研究院事務課教務担当へ請求すること。
なお，返還には相当の日数を要するので予めご了承願います。
また，返還の請求に，検定料納付の際に金融機関から発行される「検定料受付証明書」又は「振替払込請求書兼受領書（払込金（兼手数料）受領書）」が必要になるので大切に保管願います。

5．入学者選抜方法

学力試験，面接及び提出された出願書類の審査結果を総合して判定する。
ただし，外国人留学生特別選抜の出願者については，出願書類の審査により判定する。

6．試験日程及び試験科目等

（1）学力試験日

令和元年8月20日（火）

(2) 試験科目・時間・試験場(一般選抜・社会人特別選抜)

コース等 / 試験科目	試験区分	保健科学コース	看護学コース	
		全科目群	看護学科目群	公衆衛生看護学・助産学・高度実践看護学科目群
外国語(英語)【TOEFL-ITP】	筆答	9:00～11:30		
専門科目(小論文)	筆答	12:30～13:30		
専門科目(各科目群出題の筆記試験)	筆答			13:50～14:50
面接	口述	14:00～	14:00～	15:00～

※辞書持ち込み不可
※※専門科目は,上記のとおり, 志望するコース・科目群により内容と終了時刻が異なります。

7. 合格者発表

令和元年9月20日(金)午前10時(ホームページ掲載は午前10時30分頃)
大学院保健科学院玄関掲示板に掲示すると共に保健科学院ホームページに掲載発表する。
また, 受験生には郵送により通知する。(http://www.hs.hokudai.ac.jp/)
電話等による合否の問い合わせには, 一切応じない。

8. 入学手続等

(1) 入学に関する手続き方法及び入学手続き期間等の詳細は, 合格通知書送付時に通知する。

(2) 授業料等学生納付金
① 入学料:282,000円(予定額)
② 授業料:前期分 267,900円(予定額), 年額 535,800円(予定額)
注1 上記の納付金は予定額であり, 入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には, 改訂時から新たな納付金が適用される。
注2 入学料及び授業料には, 徴収の猶予・納付の免除制度があり, 手続き方法の詳細は, 合格通知書送付時に通知する。

9. 出願資格審査

出願資格(8),(9)又は(10)により出願しようとする者は, 下記により出願資格の認定を受けること。
(1) 提出期間
令和元年6月19日(水)から6月25日(火)午後5時まで
受付時間:午前8時30分から午後5時まで(土日を除く)
(郵送による場合は書留速達とし, 提出期間内必着のこと)

(2) 提出書類
1) 出願資格(8)又は(9)により出願しようとする者

① 出願資格審査申請書	所定の用紙
② 成績証明書	在籍大学(学部)長等が発行したもの(厳封のもの)
③ 在学証明書	在籍大学(学部)長等が発行した在学期間の入ったもの
④ 推薦書	在籍する大学の長(学長, 学部長等)が作成したもの(厳封のもの)
⑤ 返信用封筒	審査結果通知用:長形3号の封筒に宛先を明記し, 362円切手を貼付したもの

2) 出願資格(10)により出願しようとする者

① 出願資格審査申請書	所定の用紙
② 最終学校成績証明書	出身学校長等が発行したもの(厳封のもの)
③ 最終学校卒業証明書	出身学校長等が発行したもの
④ 在職期間証明書	技術的・専門的職業についての職歴を有する者は, その期間及び職務内容を明記した機関の長等が作成したもの
⑤ 自己推薦書	所定の用紙:研究歴や実務経験, 研究業績等がある場合は, 証明する書類の(写)を添付すること
⑥ 最終学歴に関する資料	短期大学, 高等専門学校, 専修学校及び各種学校の卒業者は, 当該課程の入学資格, 卒業要件(在学期間・授業科目・単位数)及び卒業に必要な授業科目のシラバス 等(授業内容が記載されているもの)
⑦ 返信用封筒	審査結果通知用:長形3号の封筒に宛先を明記し, 362円切手を貼付したもの

注1　②, ③は, 高等学校卒業以上の学歴について証明書を提出すること。
注2　②, ③及び⑥は, 北海道大学医療技術短期大学部卒業分は提出不要。

(3) 提出方法・提出先
① 封筒の表に「保健科学院修士課程出願資格審査書類在中」と朱書きすること。
② 提出先
〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目
北海道大学医学系事務部保健科学研究院事務課教務担当

(4) 審査方法
提出された書類により, 修得した単位数及び成績並びに研究・実務経験等の内容を個別に審査する。
なお, 審査する上で必要と認めた場合は, 上記以外の書類の提出を求めることがある。

(5) 審査結果の通知
出願資格審査結果は, **令和元年7月5日(金)**に郵送により通知する。

10. 長期履修制度について

職業を有する等(介護・育児等を含む)の事情により, 標準修業年限(2年)を超えて一定(4年を超えない期間)にわたり計画的に教育課程を履修して修了することができる。なお, 長期履修の可否は, 審査の上決定する。
また, 本制度に申請する場合は, 入学願書提出時に申し出なければならないので, 早めに計画すること。
詳細は, 出願書類提出先(保健科学研究院事務課教務担当)まで問い合わせること。

11. 個人情報の取り扱いについて

本学では, 出願の際に提出された入学願書等に記載されている氏名, 性別, 生年月日, 住所及びその他の個人情報は, 入学者選抜(出願処理, 選考), 合格発表及び入学手続(入学時に必要な経費の通知, 書類の送付, 入学後の連絡事項)並びに学籍・成績管理を行うために利用します。また, 取得した個人情報は適切に管理し, 利用目的以外に利用しません。
ただし, 上記個人情報のうち, 氏名, 住所に限って, 北大フロンティア基金及び本学関連団体である北海道大学体育会や財団法人北海道大学クラーク記念財団からの連絡, 及び本学院主催の行事案内を行うために利用する場合があります。

保健科学院 保健科学専攻

1. 教育上の理念・目的

○ 最新の知識と実践技術を有する高度医療専門職者および指導者の育成
○ 次世代の保健科学を担う高度医療専門職者および教育・研究者の育成
○ 専門分野をこえて世界の保健科学研究をリードする研究者の育成

生命医科学や科学技術の急速な進歩・発展により，移植医療，再生医療，生殖医療，遺伝子治療など医療の高度先進化と専門化・細分化と共に，診断・治療機器の高度複雑化，遠隔医療支援システムなど新医療システムの実現化が進行している。このような高度先進医療が広く浸透するにつれて，国民にも高度先進医療への関心や高度医療志向が高まりつつある。これら高度先進医療を支援し，今後さらに発展させ推進するためには，専門医師のみならず，それぞれの高度先進医療に即応しうる確かな専門的知識と優れた医療技術を修得した看護師，保健師，助産師，診療放射線技師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士などの高度医療専門職者（Advanced Health Professionals）の養成が不可欠である。

一方，日本社会は現在，豊かな国民生活を送る上で保健医療において非常に大きな諸問題にも直面している。その第一は，少子化・高齢化による人口構成の急速な変化である。すなわち先進国のなかでも日本では類を見ない速度で高齢化が進んでいる。このことは，疾病構造が高齢者型へ移行し，障害者・要介護者及び高齢者単独世帯の急増を予測させ，在宅ケアを始めとする自立支援・地域生活支援や運動・生活機能の回復支援に対して，効率的かつ経済的な新しい方法論を創出し，それを実践推進する高度医療専門スタッフの人材養成が重要であることを意味する。

第二は，中高年世代においても，不規則な夜型生活，偏った食事，運動不足や睡眠不足などライフスタイルの大幅な変化により，生活習慣病に繋がる可能性の高いメタボリック症候群及びその予備群人口の急激な増加が明らかにされたことである（「平成16年度国民健康・栄養調査結果」）。この調査結果は，個々人の生活習慣病へのリスクを総合的かつ科学的に判断し，特定健診・特定保健指導などの新たな健康政策を地域や企業等で推進したり，健康づくりを自らコーディネートできる高度保健スタッフの育成も急務であることを示している。

さらに，こうした保健医療上の諸問題は，国民における健康増進や疾病予防への関心度を大いに高め，将来にわたるQOL（Quality of Life：生活・生命の質）の維持を重視した新たな健康価値観を生み出している。しかし，時には健康食品や輸入食品，サプリメントへの過剰な依存あるいは科学的根拠の希薄な保健情報への過剰反応が社会問題化することもある。このような状況に対して，疾病への専門的知識を背景として，保健情報の妥当性を判断し，正確な保健情報を積極的に発信できる高度医療専門職者の育成も求められている。

本保健科学院は，これらの医療上のニーズ及び社会的ニーズに応えるため，学部教育で培った専門的な医療技術や知識をスキルアップし，また，専門職としての実務経験を生かして，それぞれの専門分野で高度な専門的判断能力と倫理性及び最新の医療技術の実践的能力を有する指導的役割を担う人材やＥＢＨ（Evidence-Based Health:科学的根拠に基づく保健）を導入した次世代の保健科学を担う高度医療専門職者・教育者・研究者を育成し，また，国際的視野から世界の保健科学研究をリードしうる研究者を育成する。

2. アドミッション・ポリシー（求める学生像）

・本保健科学院は，保健科学における専門技術を高めると共に，様々な分野の融合と連携を通して，学術的な発展を目指すべく，保健医療系の学部教育を受けた学生のみならず，異なる背景の学問を身につけた学生を受け入れ，地域や文化，国籍を問わず，広く人材を求める。
・本保健科学院の教育理念に基づいた人材育成を図るため，それにふさわしい意欲・学力・創造力・論理性・リーダーシップを有する学生を選抜する。

3. 各コースの概要

1）保健科学コース

保健科学コースでは主に保健医療系学部・学科を卒業した医療技術者に対する人材育成を行う。

（1）診療放射線技師および臨床検査技師を対象として，新しい放射線診断・治療システムや臨床検査システムに関する基礎から臨床までの総合的知識と専門的技術を有する高度専門技術者および高度先進技術の指導的役割を担うリーダーの育成並びに新規医療技術や医療システムの開発研究に携わる研究者を志向する人材を育成する。

（2）理学療法士および作業療法士を対象として，リハビリテーション科学を基盤とした理学療法領域，作業療法領域等の最新の知識と専門技術，課題探求・問題解決能力を備えた学識豊かな高度医療専門職者を育成する。

（3）保健医療や保健科学に関心があり，EBHを実践しようとする栄養士や健康運動指導士なども受け入れ，医療関係者と連携できる医学的知識や検査技術を修得させる。

（4）学会が認定する専門士資格取得を目指す者には，大学病院等の教育医療機関との連携により，指導者の下で実務経験を積み，資格取得への初期研修と位置付ける。

（5）新技術の開発研究に従事する研究者や高度医療専門職を育成する教育者を目指す者には，個別の課題研究や研究指導を通じて，探求心や研究能力を涵養し，そのうえで，博士課程へ進学する力を身につけさせる。

2）看護学コース

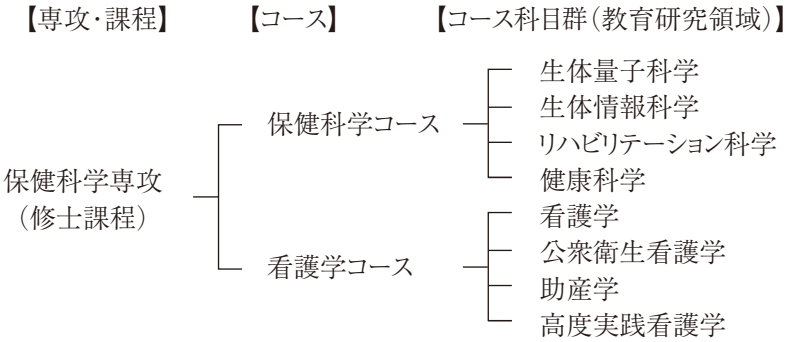
看護学コースでは，主に保健医療系学部・学科を卒業した，看護師，保健師，助産師に対する人材育成を行う。

（1）看護学及び関連領域における最新の知識と技術，倫理的判断力，企画評価能力及びグローバルな視野を備えた，教育・研究を担う学識豊かな人材を育成する。

（2）看護実践領域における最新の知識，専門技術および判断力を備え，倫理問題や複雑な健康課題に対応でき，指導的役割を担う専門性の高い実践能力を有する人材を育成する。

（3）看護系教育機関で看護師，保健師，助産師を育成する教員を目指す者には，個別の課題研究や研究指導を通じて，探求心や研究能力を涵養し，そのうえで，博士課程へ進学する力を身につけさせる。

4. 専攻・コース・コース科目群（領域）等



5. 履修方法・修了要件・学位授与及び修了後の進路

1）履修方法

（1）履修上の区分として専門領域の人材育成理念に対応するコース制すなわち，保健科学コースと看護学コースを導入し，この教育課程を構築するために，各コースの人材育成にも関連する専攻共通基礎科目のほか，各コースの履修者における専門性を追求するコース科目群を各年次・各学期に配置し，より体系的な履修が可能となるようにした。

（2）原則として講義形式の「特論」は1年次1学期あるいは2学期に開講して基礎的理論を教授する。

（3）「演習」は1年次2学期の開講とし，「特論」で修得した理論的基盤を発展させた方法論や技術論を体験や実習を通して学ぶと共に，最新文献の調査分析を行う。

（4）「実践演習」では，看護領域専門分野における高度な実践応用能力を涵養するために，教育医療施設での実践的演習を行う。

(5) 2年次に通年開講する「保健科学研究」,「看護科学研究」では, 指導教員の下で修士論文テーマに沿った個別的研究を展開し, データをまとめて修士論文を作成する。また,「実践看護研究」においては, 修士論文に代えて, 指導教員の下で事例または調査研究を実施し, その結果を特定課題研究報告書としてまとめることができる。

2) 修了要件

(1) 本課程に2年以上在学して, 次項に記載の各コース・科目群に定められた単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けたうえ, 修士論文又は特定課題研究報告書の審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。最終試験は公開での口頭発表とし, 質疑応答内容について審査する。

(2) 各コース・科目群の修了に必要な単位は次のとおりである。

・保健科学コース・全科目群	30単位
・看護学コース　・看護学科目群	30単位
・看護学コース　・公衆衛生看護学科目群及び助産学科目群	36単位
・看護学コース　・高度実践看護学科目群	36単位

(3) 在学期間については, 学院教授会が優れた業績を上げたと認定した者については, 1年以上在学すれば足りるものとする。

3) 学位授与

本課程を修了した者に対し, 本学学位規程に定めるところにより, 修士(保健科学)又は修士(看護学)の学位を授与する。

4) 国家試験受験資格

大学院保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コースにおいて, 公衆衛生看護学科目群で保健師, 助産学科目群で助産師の国家試験受験資格が取得できます。

5) 認定教育課程

大学院保健科学院修士課程保健科学専攻看護学コースにおいて, 高度実践看護学科目群はがん看護専門看護師の受験資格のひとつである, 日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準の所定の単位が取得できる教育機関として認定を受けています。

6) 修了後の進路

北海道大学大学院保健科学院博士後期課程への進学のほか次のとおりである。

(1) 保健科学コース
① 各種医療機関の高度医療専門職者・指導者(技師長, 副技師長, 主任など)
② 製薬企業, 食品企業, 検査機器・試薬メーカー, 介護福祉機器メーカーにおける研究開発者

(2) 看護学コース
① 看護師長及び地域看護における企画力を持つ管理者
② 指導的役割を担う専門性の高い実践能力を持つ看護師・助産師
③ 保健行政の企画立案に携わる保健師
④ 看護系教育機関の教員

主任指導教員の主な研究内容及び連絡先（保健科学院 修士課程）

保健科学専攻

令和元年6月1日現在

コース	コース科目群（教育研究領域）	指導教員 職・氏名・E-mail	主たる研究内容
保健科学コース	生体量子科学	教授 山本　徹 yamamoto@hs.hokudai.ac.jp	1）水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2）MRアーチファクトフリーのインプラントの開発 3）MRI検査安全性に関する研究
		教授 伊達広行 date@hs.hokudai.ac.jp	1）生体組織における放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2）生体の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3）放射線治療における最適分割照射の検討
		教授 神島　保 ktamotamo2@hs.hokudai.ac.jp	1）単純写真による関節裂隙狭小化自動検出に関する研究 2）超音波やMR画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 3）骨粗鬆症の定量化に関する研究
		准教授 杉森博行 sugimori@hs.hokudai.ac.jp	1）人工知能技術を医用画像へ応用した診断補助技術の開発 2）医用画像解析による新たな定量値導出に関する研究 3）プログラミングによる医用画像解析手法の開発
	生体情報科学	教授 山口博之 hiroyuki@med.hokudai.ac.jp	1）ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2）自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3）環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
		教授 石津明洋 aishizu@med.hokudai.ac.jp	1）血管炎の病理と病態 2）生体防御システムとその破綻に関する研究 3）免疫細胞の機能解析
		教授 惠　淑萍 keino@hs.hokudai.ac.jp	1）リポ蛋白，過酸化脂質，脂肪酸，生理活性脂質（プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン）の研究 2）糖尿病腎症のバイオマーカー・検査試薬の開発 3）非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）と脂肪滴および機能性食品の研究
		教授 尾崎倫孝 ozaki-m@med.hokudai.ac.jp	1）ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2）肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析（とくに脂肪肝・NASH、虚血・再灌流傷害のメカニズム）。 3）「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
		准教授 政氏伸夫 nmasauzi@hs.hokudai.ac.jp	1）血液細胞を対象としたデジタル形態学に関する研究 2）デジタル形態学の各種血液疾患の病態解析への応用 3）血液検体の保管期間延長法に関する研究 4）好中球細胞質内顆粒の定量的解析 5）検査血液学教育のための実習用サンプルや画像教材に関する研究
		准教授 加賀早苗 sanae@med.hokudai.ac.jp	1）心血管疾患の超音波による病態評価 2）心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる評価 3）超音波検査の標準化と精度管理の方法論の検討
	リハビリテーション科学	教授 浅賀忠義 ask-chu@hs.hokudai.ac.jp	1）姿勢制御のメカニズムに関する研究 2）運動学習と定量的評価に関する研究 3）加齢および神経疾患のバランス障害に関する研究
		教授 遠山晴一 tohyama@med.hokudai.ac.jp	1）運動器リハビリテーションに関する研究 2）アスレチックリハビリテーションに関する研究 3）腱・靱帯組織の生物学および生体力学
		教授 前島　洋 maeji@hs.hokudai.ac.jp	1）運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2）高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究 3）中枢神経系疾患の運動療法に対するニューロモジュレーション
		教授 境　信哉 sakai@hs.hokudai.ac.jp	1）大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2）高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3）大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
		准教授 寒川美奈 mina@hs.hokudai.ac.jp	1）スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2）運動療法の効果に関する研究 3）ウィメンズヘルスに関する研究（骨盤底筋トレーニング有効性の検証）
		准教授 宮崎太輔 miyazaki@med.hokudai.ac.jp	1）中枢神経における神経終末とシナプス後部の特異的結合様式の解明 2）小脳神経回路発達様式の解明 3）小脳における帯状構造特異的入出力様式の解明
		准教授 千見寺貴子	1）滑膜線維化メカニズムの解明と治療応用 2）組織再生と慢性炎症における細胞老化の役割の解明 3）間葉系間質細胞を用いた慢性炎症性疾患の治療メカニズムと臨床応用

コース	コース科目群 （教育研究領域）	指導教員 職・氏名・E-mail	主たる研究内容
保健科学コース	健康科学	教授 齋藤　健 taksaito@med.hokudai.ac.jp	1）環境要因による継世代影響の解明 2）微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3）老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
		教授 横澤宏一 yokosawa@med.hokudai.ac.jp	1）記憶や認知機能（音楽認知，時間感覚など）の無侵襲計測とイメージング 2）電気生理学的手法による内因性脳活動（感情や衝動，ストレスなど）の定量計測に関する研究 3）高次脳機能情報の医工学的応用に関する研究
		教授 小笠原克彦 oga@hs.hokudai.ac.jp	1）医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2）遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3）医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
		教授 山内太郎 taroy@med.hokudai.ac.jp	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1）子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2）安全な飲料水、サニテーション、衛生（WASH） 3）ライフスタイル（食と栄養、運動）、健康、QOL、Wellbeing
		教授 惠　淑萍 keino@hs.hokudai.ac.jp	1）リポ蛋白，過酸化脂質，脂肪酸，生理活性脂質（プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン）の研究 2）糖尿病腎症のバイオマーカー・検査試薬の開発 3）非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）と脂肪滴および機能性食品の研究
		准教授 大槻美佳 lasteroideb612@pop.med.hokudai.ac.jp	1）高次脳機能障害（失語、失行、失認、記憶障害等）の臨床研究 2）機能画像、眼球運動解析装置等を用いた高次脳機能のメカニズム解明 3）言語の脳内メカニズムに関する研究
看護学コース	看護学 公衆衛生看護学 助産学 高度実践看護学	教授 佐川　正 t-sagawa@hs.hokudai.ac.jp	1）札幌市の産婦人科救急における助産師による電話相談事業の現状と課題 2）北海道における助産師外来の実態調査 3）フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響に関する研究
		教授 佐藤洋子 ys@hs.hokudai.ac.jp	1）小児医療における子どもの自律性に関する研究 2）小児に対する情報提供と看護スキルの開発 3）健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
		教授 尾崎倫孝 ozaki-m@med.hokudai.ac.jp	1）ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2）肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析（とくに脂肪肝・NASH、虚血・再灌流傷害のメカニズム）。 3）「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
		教授 結城美智子 yukimck@hs.hokudai.ac.jp	1）リハビリテーション看護技術の開発 2）高齢慢性疾患患者の重症化予防とセルフマネジメント 3）地域高齢者の介護予防に関する研究 4）在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究
		教授 齋藤　健 taksaito@med.hokudai.ac.jp	1）環境要因による継世代影響の予防 2）微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3）老化を制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
		教授 小笠原克彦 oga@hs.hokudai.ac.jp	1）看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2）遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3）看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
		教授 矢野理香 r-yano@med.hokudai.ac.jp	1）看護技術の成果モデル開発と効果に関する研究 2）熟練看護師の技の可視化に関する研究 3）看護技術教育の方法論と効果に関する研究
		教授 山内太郎 taroy@med.hokudai.ac.jp	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1）子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2）安全な飲料水、サニテーション、衛生（WASH） 3）ライフスタイル（食と栄養、運動）、健康、QOL、Wellbeing
		准教授 宮島直子 miyajima@hs.hokudai.ac.jp	1）精神看護技術の開発と効果に関する研究 2）看護職者のメンタルヘルスに関する研究 3）看護場面におけるコミュニケーション・チャンネルの研究
		准教授 大槻美佳 lasteroideb612@pop.med.hokudai.ac.jp	1）認知機能（高次脳機能）に関する研究 2）各種神経疾患の認知機能（高次脳機能）に関する研究

コース	コース科目群 （教育研究領域）	指導教員 職・氏名・E-mail	主たる研究内容
看護学コース	看護学 公衆衛生看護学 助産学 高度実践看護学	准教授 安積陽子 y_asaka@hs.hokudai.ac.jp	1）乳幼児の睡眠覚醒リズムの発達に関する研究 2）極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 3）助産師教育に関する研究
		准教授 岩本幹子 miki@hs.hokudai.ac.jp	1）修士課程における学際的倫理教育プログラムの開発 2）看護におけるリーダーシップと看護管理の機能に関する研究
		准教授 鷲見尚己 nsumi@hs.hokudai.ac.jp	1）退院支援，移行ケア，地域連携におけるプログラム開発と標準化 2）外来看護，継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3）がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究
		准教授 平野美千代 mihirano@med.hokudai.ac.jp	1）要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2）高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3）行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4）修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

授業科目担当教員一覧(保健科学院　修士課程)

令和元年6月1日現在

コース	科目群	授業科目名	担当教員氏名 ※責任教員であることを示す	単位	学年／開講期
専攻共通基礎科目		医療倫理特論	岩本幹子	1	1,2／1学期
		看護倫理特論	岩本幹子, 鷲見尚己	2	1,2／1学期
		リスクマネージメント特論	小笠原克彦	1	1,2／1学期
		実験研究方法特論	齋藤　健, 横澤宏一, 山本　徹, 千葉仁志, 石津明洋, 前島　洋, 布田博敏, 武田晴治	2	1／通年
		事例研究方法特論	境　信哉, 佐藤洋子, 小林範子	2	1／通年
		質的研究方法特論	未定	2	1／通年
		調査研究方法特論	山内太郎, 伊藤陽一, 佐藤三穂	2	1／通年
		看護研究方法特論	鷲見尚己, 伊藤陽一, 矢野理香, 青柳道子	2	1／通年
		保健統計学演習	小笠原克彦	2	1,2／1学期
		先端検査医学特論	山口博之, 政氏伸夫, 惠　淑萍, 大久保寅彦, 清水　力	2	1,2／1学期
		がん・再生医療特論	尾崎倫孝, 神島　保	2	1,2／1学期
		機能解剖学特論	宮﨑太輔	2	1／2学期
		健康科学特論	齋藤　健, 山内太郎, 尾崎倫孝, 横澤宏一, 小笠原克彦, 布田博敏, 大槻美佳	2	1,2／1学期
		スポーツ・体力科学特論	寒川美奈, 瀧澤一騎	2	1,2／1学期
		食品機能学特論	武田晴治, 原　　博	2	1,2／1学期
		栄養薬理学特論	井関　健	2	1,2／1学期
		チーム医療特論	鷲見尚己, 青柳道子	2	1,2／1学期
		医療財務会計論	小笠原克彦, 山田祥夫	1	1／2学期
		病院経営戦略論	小笠原克彦	1	1／2学期
		病院組織管理論	小笠原克彦, 松尾　睦	1	1／2学期
		医療マーケティング論	小笠原克彦	1	1,2／1学期
		医療政策学	小笠原克彦, 榎本芳人	1	1,2／1学期
		医療経済学	小笠原克彦	1	1,2／1学期
		医療管理会計論	小笠原克彦	1	1,2／2学期
		産官学連携マネジメント論	小笠原克彦	1	1,2／2学期
		病院経営情報分析論A	小笠原克彦	1	1,2／2学期
		病院経営情報分析論B	小笠原克彦	1	1,2／2学期
		病院経営ケーススタディA	小笠原克彦	1	1／2学期
		病院経営ケーススタディB	小笠原克彦	1	1,2／1学期
保健科学コース	生体量子科学科目群	医用物理工学特論	山本　徹	2	1,2／1学期
		医用量子線工学特論	伊達広行	2	1,2／1学期
		医用理工学演習	山本　徹, 伊達広行	2	1／2学期
		機能画像解析学特論	加藤千恵次	2	1,2／1学期
		機能画像解析学演習	加藤千恵次	2	1／2学期
		臨床画像技術学特論	神島　保	2	1,2／1学期
		生体画像構造学特論	杉森博行	2	1,2／1学期
		放射線治療技術学特論	石川正純	2	1,2／1学期
		放射線技術学演習	神島　保, 石川正純	2	1／2学期
	生体情報科学科目群	循環機能検査学特論	加賀早苗	2	1／1学期
		超音波画像計測学演習	加賀早苗	2	1／2学期
		検査血液学特論	政氏伸夫	2	1,2／1学期
		検査血液学演習	政氏伸夫	2	1／2学期
		代謝分析化学特論	惠　淑萍	2	1,2／1学期
		代謝分析化学演習	惠　淑萍, 陳　震, 喬琳, 譚慧, Wageh Darwish, Rojeet Shrestha、Dibwe Dya FitaEddy	2	1／2学期
		感染・生体ストレス応答学特論	山口博之, 尾崎倫孝	2	1,2／1学期
		感染・生体ストレス応答学演習	山口博之, 尾崎倫孝	2	1／2学期
		免疫病態学特論	石津明洋	2	1,2／1学期
		免疫病態学演習	石津明洋	2	1／2学期
	リハビリテーション科学科目群	運動制御学特論	浅賀忠義, 前島　洋, 萬井太規	2	1,2／1学期
		運動制御学演習	浅賀忠義, 前島　洋, 萬井太規, 石田知也	2	1／2学期
		運動器障害学特論	遠山晴一, 寒川美奈, 笠原敏史, 石田知也	2	1,2／1学期
		運動器障害学演習	遠山晴一, 寒川美奈, 笠原敏史, 石田知也	2	1／2学期
		人間作業行動学特論	未定	2	1,2／1学期

授業科目担当教員一覧(保健科学院　修士課程)

コース	科目群	授業科目名	担当教員氏名 ※責任教員であることを示す	単位	学年／開講期
保健科学コース	リハビリテーション科学科目群	人間作業行動学演習	未定	2	1／2学期
		発達期障害・高次脳機能障害作業適応学特論	境　信哉，澤村大輔，井上貴雄，吉田一生	2	1，2／1学期
		発達期障害・高次脳機能障害作業適応学演習	境　信哉，澤村大輔，井上貴雄，吉田一生	2	1／2学期
		精神障害リハビリテーション学特論	未定	2	1，2／1学期
		精神障害リハビリテーション学演習	未定	2	1／2学期
	健康科学科目群	環境健康科学特論	齋藤　健	2	1，2／1学期
		環境健康科学演習	齋藤　健	2	1／2学期
		人類生態学特論	山内太郎	2	1，2／1学期
		人類生態学演習	山内太郎	2	1／2学期
		代謝バイオマーカー特論	未定	2	1，2／1学期
		代謝バイオマーカー演習	未定	2	1／2学期
		機能情報計測学特論	横澤宏一	2	1，2／1学期
		機能情報計測学演習	横澤宏一	2	1／2学期
		保健情報科学特論	小笠原克彦	2	1，2／1学期
		保健情報科学演習	小笠原克彦	2	1／2学期
		高次脳機能障害学特論	大槻美佳	2	1，2／1学期
		高次脳機能障害学演習	大槻美佳	2	1／2学期
		環境健康疫学特論	未定	2	1，2／1学期
		環境健康疫学演習	未定	2	1／2学期
	保健科学研究		山本　徹，伊達広行，神島　保，山口博之，石津明洋，惠　淑萍，尾崎倫孝，浅賀忠義，遠山晴一，前島　洋，境　信哉，齋藤　健，横澤宏一，小笠原克彦，山内太郎，政氏伸夫，加賀早苗，寒川美奈，大槻美佳，荒木敦子，杉森博行，宮崎太輔，千見寺貴子，櫻井俊宏，大久保寅彦，澤村大輔，堤　香織，髙木聡志，唐　明輝，笠原敏史，萬井太規，岡田一範，益田紗季子，石田知也，吉田一生，井上貴雄，譚　慧，Wageh Sobhy Abdelrahem Abdallah Darwish	10	1，2／通年
看護学コース	看護学科目群	看護管理学特論	岩本幹子，田中いずみ	2	1，2／1学期
		看護管理学演習	岩本幹子	2	1／2学期
		看護技術学特論	矢野理香	2	1，2／1学期
		看護技術学演習	矢野理香	2	1／2学期
		療養生活支援システム看護学特論	鷲見尚己，溝部佳代，佐藤三穂	2	1，2／1学期
		療養生活支援システム看護学演習	鷲見尚己，溝部佳代，佐藤三穂	2	1／2学期
		がん看護学特論	鷲見尚己，青柳道子	2	1，2／1学期
		がん看護学演習	鷲見尚己，青柳道子	2	1／2学期
		地域看護学特論	平野美千代，青柳道子，吉田礼維子	2	1，2／1学期
		地域看護学演習	平野美千代，青柳道子，大西竜太	2	1／2学期
		看護教育学特論	矢野理香	2	1，2／1学期
		看護教育学演習	矢野理香	2	1／2学期
		高齢者看護学特論	結城美智子	2	1，2／1学期
		高齢者看護学演習	結城美智子	2	1／2学期
		高次脳機能障害・認知症看護学特論	大槻美佳，結城美智子	2	1，2／1学期
		高次脳機能障害・認知症看護学演習	大槻美佳，結城美智子	2	1／2学期
		精神・脳科学看護学特論	宮島直子	2	1，2／1学期
		精神・脳科学看護学演習	宮島直子	2	1／2学期
		国際母子看護学特論	佐藤洋子，安積陽子	2	1，2／1学期
		国際母子看護学演習	佐藤洋子，安積陽子，竹原健二，藤田和佳子	2	1／2学期
		母子看護学特論	佐藤洋子，佐川　正，安積陽子，未定，小林範子	2	1，2／1学期
		母子看護学演習	佐藤洋子，佐川　正，安積陽子，未定，小林範子	2	1／2学期
		予防看護学特論	齋藤　健	2	1，2／1学期
		予防看護学演習	齋藤　健	2	1／2学期
		国際看護学特論	山内太郎	2	1，2／1学期
		国際看護学演習	山内太郎	2	1／2学期
		看護情報科学特論	小笠原克彦	2	1，2／1学期
		看護情報科学演習	小笠原克彦	2	1／2学期

授業科目担当教員一覧(保健科学院　修士課程)

コース	科目群	授業科目名	担当教員氏名 ※責任教員であることを示す	単位	学年／開講期
看護学コース	公衆衛生看護学科目群	公衆衛生看護学特論	平野美千代，結城美智子，境　信哉，水野芳子，井上貴雄，小澤涼子	2	1／1学期
		公衆衛生看護学演習	平野美千代，大西竜太	2	1／2学期
		公衆衛生看護学実践演習	平野美千代，大西竜太，水野芳子，佐伯和子	8	1／2学期,2／1学期
		公衆衛生看護学原論	平野美千代，斉藤佳代子	2	1／1学期
		健康生活支援論	平野美千代，水野芳子，小野寺さやか	2	1／1学期
		地域健康組織活動論	平野美千代，宮﨑隆志，水野芳子，佐伯和子，本田光	2	1／1学期
		産業看護論	平野美千代，齋藤　健，宮崎由美子	1	1／2学期
		地域健康危機管理論	平野美千代，結城美智子，山口　亮，古澤　弥，森　幸野，近藤　望	2	1／2学期
		保健医療福祉行政論	平野美千代，荒川　渓，巻　康弘	2	1／2学期
		公衆衛生看護活動演習Ⅰ	平野美千代，水野芳子，大西竜太，安積陽子，清水光子	2	1／1学期
		公衆衛生看護活動演習Ⅱ	平野美千代，大西竜太，清水光子	2	1／2学期
		公衆衛生看護管理論	平野美千代，宮下常美，宮本まゆみ，澤田さとみ	2	2／1学期
		公衆衛生看護疫学演習	平野美千代，水野芳子，大西竜太，荒木敦子	2	1／1学期
		保健医療福祉公共政策論	平野美千代，加藤智章，榎本芳人，岡島さおり，石井安彦	2	2／2学期
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	平野美千代，大西竜太，清水光子	2	1／2学期
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	平野美千代，大西竜太，清水光子	2	1／2学期
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	平野美千代，大西竜太，清水光子	1	2／1学期
	助産学科目群	助産学特論	安積陽子	2	1／1学期
		助産学演習	安積陽子	2	1／2学期
		助産学実践演習	安積陽子	8	1／2学期,2／1学期
		ウイメンズヘルス特論	佐川　正，小林範子	2	1／1学期
		リプロダクティブヘルス特論	安積陽子	2	1／1学期
		助産対人関係論	安積陽子，宮島直子	2	1／2学期
		助産診断・技術学特論	佐川　正	2	1／1学期
		助産診断・技術学演習Ⅰ	安積陽子，中村真弥	2	1／1学期
		助産診断・技術学演習Ⅱ	安積陽子，中村真弥	2	1／1学期
		乳幼児支援論	佐藤洋子，長　和俊	2	1／2学期
		地域・国際母子保健学	安積陽子	1	2／1学期
		助産マネージメント特論	安積陽子，高室典子	2	1／2学期
		助産学実習Ⅰ	安積陽子，中村真弥	7	1／2学期
		助産学実習Ⅱ	安積陽子，中村真弥	2	2／1学期
		助産学実習Ⅲ	安積陽子，中村真弥	2	2／1学期
	高度実践看護学科目群	フィジカルアセスメント特論	岩本幹子，鷲見尚己	2	1／1学期
		病態生理学特論	尾崎倫孝，大槻美佳、鷲見尚己，青柳道子	2	1／1学期
		臨床薬理学特論	井関　健，鷲見尚己	2	1／1学期
		コンサルテーション特論	鷲見尚己，青柳道子，吉田智美，平山さおり，八木こずえ	2	1／1学期
		臨床腫瘍学特論	尾崎倫孝，平野　聡，豊嶋崇徳，木下一郎，木下留美子，前野　宏	2	1／1学期
		がん看護学特論Ⅰ	鷲見尚己，青柳道子	2	1／1学期
		がん看護学特論Ⅱ	鷲見尚己，青柳道子，平山さおり，石岡明子	2	1／1学期
		がん看護学特論演習Ⅰ	鷲見尚己，青柳道子，菊地美香	2	1／2学期
		がん看護学特論演習Ⅱ	鷲見尚己，青柳道子，部川玲子，石岡明子	2	1／2学期
		がん看護学演習Ⅰ	鷲見尚己，青柳道子	2	1／2学期
		がん看護学演習Ⅱ	鷲見尚己，青柳道子，平山さおり	2	1／2学期
		高度実践看護学実習Ⅰ	鷲見尚己，青柳道子	2	1／2学期
		高度実践看護学実習Ⅱ	鷲見尚己，青柳道子	4	2／1学期
		高度実践看護学実習Ⅲ	鷲見尚己，青柳道子	2	2／1学期
		高度実践看護学実習Ⅳ	鷲見尚己，青柳道子	2	2／1学期
	看護科学研究		佐川　正，佐藤洋子，尾崎倫孝，結城美智子，矢野理香，齋藤　健，小笠原克彦，山内太郎，宮島直子，大槻美佳，安積陽子，岩本幹子，鷲見尚己，平野美千代，溝部佳代，佐藤三穂，青柳道子，コリー紀代	10	1，2／通年
	実践看護研究		佐川　正，佐藤洋子，結城美智子，矢野理香，宮島直子，安積陽子，岩本幹子，鷲見尚己，平野美千代，溝部佳代，佐藤三穂，青柳道子，コリー紀代	8	2／通年

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻（修士課程）

入　学　願　書

※印は，いずれかを○で囲む。　※※印は，社会人特別選抜受験者のみいずれかを○で囲む。

（記入不要）受験番号	

受験区分		※　1. 一般選抜　・　2. 社会人特別選抜　（第14条適用希望：有・無）※※		出願前3ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真を貼付してください。（縦4cm×横3cm）
志願者	ふりがな		性別	
	氏名	昭和・平成　年　月　日生　（満　歳）（令和2年4月1日現在の年齢）	※　男・女	
志望するコース及び科目群（教育研究領域）	※ 志望するコース 1. 保健科学コース 2. 看護学コース	※ 志望する科目群（教育研究領域） 1. 生体量子科学 2. 生体情報科学 3. リハビリテーション科学 4. 健康科学 5. 看護学 6. 公衆衛生看護学 7. 助産学 8. 高度実践看護学		
研究指導を希望する教員名	教員			

出願資格	大学	立　大学　学部　学科			
		※ 昭和・平成・令和　年　月　日			※ 卒業・卒業見込
	出願資格（7），（9），（10）又は（11）による場合	最終学歴（教育機関名） 大学（学校）　学部　学科　課程			
		※ 昭和・平成・令和　年　月　日			※ 卒業・卒業見込

医療関係の取得免許の種類，取得年月及び免許番号	免許の種類	取得年月（免許番号）
		※ 昭和・平成・令和　年　月（免許番号　）
		※ 昭和・平成・令和　年　月（免許番号　）
		※ 昭和・平成・令和　年　月（免許番号　）

現住所	〒　－ TEL　（　）－　－
連絡先（合否通知先）	〒　－ TEL　（　）－　－ 携帯電話がある場合　TEL　（　）－　－

※　本募集要項11頁から13頁に記載している主たる研究内容を参照の上，研究指導を希望する教員に研究内容・研究計画を照会・確認して提出すること。

履 歴 事 項

区 分	年　月	事　項
学 歴	年　月～　年　月	高 等 学 校 卒 業
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
職 歴	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 経 験 等 （経験がある場合は，その概要について記入し，経験が無い場合は「なし」と記入すること。）		
上記のとおり相違ありませんので，必要書類を添えて出願いたします。 令和　　年　　月　　日 出願者署名 ：		

【記入上の注意】

1)黒のボールペンを使用し，楷書で記入すること。
2)氏名は戸籍のとおり記入すること。
3)現住所等は，番地，棟番号等まで正確に記入すること。
4)学歴欄は，高等学校から短期大学，専門学校，各種学校を含めて全て記入すること。
　また，自宅学習や予備校学習を含め，空欄のないようにすること。
5)職業欄は，勤務部署，職名まで詳細に記入すること。
　また，家事手伝い，無職の期間も記入し，空欄のないようにすること。
6)学歴及び職歴の記入欄が不足する場合は，適宜用紙を付け足して記入すること。

令和2年度 北海道大学大学院
保健科学院保健科学専攻（修士課程）

受　験　票

受験番号	※
ふりがな	
氏　　名	
生年月日等	昭和 平成　　年　　月　　日生 （満　　歳）　（男・女）
志望コース及び科目群 （教育研究領域） 【志望コース】 【志望科目群】	出願前３ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真を貼付してください。 （縦４cm×横３cm）

1）※印欄は記入しないこと。
2）試験中は，本受験票を携帯し，指示された場所に置くこと。
3）志望コース及び科目群（教育研究領域）は，「入学願書」と同様に記入すること。

令和2年度 北海道大学大学院
保健科学院保健科学専攻（修士課程）

写　真　票

受験番号	※
ふりがな	
氏　　名	
生年月日等	昭和 平成　　年　　月　　日生 （満　　歳）　（男・女）
志望コース及び科目群 （教育研究領域） 【志望コース】 【志望科目群】	出願前３ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真を貼付してください。 （縦４cm×横３cm）

1）※印欄は記入しないこと。
2）志望コース及び科目群（教育研究領域）は，「入学願書」と同様に記入すること。

※【摘要】

（記入不要） 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻（修士課程）

志　望　理　由　書

志望コース及び科目群 （教育研究領域）	
研究指導を希望する教員名	教員
志　願　者　氏　名	

研究指導予定教員署名欄（必須）

※本用紙に，1,000字程度で作成すること。ワープロ使用の場合は，本様式（A4判）にならい作成すること。

令和2年度　北海道大学大学院
保健科学院保健科学専攻（修士課程）

検定料受付証明書台紙

（記入不要） 受験番号	

ふりがな	
氏　　名	

「検定料受付証明書」　貼　付　欄　E

検定料振込用紙（ゆうちょ銀行・銀行併用型，5票式）記入例

・検定料振込用紙は黒のボールペンで以下のとおり正確に記入すること。
・**払込取扱票（振込通知書）**Ａの「志願者」欄に，**志願者の郵便番号，住所，氏名（フリガナ），電話番号**を記入すること。
・**払込票**Ｂの「志願者」欄に，**志願者の氏名（フリガナ）**を記入すること。
・**払込金受入票（振込依頼書）**Ｃの「志願者」欄に，**志願者の住所，氏名（フリガナ），電話番号**を記入すること。
・**振替払込請求書兼受領証（振込金（兼手数料）受領書）**Ｄの「志願者」欄に，**志願者の氏名（フリガナ）**を記入すること。
・**振替払込受付証明書（お客さま用）**Ｅの「志願者氏名（フリガナ）」欄に，**志願者の氏名（フリガナ）を記入**すること。

※　この「振替払込受付証明書（お客さま用）Ｅ」は，**「検定料受付証明書」**を兼ねており，郵便局・ゆうちょ銀行・銀行等の窓口で検定料納付後，「振替払込請求書兼受領証（振込金（兼手数料）受領書）Ｄ」と併せて納付者に交付されますので，必ず，「受付局日付印」**欄に日付印が押印されていることを確認**（日付印が押印されていないと願書は受理できません）し，本募集要項に添付されている**「検定料受付証明書台紙」**の**所定欄に貼り,出願書類と共に提出する**こと。

払い込みの際は、このミシン目で切り取ってから提出してください。

各票の※印欄は、志願者において記載してください。

40 東京ＤＴ　**払込取扱票**（振込通知書）

口座記号番号	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
00160－3－880231					3	0	0	0	0

加入者名：北海道大学　料金　備考

振込先：電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400

30　801750730001 000000000000 821000030000

通信欄：No. 1750730001　（保健科学院・修士）　**A**

必ず窓口で払い込み、ATM（現金自動預払機）は利用しないで下さい。

志願者：住所（郵便番号060-080）※　北海道札幌市北区北8条西5丁目1番1号マンション北海道大学1　北大和男　様方　様

氏名（フリガナ）　ホクダイ イチロウ　北大 一朗　（電話番号 011 －777 －7777）

日附印　**見本**

この払込書は、機械で処理しますので、中央の欄を汚さないよう特にご注意ください。
裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号東DT第７８１号）
これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

払込票

口座記号番号	00160－3
	880231
加入者名	北海道大学
金額	千 百 十 万 千 百 十 円　3 0 0 0 0
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400
志願者	No. 1750730001　**B**　氏名（フリガナ）※　ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様
料金	（消費税込み）円　日附印
備考	

各票の記載事項に間違いのないことをお確かめください。

払込金受入票（振込依頼書）

口座記号番号	00160－3－880231
加入者名	北海道大学
金額	千 百 十 万 千 百 十 円　3 0 0 0 0
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400
志願者	No.1750730001（1750730001 は必ず氏名の前に打電してください。）　**C**　住所・氏名（フリガナ）※北海道札幌市北区北8条西5丁目1番1号マンション北海道大学1　ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様　（電話番号 011 －777 －7777）
料金	日附印
備考	

切り取らないでお出しください。

この受領証は、大切に保存してください。

振替払込請求書兼受領証（振込金(兼手数料)受領書）

口座記号番号	00160－3－880231
加入者名	北海道大学
金額	千 百 十 万 千 百 十 円　3 0 0 0 0
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400
志願者	No. 1750730001　**D**　氏名（フリガナ）※　ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様
料金	（消費税込み）円　日附印　**見本**
備考	

（ゆうちょ銀行）

振替払込受付証明書（お客さま用）

（志願者→郵便局・ゆうちょ銀行 銀行→志願者）

北海道大学
検定料受付証明書

No.	1750730001
金額	¥30,000
口座番号	00160－3－880231
加入者名	北海道大学
振込先	北洋銀行北七条支店 普通3747400
志願者住所氏名（フリガナ）※	**E**　ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様
日附印	

（承認番号東証第1964号）
（志願者用）

（ご注意）
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きＡＴＭでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・この用紙による、払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

課税相当額以上
貼　　付

印

この場所には、何も記載しないでください。

【シール印刷】

1） 下記の宛名票二枚に郵便番号，住所，氏名を記入すること。
2） 本宛名票は入学手続き関係書類及び試験結果通知書の送付用に使用するので，
受験者本人と必ず連絡が取れる住所を記入すること。

宛　名　票

入学手続き関係書類及び試験結果通知書送付用

〒□□□-□□□□

← 住　所

様

← 受験者氏名

(記入不要) 受験番号	

宛　名　票

入学手続き関係書類及び試験結果通知書送付用

〒□□□-□□□□

← 住　所

様

← 受験者氏名

(記入不要) 受験番号	

【社会人特別選抜出願者用】

就　学　承　諾　書

北海道大学大学院保健科学院長　　殿

氏　　名　　印

生年月日　昭和
平成　　年　　月　　日生

上記の者が，北海道大学大学院保健科学院に入学した場合は，在職したまま在学することを承諾します。

令和　　年　　月　　日

所　在　地

所属機関等

所属長(職名･氏名)　　印

※ 本様式（Ａ４判）にならい作成されたものでも可

【出願資格(9),(10)又は(11)の審査用】

(記入不要) 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻(修士課程)

出願資格審査申請書

令和　　年　　月　　日

申請者	※ 志望コース	1. 保健科学コース 2. 看護学コース
	※ 志望科目群 (教育研究領域)	1. 生体量子科学 2. 生体情報科学 3. リハビリテーション科学 4. 健康科学 5. 看護学 6. 公衆衛生看護学 7. 助産学 8. 高度実践看護学
	ふりがな 氏　　名	
	生年月日 (令和2年4月1日現在で記入)	昭和 平成　　年　　月　　日生(　　歳)
	住　　所	〒　　－ TEL (　　) －　　－ 携帯電話がある場合 TEL (　　) －　　－

※印は, いずれかを○で囲む。

1) 審査を申請する出願資格(該当する出願資格番号を○で囲むこと。)

出願資格 (9)又は(10)

(9) 大学に3年以上在学し, 保健科学院において, 所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
(10) 外国において学校教育における15年の課程, 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程, 若しくは我が国において, 外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって, 文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し, 保健科学院において, 所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者

出願資格 (11)

(11) 保健科学院において, 個別の入学資格審査により, 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で, 令和2年3月31日までに22歳に達するもの

〈裏面も記入してください〉

2）履歴事項等

区分	年　月	事　項
学歴	年　月～　年　月	高等学校卒業
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
職歴	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
学会及び社会における活動経験等 （経験がある場合は，その概要について記入し，経験が無い場合は「なし」と記入すること。）		

【記入上の注意】
1）黒のボールペンを使用し，楷書で記入すること。
2）氏名は戸籍のとおり記入すること。
3）学歴欄は，高等学校から短期大学，専門学校，各種学校を含めて全て記入すること。
また，自宅学習や予備校学習を含め，空欄のないようにすること。
4）職業欄は，勤務部署，職名まで詳細に記入すること。
また，家事手伝い，無職の期間も記入し，空欄のないようにすること。
5）学歴及び職歴の記入欄が不足する場合は，適宜用紙を付け足して記入すること。

【出願資格(11)の審査用】

（記入不要） 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院 保健科学専攻（修士課程）

自　己　推　薦　書

※ 志 望 コ ー ス	1．保健科学コース 2．看護学コース
※ 志 望 科 目 群 （教育研究領域）	1．生体量子科学 2．生体情報科学 3．リハビリテーション科学 4．健康科学 5．看護学 6．公衆衛生看護学 7．助産学 8．高度実践看護学
ふりがな 氏　　名	

※印は，いずれかを○で囲む。

※　本学大学院保健科学院を志望する動機及び大学院での勉学に必要な学力を有すると考える点等について，1,000字以内で作成してください。なお，ワープロ使用の場合は本様式（Ａ４判）にならい作成してください。
※　研究歴や実務経験，研究業績等がある場合は，証明する書類の（写）を添付してください。

速　達

0600812

切手貼付

札幌市北区北十二条西五丁目

北海道大学大学院保健科学院

医学系事務部

保健科学研究院事務課（教務担当）

書　留

（修士課程入学願書在中）

差出人	住所	〒□□□-□□□□ 電話（　　）－　　－
	氏名	

※　この封筒の中に下記の書類が入っていることを確認し，
　チェックしてから提出すること。

チェック欄	提　　出　　書　　類
	1.　入学願書
	2.　志望理由書
	3.　卒業（見込）証明書又は学位授与（見込）証明書
	4.　成績証明書
	5.　受験票・写真票（写真添付）
	6.　検定料受付証明書台紙
	7.　受験票送付用封筒（宛名明記・82円分の切手貼付）
	8.　宛名票シール
	9.　（該当者のみ）外国人登録済証明書
	10.　（該当者のみ）看護師免許証（写）又は登録済証明書（写）
【以下，社会人特別選抜による出願者】	
	11.　就学承諾書
	12.　在職期間証明書

注　郵便局の窓口で「書留」扱いにして送付してください。
　（「書留郵便物受領証」を保管しておいてください。）
　持参する場合もこの封筒に上記の書類を入れて提出してください。

切手貼付
82円

受験票在中

北海道大学大学院保健科学院

〒060-0812　札幌市北区北12条西5丁目
電　話：011−706−3318
ＦＡＸ：011−706−4916

資料保院13

令和２年度

北海道大学大学院保健科学院

保健科学専攻（博士後期課程）

学 生 募 集 要 項

（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜）

令和元年6月

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻　博士後期課程　学生募集要項

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

○ 本保健科学院は，保健科学における専門技術を高めると共に，様々な分野の融合と連携を通して，学術的な発展を目指すべく，保健医療系の学部教育を受けた学生のみならず，異なる背景の学問を身につけた学生を受け入れ，地域や文化，国籍を問わず，広く人材を求める。
○ 本保健科学院の教育理念に基づいた人材育成を図るため，それにふさわしい意欲・学力・創造力・論理性・リーダーシップを有する学生を選抜する。

1．専攻及び募集人数

保健科学専攻

保健科学コース
看護学コース　} 10名

（1）募集人数10名には，「社会人特別選抜」及び「外国人留学生特別選抜」の募集人数を含む。
（2）出願に先立ち，志望する教育研究領域の教員（P8～10参照）と研究内容について，必ず事前に相談しておくこと。

2．教育研究コース・科目群（領域）

専　攻	コース	科目群（教育研究領域）
保健科学専攻	保健科学コース	先進医療科学 総合健康科学
	看護学コース	看　護　科　学

3．出願資格

【一般選抜】
① 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者（大学院入学の前までに学位を授与される見込みの者を含む）
② 国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者（大学院入学前までに学位を授与される見込みの者を含む）
③ 外国の大学において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（大学院入学の前までに学位を授与される見込みの者を含む）
④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（大学院入学の前までに学位を授与される見込みの者を含む）
⑤ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（大学院入学の前までに学位を授与される見込みの者を含む）
⑥ 外国の学校,⑤の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し,大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し,修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び令和2年3月までに認められる見込みの者（以下「外国の大学において基礎力審査に相当するものに合格した者」という。）

⑦ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
イ. 大学を卒業し，大学，研究所等において，2年以上研究に従事した者で，本学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
ロ. 外国において学校教育における16年の課程を修了した後，又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後，大学，研究所等において，2年以上研究に従事した者で，本学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
⑧ 本学院において，個別の出願資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和2年3月31日までに24歳に達する者（＊）

（＊）高等専門学校・短期大学の卒業者，専修学校・各種学校の卒業者，外国大学日本分校・外国人学校の卒業者など大学卒業資格を有していない者

※「出願資格」の⑦及び⑧による志願者については，願書を受理する前に出願資格に関する予備審査を行う。6～7頁の「9. 出願資格審査」を参照のこと。

【社会人特別選抜】
上記一般選抜の出願資格のいずれかに該当し，出願時において各種医療，保健，福祉施設，研究機関，教育機関，官公庁，企業等で専門的な実務経験を有し，入学後も引き続きその身分を有する者。
なお，この選抜により入学した社会人は，大学院での学修を容易とするための「大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例」の制度を活用することができる。

参考：大学院設置基準第14条（昭和49年文部省令第28号抜粋）
第14条　大学院の課程においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

【外国人留学生特別選抜】
上記③～⑥，⑦のロ及び⑧の出願資格のいずれかに該当し，
・国費（日本国政府（文部科学省）奨学金による）留学を希望する場合
日本国政府（文部科学省）奨学金の申請にあたって「受入内諾書（Letter of Acceptance）」
が必要な場合は，希望する研究分野の教員に直接受入を依頼し，内諾が得られた場合は教員に「受入内諾書」を記入してもらう。
・私費留学を希望する場合
入学したい研究分野の教員の推薦書（「受入教員の推薦書」）が必要。

4. 出願手続

（1） 出願期間
令和元年7月8日（月）から令和元年7月12日（金）
受付時間：午前8時30分から午後5時00分まで（土・日を除く）
（郵送による場合は書留速達とし，出願期間内必着のこと）

※外国人留学生特別選抜の出願方法
①インターネット出願
Ⅰ. 北海道大学のホームページインターネット出願サイトにアクセスすること。
（http://e-apply.jp/e/hokudai-hs/）
注1）事前に操作手順や注意事項を必ず確認すること。
注2）本サイト利用にあたり，必要書類の出力，申込み及び入学検定料支払いの完了メールの通知を受信するため，プリンター及びメールアドレスが必要となる。必ず事前にプリンター及びメールアドレス（携帯電話のメールアドレスは不可）を用意すること。
Ⅱ. 画面のガイダンスに従い必要事項を選択，入力すること。
Ⅲ. 必要事項の入力が正常に完了すると，登録されたメールアドレス宛に「出願完了メール」が届く。
②検定料の支払い（国費外国人留学生は除く）

Ⅰ. インターネット出願後に表示される支払手続き画面に従い，支払手続きを行うこと。
次のa）～c）のいずれかの方法により支払うこと。
a）クレジットカードによる支払い
「カード番号」「有効期限」「カード名義」「セキュリティコード」を入力すること。
b）Pay-easy（銀行ATM,ゆうちょ銀行ATM,ネットバンキング），コンビニエンスストア，ジャパンネット銀行，楽天銀行による支払い
【Pay-easyの場合】
支払機関選択後に発行される「収納機関番号」「お客様番号」「確認番号」を必ずメモし，Pay-easy対応ATMで支払うこと。
【コンビニエンスストアの場合】
支払機関選択後に発行される「お客様番号」「確認番号」又は「オンライン決済番号」を必ずメモし，コンビニエンスストアで支払うこと。
（ローソン，ファミリーマート，サークルKサンクス，ミニストップ，デイリーヤマザキにて利用可能）
【ジャパンネット銀行，楽天銀行の場合】
画面の説明に従い支払うこと。
c）中国銀聯ネット決済（ChinaPay）による支払い
各銀行の支払い画面にて，「銀行口座番号」「有効期限」「パスワード」などの支払い情報を入力し支払うこと。
Ⅱ. 支払機関により支払に必要な情報や方法が異なるので，画面の説明を必ず確認すること。
検定料のほか，出願者は事務手数料として500円を負担することになるので注意すること。
☆クレジットカード又は中国銀聯ネット決済（ChinaPay）による支払ができない者で，出願時に海外に在住する者は，日本国内にいる者に依頼し，a）又はb）の支払方法により支払うこと。

③出願書類の郵送
Ⅰ. インターネット出願後に作成される願書，及びその他出願に必要な書類を（郵送の場合は願書と一緒に印刷される宛名ラベルを封筒に貼り）出願期間内に提出（郵送）すること。
Ⅱ. 全ての書類が本学に到着した時点をもって出願手続完了となる。インターネットで出願登録を行っただけでは出願手続完了とならないので注意すること。

④インターネット出願に関する問い合わせ
・問い合わせ方法
電話又は電子メールによること。
「学び・教育」出願・申込サービスサポートセンター
電　話：0120-708898　※フリーダイヤルが利用できない場合　03-5804-5515
E-mail：cvs-web@disc.co.jp

(2) 出願書類及び検定料
【一般選抜】

1	入学願書	所定の用紙
2	受験票・写真票	所定の用紙 必要事項を記入し，写真（縦4cm×横3cm，正面・上半身・無帽・無背景で出願前3ヶ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名を記入のうえ，所定欄に各1枚貼付すること。
3	志望理由書	所定の用紙
4	成績証明書	出身大学院の長が証明したもの ただし，本学院保健科学専攻修了（見込）の者は提出不要
5	修了（見込）証明書	ただし，本学院保健科学専攻修了（見込）の者，及び出願資格⑦⑧該当者は提出不要
6	TOEFL-iBTの成績証明書（スコアレポート）	大学院入試実施月（令和元年（2019年）8月）から遡って2年以内に受験したTOEFL-iBTスコアレポートの原本を提出してください。 TOEFL-ITP及びTOEICは提出できません。 平成26年度以降に本学院修士課程に入学した者は提出不要。
7	修士論文等の要旨 （特定の課題についての研究の成果を含む）	修士の学位を有する者は，学位論文等の要旨（A4判2枚程度）。修士課程修了見込者は，学位論文等に関わるこれまでの研究内容の要旨（A4判2枚程度）。出願資格⑦⑧の該当者は，資格審査結果の写しとする。

8	研究業績	・所定の用紙 ・公表した学術論文等（学会発表も含む）の業績一覧（印刷や発表が確約されている論文や学会発表を加えてもよい） ・論文・予稿等の写し（過去5年以内）＊該当者のみ ・学会発表を確認出来る書類（プログラム等）＊該当者のみ ・受賞を確認できる書類（賞状写し，掲載記事等）＊該当者のみ
9	検定料	30,000円（**国費外国人留学生及び本学修士課程から引き続き進学する者は不要**） 最寄りの郵便局又は銀行において，添付の振込用紙（郵便局・銀行併用・5票式）により納入すること。
10	検定料受付証明書台紙	氏名を記入し，上記の入学検定料を納入した際に交付される「検定料受付証明書」を指定欄に貼付すること。
11	受験票送付用封筒	所定の封筒に志願者の住所，氏名，郵便番号を記入し，定形料金の切手（82円）を貼ったもの。
12	宛名票	所定の用紙 2カ所に志願者の住所，氏名，郵便番号を記入すること。 （入学手続き関係書類及び試験結果通知書送付用）
13	在留カード等（写）	日本に在住している外国人は，在留資格が明記されている証明書（写）を提出すること。

【社会人特別選抜】

社会人特別選抜による出願者は，上記の一般選抜による出願書類等の他に，下記書類を併せて提出すること。

14	就学承諾書	所定の用紙 所属長が発行したもの。
15	在職期間証明書	在職時の職名，勤務期間を証明できる書類（任意の様式） 出願資格審査を受け，提出している場合は不要。

【外国人留学生特別選抜】

外国人留学生特別選抜による出願者は，下記書類を出願期間内に提出すること。

1	入学願書	インターネット出願サイトにて，必要事項の入力後に作成される 願書をA4判で印刷し，出願前3ヵ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真（縦4cm×横3cm）を所定の欄に貼ること。（履歴事項を含む）
2	受験票・写真票	インターネット出願サイトにて，願書と一緒に印刷される写真票に，出願前3ヵ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真（縦4 cm×横3cm）を所定の欄に貼ること。なお，写真の裏には，氏名を記入すること。
3	推薦書	所属長または最終出身学校の校長もしくは教員の推薦書
4	修了（見込）証明書	出身大学院の長が証明したもの（英文または和文）
5	成績証明書	出身大学院の長が証明したもの（英文または和文）
6	志望理由書	A4判2枚程度（書式は任意，手書き不可）
7	語学力を証明する書類（英語・日本語）	英語（TOEFL-iBT，IELTSの得点票）（原本） ※平成26年度以降に本学院修士課程に入学した者は提出不要。 日本語（日本留学試験等の得点票，あるいは本学留学生センター等における日本語コースの受講証明書等か受講確約書）
8	受入内諾書または受入教員の推薦書	A4判1枚程度（書式は任意，手書き不可） （入学したいコースの科目群の受入予定教員が記入したもの）
9	研究業績	・所定の用紙（インターネット出願サイトにて，様式ダウンロード） ・公表した学術論文等（学会発表も含む）の業績一覧（印刷や発表が確約されている論文や学会発表を加えてもよい） ・論文・予稿等の写し（過去5年以内）＊該当者のみ ・学会発表を確認出来る書類（プログラム等）＊該当者のみ ・受賞を確認できる書類（賞状写し，掲載記事等）＊該当者のみ

10	検定料	30,000円（**国費外国人留学生及び本学修士課程から引き続き進学する者は不要**） 《納入方法》 ①検定料は，インターネット出願後に表示される支払手続き画面に従い，支払手続きをとること。支払方法は以下のとおり。 Ⅰ. クレジットカードによる支払い （VISA,MasterCard,JCB,AMERICAN EXPRESS等） Ⅱ. Pay-easy（銀行ATM,ゆうちょ銀行ATM,ネットバンキング），コンビニエンスストア，ジャパンネット銀行，楽天銀行による支払い （支払方法の選択後に発行される各種支払用の番号を忘れずにメモし，各支払機関に持参すること。） Ⅲ. 中国銀聯ネット決済（ChinaPay）による支払い 注）クレジットカード又は中国銀聯ネット決済（ChinaPay）で支払ができない者で，出願時に海外に居住する者は，日本国内にいる者に依頼して，Ⅰ又はⅡのいずれかの方法により支払うこと。 ②普通為替や現金では受理できないので，注意すること。 ③支払後に受け取るお客様控え又は支払完了通知メールを印刷したものは，本人の控えとして大切に保管すること。
11	その他	・学費を保障する書類等 ・パスポート（写）または在留カード（写）
12	基礎力審査に相当するものに合格したことを証明する書類	**出願資格⑥該当者のみ提出。** ・基礎力審査に相当するものに合格したことを証明する書類 ・当該審査の合格基準に関する資料等

（3）出願書類提出先

〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目
北海道大学医学系事務部保健科学研究院事務課教務担当　電話：011-706-3318

（4）出願にあたっての注意事項

① 出願書類に不備がある場合は受理しないことがある。誤記又は記入漏れのないことを確認すること。
② 出願書類の受理後は，提出された出願書類の返却及び変更には応じない。
③ 出願書類の記載内容が事実と相違する場合は，入学を取り消すことがある。
④ 改姓等により修了証明書等の氏名が異なっている場合は，戸籍抄本を添付すること。
⑤ 郵送により出願する場合は，綴じ込みの封筒を使用して書留速達とすること。また，持参する場合も，同封筒に出願書類を入れて提出すること。
⑥ 身体に障害を有する者で，受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は，出願期間前までに出願書類提出先の保健科学研究院事務課教務担当に申し出ること。
⑦ 7頁の「10. 長期履修制度について」に申請する場合は，同制度への申請書を出願書類提出時に併せて申し出ることになっているので注意すること。
⑧ 既納の検定料は次の場合を除き，返還しない。
イ. 検定料を納入したが，出願しなかった場合又は出願書類に不備があり受理されなかった場合
ロ. 検定料を誤って二重に納入した場合
※上記に該当する場合は，保健科学研究院事務課教務担当へ請求すること。
返還には相当の日数を要する。なお，返還の請求に，検定料納入の際に金融機関から発行される「検定料受付証明書」又は「郵便振替払込金受領書（払込金（兼手数料）受領書）」が必要になるので大切に保管すること。

5. 入学者選抜方法

口述試験及び提出された出願書類の審査結果を総合して判定する。
ただし，外国人留学生特別選抜の出願者については，出願書類の審査により判定する。
また，平成26年度以降に本学院修士課程に入学した者にあっては，英語能力の成績証明書の提出を不要とする。

6. 試験日程及び試験科目等

(1) 学力試験日

令和元年8月20日(火)

(2) 試験科目・時間・試験場

試 験 日	時　間	試験科目等	試験区分	試　験　場
令和元年 8月20日(火)	10:00～	口述試験	口述	北海道大学大学院保健科学院 (札幌市北区北12条西5丁目)

コース	保健科学コース 一般選抜・社会人特別選抜	看護学コース 一般選抜・社会人特別選抜
口 述 試 験	○	○

7. 合格者発表

令和元年9月20日(金)午前10時(ホームページ掲載は, 午前10時30分頃)
大学院保健科学院玄関掲示板に掲示すると共に, 保健科学院ホームページに掲載し発表する。
(http://www.hs.hokudai.ac.jp/)また, 受験者に対して郵送により通知する。
電話等による合否の問い合わせには, 一切応じない。

8. 入学手続等

(1) 入学に関する手続き方法及び入学手続き期間等の詳細は, 合格通知書送付時に通知する。

(2) 授業料等学生納入金

① 入学料:282, 000円(予定額)
【国費外国人留学生及び本大学内の大学院修士課程修了見込者は不要】

② 授業料:前期分 267, 900円(予定額), 年額 535, 800円(予定額)

注1 上記の納入金は予定額であり, 入学時及び在学中に学生納入金の改定が行われた場合には, 改訂時から新たな納入金が適用される。

注2 入学料及び授業料には, 徴収の猶予・納入の免除制度があり, 手続き方法の詳細は, 合格通知書送付時に通知する。

9. 出願資格審査

出願資格⑦又は⑧により出願しようとする者は, 下記により出願資格の認定を受けること。

(1) 提出期間

令和元年6月19日(水)から令和元年6月25日(火)
受付時間:午前8時30分から午後5時00分まで(土・日を除く)
(郵送による場合は書留速達とし, 提出期間内必着のこと)

(2) 提出書類

1) 出願資格⑦により出願しようとする者

① 出願資格審査申請書	所定の用紙
② 最終学歴に関する証明書	卒業(修了)証明書, 成績証明書(厳封のもの)
③ 在職期間証明書	所属の長が発行したもの 民間企業等の場合は, 研究所に配属されていた期間を明記していること。
④ 推薦書	所属の長又は研究指導者が発行したもの(厳封のもの)

⑤ 本人の研究活動歴	所定の用紙 業績一覧（学会報告，学術論文・研究所年報等） 学術論文等は，別刷（または写し）を添付すること。
⑥ 返信用封筒	審査結果通知用（長形3号の封筒に宛先を明記し，362円切手を貼付したもの）

2）出願資格⑧により出願しようとする者

① 出願資格審査申請書	所定の用紙
② 最終学歴に関する証明書	卒業（修了）証明書，成績証明書（厳封のもの）
③ 在職期間証明書	所属の長が発行したもの 技術的・専門的職業についての職歴を有する者は，その期間及び職務内容を明記していること。
④ 自己推薦書	所定の用紙
⑤ 本人の研究活動歴	所定の用紙 業績一覧（学会報告，学術論文等） 学術論文等は，別刷（または写し）を添付すること。
⑥ 返信用封筒	審査結果通知用（長形3号の封筒に宛先を明記し，362円分切手を貼付したもの）

注）②は，北海道大学医療技術短期大学部卒業分ならびに北海道大学医学部保健学科卒業分は提出不要。

（3）提出方法・提出先

① 封筒の表に「保健科学院博士後期課程出願資格審査書類在中」と朱書きすること。

② 提出先：〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目
北海道大学医学系事務部保健科学研究院事務課教務担当

（4）審査方法

提出された書類により，修得した単位数及び成績並びに研究・実務経験等の内容を個別に審査する。
なお，審査する上で必要と認めた場合は，上記以外の書類の提出を求めることがある。

（5）審査結果の通知

出願資格審査結果は，**令和元年7月5日（金）**に郵送により通知する。

10. 長期履修制度について

職業を有する等（介護・育児等を含む）の事情により，標準修業年限（3年）を超えて一定（6年を超えない）期間にわたり計画的に教育課程を履修して修了することができる。

なお，長期履修の可否は，審査の上決定する。

また，本制度に申請する場合は，入学願書提出時に申し出なければならないので，早めに計画すること。

詳細は，出願書類提出先（保健科学研究院事務課教務担当）まで問い合わせること。

11. 個人情報の取り扱いについて

本学院では，出願の際に提出された入学願書等に記載されている氏名，性別，生年月日，住所及びその他の個人情報は，入学者選抜（出願処理，選考），合格発表及び入学手続（入学時に必要な経費の通知，書類の送付，入学後の連絡事項）並びに学籍・成績管理を行うために利用します。また，取得した個人情報は適切に管理し，上記目的以外に利用しません。

ただし，上記個人情報のうち，氏名，住所に限って，北大フロンティア基金，本学関連団体である北海道大学体育会や財団法人北海道大学クラーク記念財団からの連絡，及び本学院主催の行事案内を行うために利用する場合があります。

主任指導教員の主な研究内容及び連絡先（保健科学院 博士後期課程）

保健科学専攻

令和元年6月1日現在

コース	コース科目群 （教育研究領域）	指導教員 職・氏名・E-mail	主たる研究内容
保健科学コース	先進医療科学	教授 山本　徹 yamamoto@hs.hokudai.ac.jp	1）水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2）MRアーチファクトフリーのインプラント材の開発 3）MRI検査安全性に関する研究
		教授 伊達広行 date@hs.hokudai.ac.jp	1）生体組織中の放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2）生体細胞の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3）放射線治療における効果的照射法の検討
		教授 神島　保 Ktamotamo2@hs.hokudai.ac.jp	1）単純写真による関節裂隙狭小化自動検出に関する研究 2）超音波やMR画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 3）骨粗鬆症の定量化に関する研究
		教授 山口博之 hiroyuki@med.hokudai.ac.jp	1）ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2）自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3）環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
		教授 石津明洋 aishizu@med.hokudai.ac.jp	1）血管炎の病理と病態 2）生体防御システムとその破綻に関する研究 3）免疫細胞の機能解析
		教授 惠　淑萍 keino@hs.hokudai.ac.jp	1）リポ蛋白,過酸化脂質,脂肪酸,生理活性脂質（プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン）の研究 2）糖尿病腎症のバイオマーカー・検査試薬の開発 3）非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）と脂肪滴および機能性食品の研究
		教授 尾崎倫孝 ozaki-m@med.hokudai.ac.jp	1）ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2）肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析（とくに脂肪肝・NASH,虚血・再灌流傷害のメカニズム）。 3）「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
		准教授 政氏伸夫 nmasauzi@hs.hokudai.ac.jp	1）血液細胞を対象としたデジタル形態学に関する研究 2）デジタル形態学の各種血液疾患の病態解析への応用 3）血液検体の保管期間延長法に関する研究 4）好中球細胞質内顆粒の定量的解析 5）検査血液学教育のための実習用サンプルや画像教材に関する研究
		准教授 加賀早苗 sanae@med.hokudai.ac.jp	1）心血管疾患の超音波による病態評価 2）心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる評価 3）超音波検査の標準化と精度管理の方法論の検討
		准教授 杉森博行 sugimori@hs.hokudai.ac.jp	1）人工知能技術の医用画像へ応用した診断補助技術の開発 2）医用画像解析による新たな定量値導出に関する研究 3）プログラミングによる医用画像解析手法の開発
		客員教授（放射線医学総合研究所） 辻　比呂志 h_tsuji@nirs.go.jp	1）粒子線治療の臨床効果に関する研究 2）放射線治療における先進技術に関する研究
		客員教授（放射線医学総合研究所） 山本直敬 Yamamoto.naoyoshi@qst.go.jp	1）肺がんの重粒子線治療の臨床効果に関する研究 2）間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患を合併した肺がんの治療に関する研究
	総合健康科学	教授 浅賀忠義 ask-chu@hs.hokudai.ac.jp	1）姿勢制御と運動学習に関する研究 2）筋シナジーとシナジー間の協調性に関する研究 3）バランス障害に対するリハビリテーション
		教授 遠山晴一 tohyama@med.hokudai.ac.jp	1）前十字靱帯損傷に対するリハビリテーション 2）スポーツ傷害に関するバイオメカニクス 3）腱・靱帯組織の生物学および生体力学
		教授 前島　洋 maeji@hs.hokudai.ac.jp	1）運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2）中枢神経系疾患の運動療法に対するニューロモジュレーション 3）高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究
		教授 境　信哉 sakai@hs.hokudai.ac.jp	1）大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2）高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3）大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
		准教授 寒川美奈 mina@hs.hokudai.ac.jp	1）スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2）ストレッチングの有効性に関する研究 3）ウィメンズヘルスに関する研究（骨盤底筋トレーニング有効性の検証）

コース	コース科目群 （教育研究領域）	指導教員 職・氏名・E-mail	主たる研究内容
保健科学コース	総合健康科学	教授 齋藤　健 taksaito@med.hokudai.ac.jp	1）環境要因による継世代影響の解明 2）微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3）老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
		准教授 宮崎太輔 miyazaki@med.hokudai.ac.jp	1）中枢神経における神経終末とシナプス後部の特異的結合様式の解明 2）小脳神経回路発達様式の解明 3）小脳における帯状構造特異的入出力様式の解明
		准教授 千見寺貴子	1）滑膜線維化メカニズムの解明と治療応用 2）組織再生と慢性炎症における細胞老化の役割の解明 3）間葉系間質細胞を用いた慢性炎症性疾患の治療メカニズムと臨床応用
		教授 横澤宏一 yokosawa@med.hokudai.ac.jp	1）ヒトの認知機能の無侵襲計測とイメージング 2）高次脳機能の読み出しと工学的応用 3）脳機能情報の時空間解析による精神状態評価の基礎的研究
		教授 小笠原克彦 oga@hs.hokudai.ac.jp	1）医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2）遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3）医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
		教授 山内太郎 taroy@med.hokudai.ac.jp	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1）子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2）安全な飲料水,サニテーション,衛生（WASH） 3）ライフスタイル（食と栄養,運動）,健康,QOL,Wellbeing
		教授 惠　淑萍 keino@hs.hokudai.ac.jp	1）リポ蛋白,過酸化脂質,脂肪酸,生理活性脂質（プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン）の研究 2）バイオマーカー・検査試薬の開発 3）非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）と脂肪滴および機能性食品の研究
		准教授 大槻美佳 lasteroideb612@pop.med.hokudai.ac.jp	1）高次脳機能障害（失語,失行,失認,記憶障害等）のメカニズム解明 2）言語の脳内メカニズムの学際的研究 3）神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合よる高次脳機能解明
看護学コース	看護科学	特任教授 佐川　正 t-sagawa@hs.hokudai.ac.jp	1）フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響 2）過期妊娠・予定日超過妊娠とその対策 3）北海道の産科施設集約による助産師業務についての研究
		教授 佐藤洋子 ys@hs.hokudai.ac.jp	1）小児医療における子どもの自律性に関する研究 2）小児に対する情報提供と看護スキルの開発 3）健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
		教授 尾崎倫孝 ozaki-m@med.hokudai.ac.jp	1）ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2）肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析（とくに脂肪肝・NASH,虚血・再灌流傷害のメカニズム）。 3）「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
		教授 結城美智子 yukimck@hs.hokudai.ac.jp	1）リハビリテーション看護技術の開発 2）高齢慢性疾患患者の重症化予防とセルフマネジメント 3）地域高齢者の介護予防に関する研究 4）在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究
		教授 齋藤　健 taksaito@med.hokudai.ac.jp	1）環境要因による継世代影響の予防 2）微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3）老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
		教授 小笠原克彦 oga@hs.hokudai.ac.jp	1）看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2）遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3）看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
		教授 矢野理香 r-yano@med.hokudai.ac.jp	1）看護ケアの成果モデル開発と効果に関する研究 2）熟練看護師の技の可視化に関する研究 3）看護技術教育の方法論と効果に関する研究
		教授 山内太郎 taroy@med.hokudai.ac.jp	○海外フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1）国際保健学:ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2）人類生態学:生態学的アプローチによる集団の栄養適応を評価 3）子どもの成長,食・栄養,身体活動,体力,QOL,幸福
		准教授 宮島直子 miyajima@hs.hokudai.ac.jp	1）精神に障害がある人の発症前生活エピソードに関する質的研究 2）精神機能を高める看護コミュニケーション・スキルの開発

コース	コース科目群 （教育研究領域）	指導教員 職・氏名・E-mail	主たる研究内容
看護学コース	看護科学	准教授 大槻美佳 lasteroideb612@pop.med.hokudai.ac.jp	1）高次脳機能障害（失語,失行,失認,記憶障害等）のメカニズム解明 2）言語の脳内メカニズムの学際的研究 3）神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
		准教授 安積陽子 y_asaka@hs.hokudai.ac.jp	1）極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 2）乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
		准教授 岩本幹子 miki@hs.hokudai.ac.jp	1）修士課程における学際的倫理教育プログラムの開発 2）看護におけるリーダーシップと看護管理の機能に関する研究
		准教授 鷲見尚己 nsumi@hs.hokudai.ac.jp	1）退院支援,移行ケア,地域連携におけるプログラム開発と標準化 2）外来看護,継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3）がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究
		准教授 平野美千代 mihirano@med.hokudai.ac.jp	1）要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2）要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2）高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3）行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4）修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

授業科目担当教員一覧(保健科学院　博士後期課程)

令和元年6月1日現在

コース	科目群	授業科目名	担当教員氏名	単位	学年／開講期
専攻共通科目		医療マネージメント特講	小笠原克彦	2	1／1学期
保健科学コース	先進医療科学	医用画像科学特講	神島　保, 山本　徹, 加藤千恵次, 杉森博行, 加賀早苗	2	1／1学期
		医用画像科学特講演習	神島　保, 山本　徹, 加藤千恵次, 杉森博行, 加賀早苗	2	1／2学期
		生体情報機能解析学特講	石津明洋, 伊達広行, 神島　保, 山口博之, 恵　淑萍, 尾崎倫孝, 政氏伸夫	2	1／1学期
		生体情報機能解析学特講演習	石津明洋, 伊達広行, 神島　保, 山口博之, 恵　淑萍, 尾崎倫孝, 政氏伸夫	2	1／2学期
		重粒子医科学特講	未定	2	1／1学期
		重粒子医科学特講演習	未定	2	1／2学期
	総合健康科学	先端リハビリテーション科学特講	浅賀忠義, 遠山晴一, 前島　洋, 境　信哉, 大槻美佳, 寒川美奈, 宮﨑太輔, 千見寺貴子	2	1／1学期
		先端リハビリテーション科学特講演習	浅賀忠義, 遠山晴一, 前島　洋, 境　信哉, 大槻美佳, 寒川美奈, 宮﨑太輔, 千見寺貴子	2	1／2学期
		健康評価科学特講	小笠原克彦, 齋藤　健, 千葉仁志, 山内太郎	2	1／1学期
		健康評価科学特講演習	小笠原克彦, 齋藤　健, 千葉仁志, 山内太郎	2	1／2学期
		健康マネジメント特講	未定	2	1／1学期
		健康マネジメント特講演習	未定	2	1／2学期
	保健科学特別研究		山本　徹, 伊達広行, 神島　保, 山口博之, 石津明洋, 恵　淑萍, 尾崎倫孝, 浅賀忠義, 遠山晴一, 前島　洋, 境　信哉, 齋藤　健, 横澤宏一, 小笠原克彦, 山内太郎, 政氏伸夫, 加賀早苗, 寒川美奈, 大槻美佳, 杉森博行, 宮﨑太輔, 千見寺貴子, 櫻井俊宏, 大久保寅彦, 澤村大輔, 堤　香織, 髙木聡志, 笠原敏史, 萬井太規, 岡田一範, 益田紗季子, 石田知也, 吉田一生, 井上貴雄, 譚　慧, Wageh Sobhy Abdelrahem Abdallah Darwish	6	1,2,3／通年
看護学コース	看護科学	基盤看護科学特講	矢野理香, 尾崎倫孝, 鷲見尚己	2	1／1学期
		基盤看護科学特講演習	矢野理香, 尾崎倫孝, 鷲見尚己	2	1／2学期
		実践看護科学特講	結城美智子, 宮島直子, 大槻美佳	2	1／1学期
		実践看護科学特講演習	結城美智子, 宮島直子, 大槻美佳	2	1／2学期
		社会看護科学特講	佐藤洋子, 佐川　正, 齋藤　健, 小笠原克彦, 山内太郎, 安積陽子, 平野美千代	2	1／1学期
		社会看護科学特講演習	佐藤洋子, 佐川　正, 齋藤　健, 小笠原克彦, 山内太郎, 安積陽子, 平野美千代	2	1／2学期
	看護科学特別研究		佐川　正, 尾崎倫孝, 結城美智子, 佐藤洋子, 矢野理香, 齋藤　健, 小笠原克彦, 山内太郎, 宮島直子, 大槻美佳, 岩本幹子, 安積陽子, 鷲見尚己, 平野美千代, 溝部佳代, 佐藤三穂, 青柳道子, コリー紀代	6	1,2,3／通年

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻（博士後期課程）

入　学　願　書

※印は，いずれかを○で囲む。

（記入不要）受験番号	

受験区分	※ 1. 一般選抜　・　2. 社会人特別選抜			出願前3ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真を貼付してください。（縦4cm×横3cm）
志願者	ふりがな		性別	
	氏名	昭和 平成　　年　　月　　日生　（満　　歳） （令和2年4月1日現在の年齢）	※ 男・女	

志望するコース及び科目群（教育研究領域）	※ 志望するコース 1. 保健科学コース 2. 看護学コース	※ 志望する科目群（教育研究領域） 1. 先進医療科学 2. 総合健康科学 3. 看護科学
研究指導を希望する教員名	教員	

出願資格	大学	立　　大学　　研究科　　専攻			
		※ 昭和・平成 令和　　年　　月　　日			※ 修了 修了見込
	出願資格⑦又は⑧による場合	最終学歴（教育機関名） 大学（学校）　　学部　　学科　　課程			
		※ 昭和・平成 令和　　年　　月　　日			卒業

医療関係の取得免許の種類，取得年月及び免許番号	免許の種類	取得年月（免許番号）
		※ 昭和・平成 令和　　年　　月　（免許番号　　）
		※ 昭和・平成 令和　　年　　月　（免許番号　　）
		※ 昭和・平成 令和　　年　　月　（免許番号　　）

現住所	〒　　－ TEL　（　　）－　　－
連絡先（合否通知先）	〒　　－ TEL　（　　）－　　－ 携帯電話がある場合　TEL　（　　）－　　－

※ 本募集要項8頁から10頁に記載している主たる研究内容を参照の上，研究指導を希望する教員に研究内容・研究計画を照会・確認して提出すること。

履 歴 事 項

区 分	年　月	事　項
学 歴	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
職 歴	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
	年　月 ～　年　月	
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 経 験 等 （経験がある場合は，その概要について記入し，経験が無い場合は「なし」と記入すること。）		
上記のとおり相違ありませんので，必要書類を添えて出願いたします。 令和　　年　　月　　日 出願者署名 ：		

【記入上の注意】

1）黒のボールペンを使用し，楷書で記入すること。
2）氏名は戸籍のとおり記入すること。
3）現住所等は，番地，棟番号等まで正確に記入すること。
4）学歴は，高等学校から短期大学，専門学校，各種学校を含めて全て記入すること。
　また，自宅学習や予備校学習を含め，空白のないようにすること。
5）学歴において，大学等での研究生等として在学歴がある場合は，その期間も記入すること。
6）職業欄は，勤務部署，職名まで詳細に記入すること。
　また，家事手伝い，無職の期間も記入し，空白のないようにすること。
7）学歴及び職歴の記入欄が不足する場合は，適宜用紙を付け足して記入すること。

令和2年度 北海道大学大学院
保健科学院保健科学専攻（博士後期課程）

受　験　票

受験番号	※
ふりがな	
氏　　名	
生年月日等	昭和 平成　　年　　月　　日生 （満　　歳）　（男・女）

志望コース及び科目群 （教育研究領域） 【志望コース】 【志望科目群】	出願前３ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真を貼付してください。 （縦４cm×横３cm）

1）※印欄は記入しないこと。
2）試験中は，本受験票を携帯し，指示された場所に置くこと。
3）志望コース及び科目群（教育研究領域）は，「入学願書」と同様に記入すること。

令和2年度 北海道大学大学院
保健科学院保健科学専攻（博士後期課程）

写　真　票

受験番号	※
ふりがな	
氏　　名	
生年月日等	昭和 平成　　年　　月　　日生 （満　　歳）　（男・女）

志望コース及び科目群 （教育研究領域） 【志望コース】 【志望科目群】	出願前３ヶ月以内に撮影した正面向き上半身無帽の写真を貼付してください。 （縦４cm×横３cm）

1）※印欄は記入しないこと。
2）志望コース及び科目群（教育研究領域）は，「入学願書」と同様に記入すること。

※【摘要】

(記入不要) 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻(博士後期課程)

志　望　理　由　書

志望コース及び科目群(教育研究領域)	
研究指導を希望する教員名	教員
志願者氏名	

研究指導予定教員署名欄(必須)

※ 本用紙に,1,000字程度で作成すること。パソコンのワープロ機能使用の場合は,本様式(A4判)にならい作成すること。 博

（記入不要） 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻（博士後期課程）

研 究 業 績 一 覧

志願者氏名	

1．修士論文（修士号取得見込を含む）

題　　目：

取得年月・大学名：

2．研究論文（過去５年以内）：題目，全著者名，雑誌名・巻号・ページ・発行年
（英文・和文，査読の有無，インパクトファクターの有無を明記すること）
※投稿中は不可

3．学会発表（筆頭発表のみ）（過去５年以内）：題目・全著者名，発表学会名・開催年月・場所
※査読中は不可

4．学会賞（筆頭のみ）：受賞理由，授与者名,（国際・国内・地方の別を明記）受賞日

パソコンのワープロ機能使用の場合には,本様式（A4判）にならい作成すること。スペースが足りないときには用紙を付加しても良い。

博

令和2年度 北海道大学大学院
保健科学院保健科学専攻（博士後期課程）

検定料受付証明書台紙

（記入不要） 受験番号	

ふりがな	
氏　　名	

「検定料受付証明書」貼付欄E

博

検定料振込用紙（ゆうちょ銀行・銀行併用型，5票式）記入例

・検定料振込用紙は黒のボールペンで以下のとおり正確に記入すること。
・払込取扱票（振込通知書）Aの「志願者」欄に，志願者の郵便番号，住所，氏名（フリガナ），電話番号を記入すること。
・払込票Bの「志願者」欄に，志願者の氏名（フリガナ）を記入すること。
・払込金受入票（振込依頼書）Cの「志願者」覧に，志願者の住所，氏名（フリガナ），電話番号を記入すること。
・振替払込請求書兼受領証（振込金（兼手数料）受領書）Dの「志願者」欄に，志願者の氏名（フリガナ）を記入すること。
・振替払込受付証明書（お客さま用）Eの「志願者氏名（フリガナ）」欄に，志願者の氏名（フリガナ）を記入すること。

※　この「振替払込受付証明書（お客さま用）E」は，**「検定料受付証明書」**を兼ねており，郵便局・ゆうちょ銀行・銀行等の窓口で検定料納入後，「振替払込請求書兼受領証（振込金（兼手数料）受領書）D」と併せて納入者に交付されますので，必ず，「受付局日付印」**欄に日付印が押印されていることを確認**（日付印が押印されていないと願書は受理できません）し，本募集要項に添付されている**「検定料受付証明書台紙」**の所定欄に貼り，出願書類と共に提出すること。

払い込みの際は、このミシン目で切り取ってから提出してください。

40 東京ＤＴ　払込取扱票（振込通知書）

口座記号番号	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
00160-3-880231					3	0	0	0	0
加入者名	北海道大学	料金			備考				
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400								

30　201750750001 000000000000 122000030000

通信欄　No. 1750750001　（保健科学院・博士後期）A
必ず窓口で払い込み、ATM（現金自動預払機）は利用しないで下さい。

ご依頼人　おところ（郵便番号 060-080 ）※ 北海道札幌市北区北8条西5丁目1番1号マンション北海道大学1 北大和男　様方
おなまえ　ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様
（電話番号 011　－777　－7777 ）

日附印　見本

この払込書は、機械で処理しますので、中央の欄を汚さないよう特にご注意ください。
裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号東DT第７８１号）
これより下部には何も記入しないでください。

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

切り取らないでお出しください。

払　込　票

口座記号番号	00160-3							
	8	8	0	2	3	1		
加入者名	北海道大学							
金額	千	百	十	万	千	百	十	円
				3	0	0	0	0
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400							

ご依頼人　No. 1750750001　B
おなまえ ※ ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様

料金（消費税込み）　円　　日附印

備考

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

払　込　金　受　入　票（振込依頼書）

口座記号番号	00160-3							
	8	8	0	2	3	1		
加入者名	北海道大学							
金額	千	百	十	万	千	百	十	円
				3	0	0	0	0
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400							

ご依頼人　No. 1750750001
（ 1750750001　は必ず氏名の前に打電してください。）C
おなまえ ※ 北海道札幌市北区北8条西5丁目1番1号マンション北海道大学1 ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様　（電話番号 011　－777　－7777 ）

料金　日附印

備考

各票の記載事項に間違いのないことをお確かめください。

振替払込請求書兼受領証（振込金（兼手数料）受領書）

口座記号番号	00160-3							
	8	8	0	2	3	1		
加入者名	北海道大学							
金額	千	百	十	万	千	百	十	円
				3	0	0	0	0
振込先	電信扱　北洋銀行北七条支店　普通　3747400							

ご依頼人　No. 1750750001　D
おなまえ ※ ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様

料金（消費税込み）　円　　日附印

備考

（ゆうちょ銀行）

この領収書は、大切に保管してください。

切り取らないでお出しください。

振替払込受付証明書（お客さま用）
（ご依頼人→郵便局・ゆうちょ銀行→ご依頼人）銀行

北海道大学
検定料受付証明書

No. 1750750001
払込金額 ¥30000
口座記号番号 00160－3－880231
加入者名 北海道大学（ホッカイドウダイガク）
振込先 北洋銀行北七条支店 普通3747400
志願者住所氏名（フリガナ）※ E
ホクダイ イチロウ　北大 一朗　様

日附印

（承認番号東証第1964号）
（志願者用）

（ご注意）
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きＡＴＭでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・この用紙による、払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

課税相当額以上
貼　　付

印

この場所には、何も記載しないでください。

【シール印刷】

1） 下記の宛名票二枚に郵便番号，住所，氏名を記入すること。
2） 本宛名票は入学手続き関係書類及び試験結果通知書の送付用に使用するので，
受験者本人と必ず連絡が取れる住所を記入すること。

宛　名　票

入学手続き関係書類及び試験結果通知書送付用

〒□□□-□□□□

← 住　所

様

← 受験者氏名

(記入不要) 受験番号	

宛　名　票

入学手続き関係書類及び試験結果通知書送付用

〒□□□-□□□□

← 住　所

様

← 受験者氏名

(記入不要) 受験番号	

【社会人特別選抜出願者用】

就　学　承　諾　書

北海道大学大学院保健科学院長　　殿

氏　　名　　印

生年月日　昭和
平成　　年　　月　　日生

上記の者が，北海道大学大学院保健科学院に入学した場合は，在職したまま在学することを承諾します。

令和　　年　　月　　日

所　在　地

所属機関等

所属長(職名･氏名)　　印

※本様式（Ａ４判）にならい作成されたものでも可

博

【出願資格⑦又は⑧の審査用】

（記入不要） 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻（博士後期課程）

出願資格審査申請書

令和　　年　　月　　日

申請者	※ 志望コース	1. 保健科学コース 2. 看護学コース
	※ 志望科目群 （教育研究領域）	1. 先進医療科学 2. 総合健康科学 3. 看護科学
	ふりがな 氏　　名	
	生年月日 （令和2年4月1日現在で記入）	昭和 平成　　年　　月　　日生（　　歳）
	住　　所	〒　　－ TEL（　　）－　　－ 携帯電話がある場合 TEL（　　）－　　－

※印は，いずれかを○で囲む。

1）審査を申請する出願資格（該当する出願資格番号を○で囲むこと（⑦の場合はイ又はロいずれかを○で囲む）。）

出願資格　⑦イ又は⑦ロ

⑦ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
イ. 大学を卒業し，大学，研究所等において，2年以上研究に従事した者で，本学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
ロ. 外国において学校教育における16年の課程を修了した後，又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後，大学，研究所等において，2年以上研究に従事した者で，本学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

出願資格　⑧

⑧ 本学院において，個別の出願資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和2年3月31日までに24歳に達する者

〈裏面も記入してください〉

2）履歴事項等

区分	年　月	事　項
学歴	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
職歴	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
	年　月～　年　月	
学会及び社会における活動経験等 （経験がある場合は，その概要について記入し，経験が無い場合は「なし」と記入すること。）		

【記入上の注意】

1）黒のボールペンを使用し，楷書で記入すること。
2）氏名は戸籍のとおり記入すること。
3）学歴は高等学校から短期大学，専門学校，各種学校を含めて全て記入すること。
　また，自宅学習や予備校学習を含め，空白のないようにすること。
4）学歴において，大学等での研究生等として在学歴がある場合は，その期間も記入すること。
5）職業欄は，勤務部署，職名まで詳細に記入すること。
　また，家事手伝い，無職の期間も記入し，空白のないようにすること。
6）学歴及び職歴の記入欄が不足する場合は，適宜用紙を付け足して記入すること。

【出願資格⑦又は⑧の審査用】

（記入不要） 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院
保健科学専攻（博士後期課程）

研 究 業 績 一 覧

志願者氏名	

1．研究論文：題目，全著者名，雑誌名・巻号・ページ・発行年
（英文・和文，査読の有無，インパクトファクターの有無を明記すること）
※投稿中は不可

2．学会発表（筆頭発表のみ）（過去５年以内）：題目・全著者名，発表学会名・開催年月・場所
※査読中は不可

3．学会賞（筆頭のみ）：受賞理由，授与者名,（国際・国内・地方の別を明記）受賞日

パソコンのワープロ機能使用の場合には,本様式（A4判）にならい作成すること。スペースが足りないときには用紙を付加しても良い。　博

【出願資格⑧の審査用】

(記入不要) 受験番号	

令和2年度　北海道大学大学院保健科学院 保健科学専攻（博士後期課程）

自　己　推　薦　書

※ 志 望 コ ー ス	1．保健科学コース 2．看護学コース
※ 志 望 科 目 群 (教育研究領域)	1．先進医療科学 2．総合健康科学 3．看護科学
ふりがな 氏　　名	

※印は，いずれかを○で囲む。

※　本学大学院保健科学院を志望する動機及び大学院での勉学に必要な学力を有すると考える点等について，1,000字以内で作成してください。なお，ワープロ使用の場合は本様式(Ａ４判)にならい作成してください。
※　研究歴や実務経験，研究業績等がある場合は，証明する書類の（写）を添付してください。

速　達

0600812

切手貼付

札幌市北区北十二条西五丁目

北海道大学大学院保健科学院

医学系事務部

保健科学研究院事務課（教務担当）

行

書　留

（博士後期課程入学願書在中）

差出人	住所	〒□□□-□□□□ 電話（　　）－　　－
	氏名	

※　この封筒の中に下記の書類が入っていることを確認し，
　　チェックしてから提出すること。

チェック欄	提　　出　　書　　類
	1. 入学願書
	2. 受験票･写真票（写真添付）
	3. 志望理由書
	4. 成績証明書
	5. 修了（見込）証明書
	6.TOEFL-iBTの成績証明書（スコアレポート）
	7. 修士論文
	8. 研究業績 （公表した学術論文等を有する者は,目録及び論文の写し）
	9. 検定料受付証明書台紙
	10. 受験票送付用封筒（宛名明記･82円分の切手貼付）
	11. 宛名票シール
	12. （該当者のみ）外国人登録済証明書
【以下,社会人特別選抜による出願者】	
	13. 就学承諾書
	14. 在職期間証明書

（注）　郵便局の窓口で「書留」扱いにして送付してください。
　　（「書留郵便物受領証」を保管しておいてください。）
　持参する場合もこの封筒に上記の書類を入れて提出してください。

切手貼付
82円

受験票在中

北海道大学大学院保健科学院

〒060-0812　札幌市北区北12条西5丁目
電　話：011-706-3318
ＦＡＸ：011-706-4916

北海道大学大学院保健科学院外国人留学生特別選抜実施要項

（趣旨）

第１条　北海道大学大学院通則（昭和 29 年海大達第３号）（以下「通則」という。）及び北海道大学大学院保健科学院規程に定めるものの他，北海道大学大学院保健科学院（以下「本学院」という。）における「外国人留学生特別選抜」（以下「留学生特別選抜」という。）の実施に関して必要な事項を定めるものとする。

（留学生特別選抜の方法）

第２条　留学生特別選抜は，企画戦略室国際交流専門部会部会長及び本学院教務委員会委員で構成される「外国人留学生特別選抜入試委員会」（以下「特別選抜入試委員会」という。）により行なわれる。

２　特別選抜入試委員会は，出願書類及び出願者が研究指導を希望する本学院担当専任教員（以下「受入教員」という。）の推薦に基づいて，合格候補者を選考するものとする。

（対象とする課程）

第３条　留学生特別選抜を実施する課程は，修士課程及び博士後期課程とする。

（出願資格）

第４条　以下の出願資格を有する外国人及び大学院入学の前日までに修了見込みの外国人とする。

(1)　修士課程については，外国において，学校教育における 16 年の課程を修了した者

(2)　博士後期課程については，外国の大学において，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

（出願書類）

第５条　出願書類等については，学生募集要項において別に定める。

（推薦書）

第６条　受入教員は，入学を志願する外国人との事前面談等により，受け入れが可能であると判断する場合に限り，所定の様式による推薦書を本学院教務委員会へ提出するものとする。

（合格者）

第７条　合格者は，第２条の合格候補者に基づき，本学院教授会の議を経て総長に報告する。

附　則

この要項は，平成 22 年５月 20 日から実施する。

附　則

この要項は，平成 27 年４月１日から実施する。

保健科学院出願者数等の推移【修士課程】

入学定員

【全　体】

区分	H29	H30	H31
出願者数	73	64	87
合格者数	49	47	61
入学者数	47	45	57

【選抜別内訳】

一般選抜

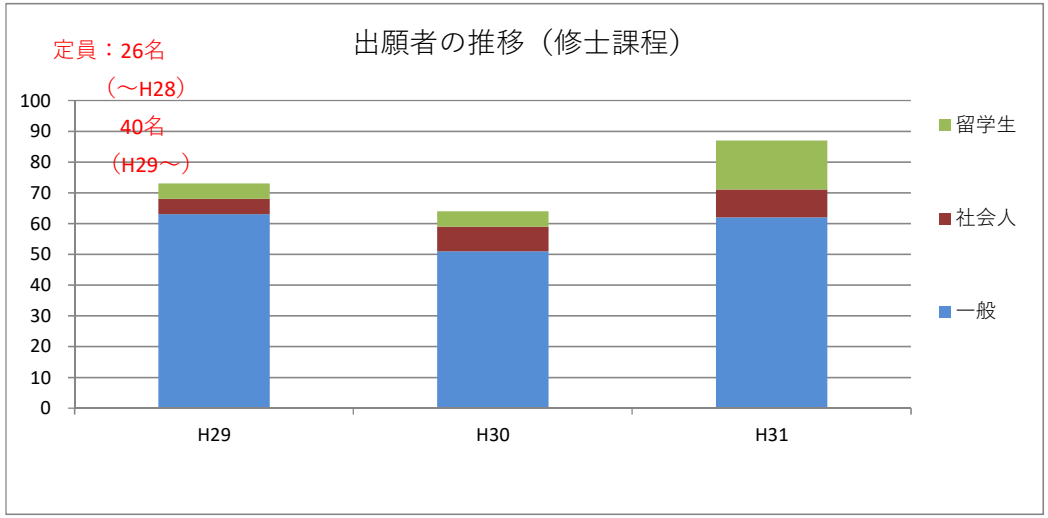
区分	H29	H30	H31
出願者数	63	51	62
合格者数	41	40	57
入学者数	39	38	53

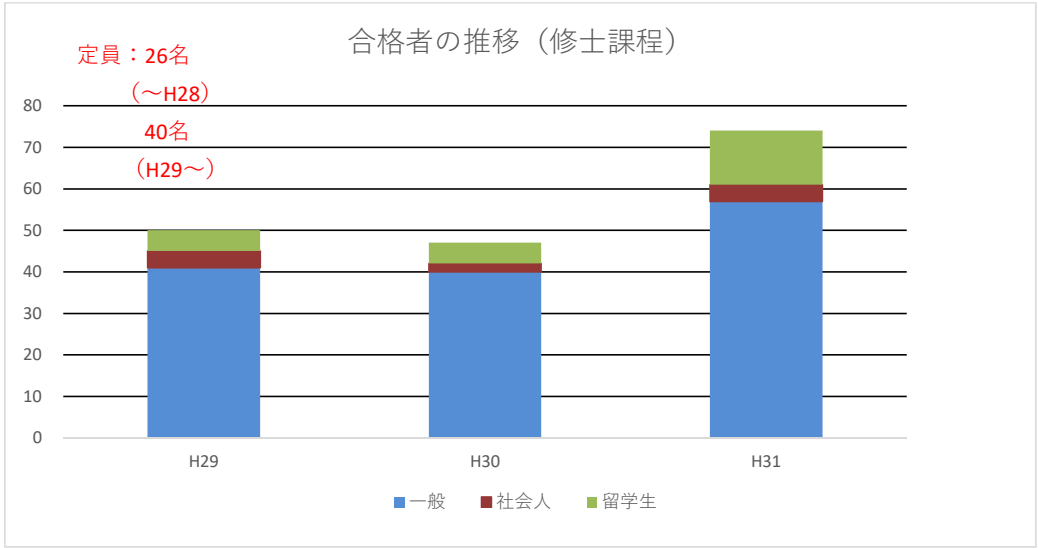
社会人特別選抜

区分	H29	H30	H31
出願者数	5	8	9
合格者数	4	2	4
入学者数	3	2	4

外国人留学生特別選抜

区分	H29	H30	H31
出願者数	5	5	16
合格者数	5	5	13
入学者数	5	5	12





資料保院15

保健科学院出願者数等の推移【博士後期課程】

入学定員

【全　体】

区分	H29	H30	H31
出願者数	10人	10人	17人
合格者数	10人	10人	15人
入学者数	9人	9人	13人

【入試別内訳】

一般選抜

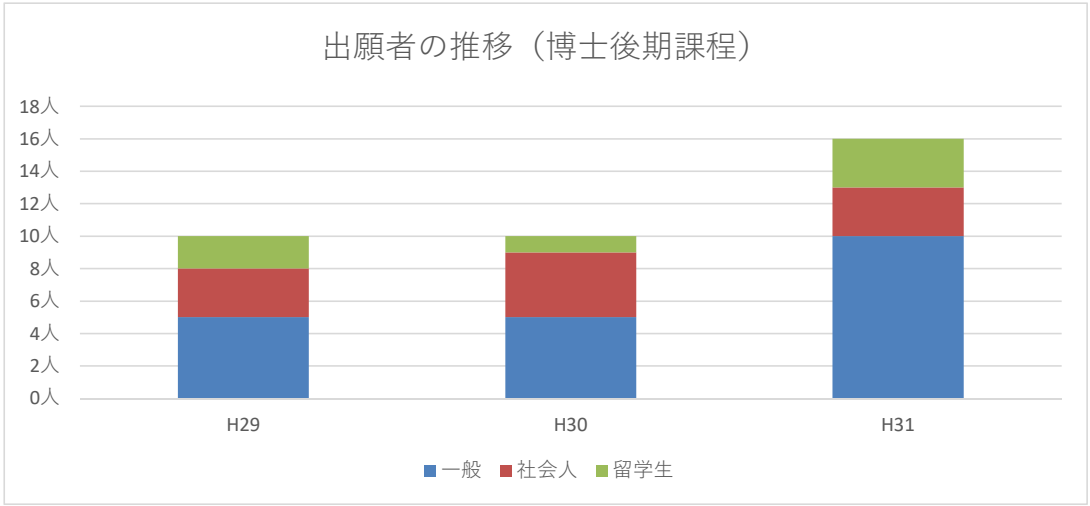
区分	H29	H30	H31
出願者数	5人	5人	10人
合格者数	5人	5人	10人
入学者数	5人	4人	8人

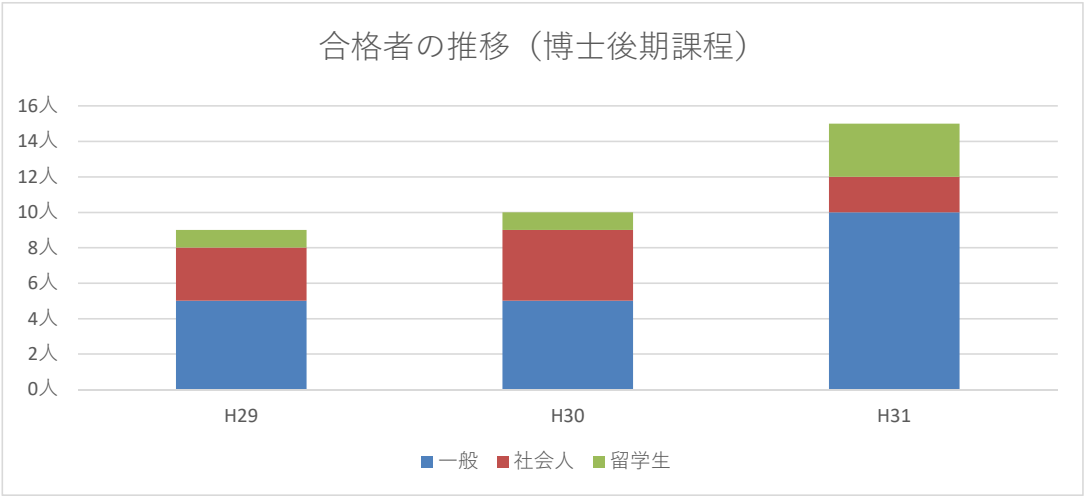
社会人特別選抜

区分	H29	H30	H31
出願者数	3人	4人	3人
合格者数	3人	4人	2人
入学者数	3人	4人	2人

留学生

区分	H29	H30	H31
出願者数	2人	1人	4人
合格者数	1人	1人	3人
入学者数	1人	1人	3人





保健科学院出願者数等の推移【修士課程】

入学定員

【全　体】

区分	H29	H30	H31
出願者数	73	64	87
合格者数	49	47	61
入学者数	47	45	57

【選抜別内訳】

一般選抜

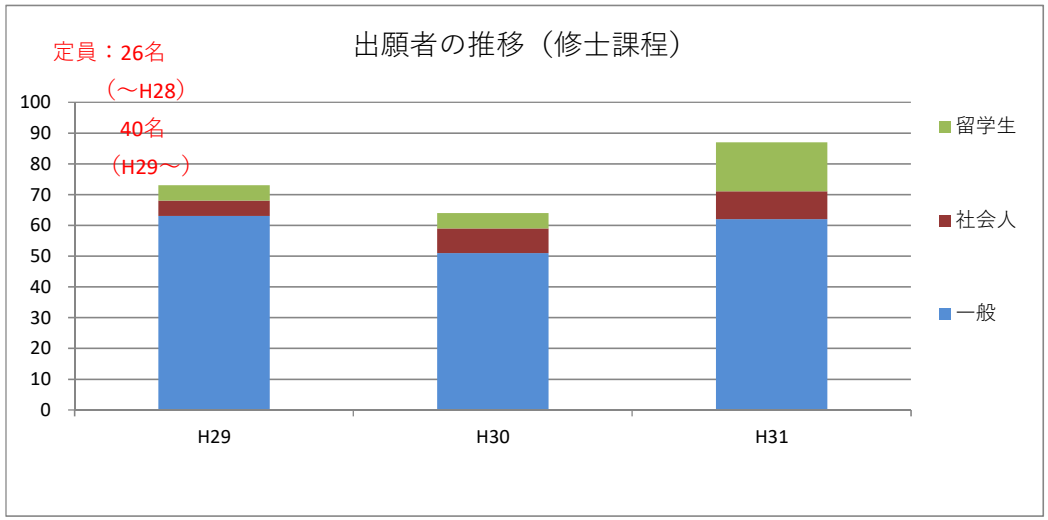
区分	H29	H30	H31
出願者数	63	51	62
合格者数	41	40	57
入学者数	39	38	53

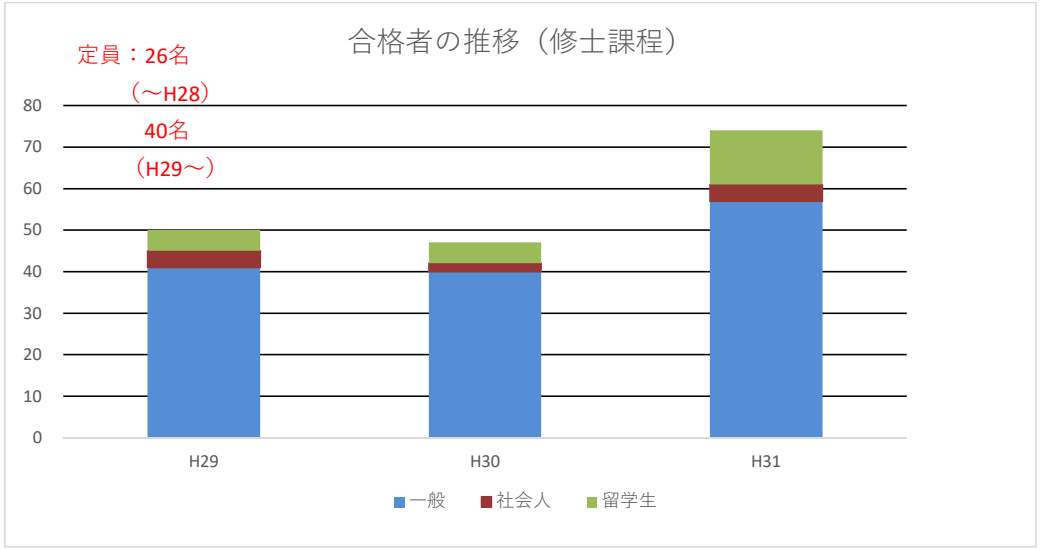
社会人特別選抜

区分	H29	H30	H31
出願者数	5	8	9
合格者数	4	2	4
入学者数	3	2	4

外国人留学生特別選抜

区分	H29	H30	H31
出願者数	5	5	16
合格者数	5	5	13
入学者数	5	5	12





資料保院16

保健科学院出願者数等の推移【博士後期課程】

入学定員

【全　体】

区分	H29	H30	H31
出願者数	10人	10人	17人
合格者数	10人	10人	15人
入学者数	9人	9人	13人

【入試別内訳】

一般選抜

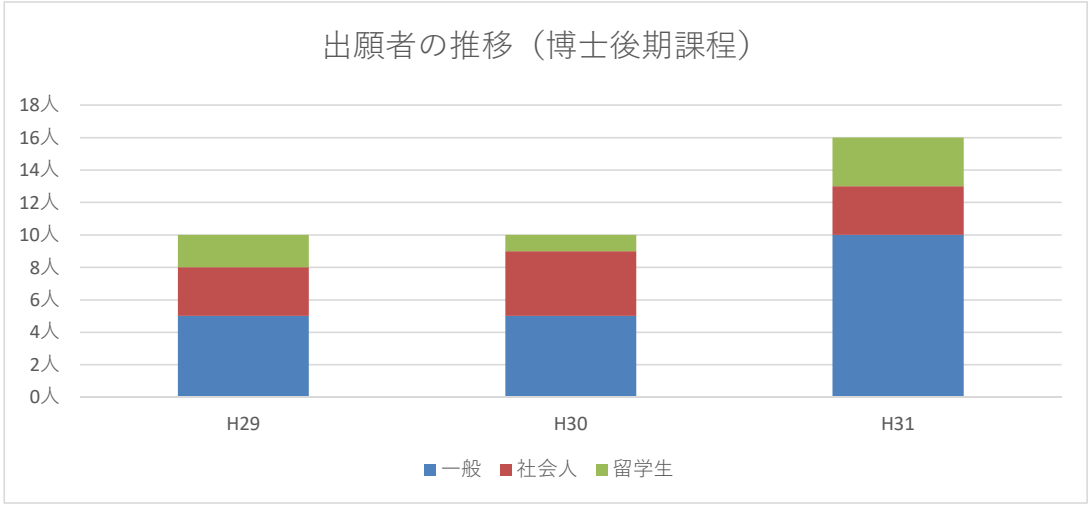
区分	H29	H30	H31
出願者数	5人	5人	10人
合格者数	5人	5人	10人
入学者数	5人	4人	8人

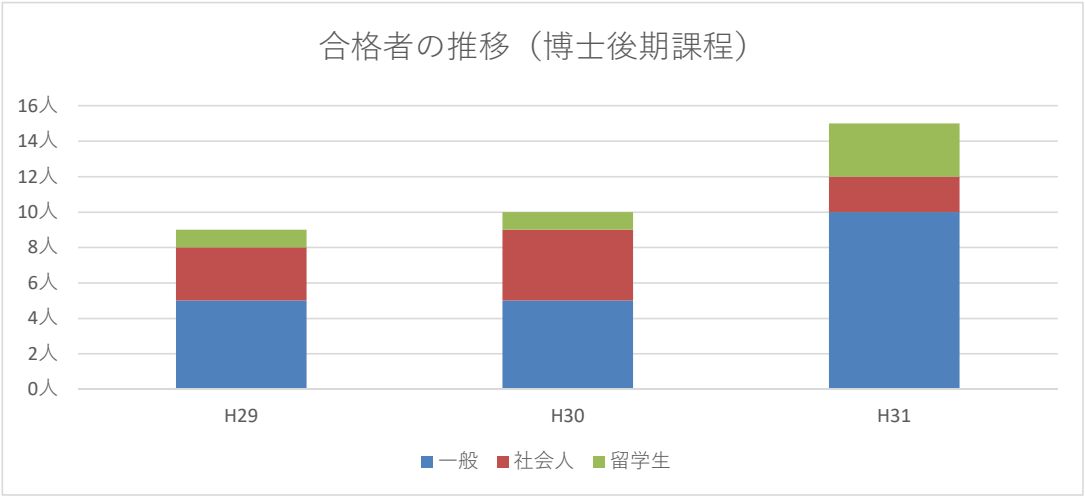
社会人特別選抜

区分	H29	H30	H31
出願者数	3人	4人	3人
合格者数	3人	4人	2人
入学者数	3人	4人	2人

留学生

区分	H29	H30	H31
出願者数	2人	1人	4人
合格者数	1人	1人	3人
入学者数	1人	1人	3人





資料保院17

大学院保健科学院博士後期課程学位審査における短縮修了者に関する申合せ

平成２２年６月１７日
保健科学院教授会申合せ

大学大学院保健科学院（以下「本学院」という。）博士後期課程学位審査要項（平成２２年５月２０日制定）（以下「審査要項」という。）における第４「資格審査」（１）在学期間のウ．短縮修了者「優れた研究業績を上げた者」の必要条件は，この申合せの定めるところによる。

１　短縮修了を可能とする「優れた研究業績を上げた者」とは，以下の条件を満たす者とする。

（１）本学院博士後期課程に入学後１年以上を経過し，入学後に，インパクトファクター（ＩＦ）付の英文誌に筆頭論文が３編以上（そのうち２編はＩＦが領域別ランクにて上位２０％以内の英文誌とする）に掲載（あるいは掲載が確約）されたか，もしくはそれと同等以上の業績があると認められること

（２）上記（１）の筆頭論文もしくは業績が，提出学位論文の内容に則していること

付　記

この申合せは，平成２２年度入学者に係る学位審査から適用する。

資料保院18

大学院保健科学院修士課程進路状況

○就職等状況

修了年度	修了者数	就職者数				就職者計	進学		進学者計	その他
		医療機関	民間企業	教員	その他		本学博士後期課程	その他		
平成28年	57	28	12	1	3	44	9	2	11	2
平成29年	41	19	7	3	1	30	5	2	7	4
平成30年	50	31	8	1	0	40	8	0	8	2
計	148	78	27	5	4	114	22	4	26	8

○各就職率

修了年度	就職率	就職率内訳				進学率	進学率内訳	
		医療機関	民間企業	教員	その他		本学博士後期課程	その他
平成28年	77%	49%	21%	2%	11%	19%	16%	4%
平成29年	73%	46%	17%	7%	5%	17%	12%	5%
平成30年	80%	62%	16%	2%	0%	16%	16%	0%
計	77%	53%	18%	3%	3%	18%	15%	3%

資料保院19

大学院保健科学院博士後期課程進路状況

〇就職等状況

修了年度	修了者数	就職者数			就職者計	その他
		医療機関	研究教育職	その他		
平成28年	3	1	2	0	3	0
平成29年	7	2	5	0	7	0
平成30年	3	0	3	0	3	0
計	13	3	10	0	13	0

〇各就職率

修了年度	就職率	就職率内訳		
		医療機関	研究教育職	その他
平成28年	100%	33%	67%	0%
平成29年	100%	29%	71%	0%
平成30年	100%	0%	100%	0%
計	100%	23%	77%	0%

資料保院 20

保健師国家試験合格率の推移

受験年度	修了者	出願者	受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成 28 年	５	５	５	５	１００	９４．５
平成 29 年	４	４	４	４	１００	８５．６
平成 30 年	６	６	６	６	１００	８１．８

資料保院 21

助産師国家試験合格率の推移

受験年度	修了者	出願者	受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成 28 年	３	３	３	３	１００	９３．２
平成 29 年	２	２	２	２	１００	９９．４
平成 30 年	４	４	４	４	１００	９９．６

北海道大学大学院保健科学院・医学部保健学科学生委員会内規

平成 20 年４月３日
制　　定

（設置）

第１条　北海道大学大学院保健科学院・医学部保健学科（以下「本学院等」という。）に，学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項について審議する。

(1)　本学院等の学生（以下「学生」という。）の奨学援護に関すること。

(2)　学生の課外活動に関すること。

(3)　学生相談に関すること。

(4)　学生の賞罰に関すること。

(5)　その他厚生補導に関し必要な事項

（組織）

第３条　委員会は次に掲げる者をもって組織する。

(1)　保健科学院の全学学生委員会委員

(2)　各学科目の教授，准教授，又は講師（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員のうち，特任教授，特任准教授，及び特任講師の職にある者を含む。）　各１名

(3)　各科目群の教授，准教授，又は講師（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員のうち，特任教授，特任准教授，及び特任講師の職にある者を含む。）　各１名

（任期）

第４条　前条第２号から第９号の委員の任期は，２年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は，再任されることができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置き，第３条第１号の委員を持って充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（専門委員会）

第６条　委員会に専門的事項を審議又は調査するため，必要に応じて専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会の組織及び運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

（委員以外の者の出席）

第７条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。

（庶務）

第８条　委員会の庶務は，医学系事務部が行う。

（雑則）

第９条　この内規に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

附　則

この内規は，平成 20 年４月３日から施行し，平成 20 年４月１日から適用する。

附　則

この内規は，平成 20 年５月 15 日から施行する。

附　則

この内規は，平成 22 年４月１日から施行する。

附　則

この内規は，平成 23 年４月 21 日から施行し，平成 23 年４月１日から適用する。

北海道大学大学院保健科学院・医学部保健学科キャリアサポート委員会内規

平成２２年６月１７日
制　　定

（設置）

第１条　北海道大学大学院保健科学院・医学部保健学科（以下「本学院等」という。）に，キャリアサポート委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は本学院等の学生（以下「学生」という。）の就職等に関し，次の各号に掲げる事項について審議・実行する。

(1)　学生の就職（進路）の相談に関すること。

(2)　学生の就職情報の収集及び提供に関すること。

(3)　その他，学生の就職支援に関すること。

（組織）

第３条　委員会は次に掲げる者をもって組織する。

(1)　各学科目の教授，准教授，講師又は助教（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員のうち，特任教授，特任准教授，特任講師及び特任助教の職にある者を含む。）　各１名

(2)　各科目群の教授，准教授，講師又は助教（国立大学法人北海道大学特任教員就業規則（平成 18 年海大達第 35 号）第３条第２号に該当する特任教員のうち，特任教授，特任准教授，特任講師及び特任助教の職にある者を含む。）　各１名

(3)　その他保健科学院長及び保健学科長が必要と認めたもの　若干名

（任期）

第４条　前条の委員の任期は，１年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

２　前項の委員は，再任されることができる。

（委員長）

第５条　委員会に委員長を置く。

２　委員長は，委員のうちから保健科学院長が指名する。

３　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

４　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会が必要と認めたときは，委員以外の者を委員会へ出席させ，説明又は意見を聴くことができる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は，医学系事務部が行う。

（雑則）

第８条　この内規に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が別に定める。

附　則

１．この内規は，平成 22 年６月 17 日から施行する。

２．この内規施行の後，最初に委嘱される委員の任期は，第４条第１項の規定にかかわらず，平成 23 年３月 31 日までとする。

附　則

この内規は，平成 23 年４月 21 日から施行し，平成 23 年４月１日から適用する。

附　則

この内規は，平成 27 年４月１日から施行する。

北海道大学大学院保健科学院の顕彰に関する内規

平成 21 年 5 月 21 日制定

（趣旨）

第１条　この内規は，北海道大学大学院保健科学院（以下「本学院」という。）の顕彰に関し，必要な事項を定めるものとする。

（顕彰の定義）

第２条　この内規でいう顕彰とは，表彰又は感謝をいう。

（表彰対象者）

第３条　大学院保健科学院長（以下「学院長」という。）は，本学院における学業成績及び研究等に関し，優秀な成績かつ顕著な業績等のあった本学院学生を表彰することができる。

２　前項の表彰の名称及び対象者は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　保健科学院長賞

　　優れた学業成績と研究業績を挙げた本学院修了年次学生のうち，原則各コース１名

(2)　保健科学院研究奨励賞

　　顕著な研究業績を挙げた本学院博士後期課程３年次学生又は同課程の修了年次にある長期履修学生のうち，若干名

(3)　保健科学院修士課程研究発表賞（Best Presentation Award）

　　修士論文又は特定課題研究報告書に関する公開発表会において，優れた発表を行った修士課程修了年次学生のうち，若干名

３　前項の規程にかかわらず，学院長が特に必要と認めた場合，表彰することができる。

（表彰の方法）

第４条　表彰は，表彰状の授与をもって行い，併せて次の各号に掲げる副賞を授与することができる。

(1)　第３条第２項第１号　５万円相当の記念品

(2)　第３条第２項第２号　被表彰者の研究奨励金として，30 万円の予算を主任指導教員に配分する。

(3)　第３条第２項第３号　学院長が定める記念品

（表彰の推薦方法）

第５条　主任指導教員は，第３条第２項第１号から第２号に該当すると認められる学生がいる場合は，次の各号に掲げる期日までに別記様式により，学院長に推薦するものとする。

(1)　第３条第２項第１号　２月末まで

(2)　第３条第２項第２号　４月末まで

２　第３条第２項第３号の表彰の実施に関し，被表彰者の推薦時期及び様式は，学院長が定める。

（表彰の選考）

第６条　学院長は，前条第１項の推薦に基づき，学院長が指名する教授若干名で構成する選考委員会を設置して選考を行い,選考結果を保健科学院教授会に報告するものとする。

２　前条第２項の選考方法については，学院長が定める。

（表彰状の授与時期）

第７条　表彰状の授与時期は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　第３条第２項第１号　原則３月

(2)　第３条第２項第２号　原則５月

(3)　第３条第２項第３号　学院長が指定する日

(4)　第３条第３項　学院長が指定する日

（感謝状贈呈対象者）

第８条　学院長は，本学院への寄附者及び特に必要と認めた者に対し，感謝状を贈ることができる。

（雑則）

第９条　この内規に定めるもののほか，必要な事項は，学院長がこれを定める。

附　則

この内規は，平成 21 年５月 21 日から施行する。

附　則

この内規は，平成 22 年２月 24 日から施行し，平成 22 年２月１日から適用する。

附　則

この内規は，平成 26 年 12 月 18 日から施行する。

北海道大学大学院保健科学院長賞推薦書

平成　　年　　月　　日

大学院保健科学院長　殿

主任指導教員 職名・氏名：

下記のとおり推薦します。

学生氏名	課　程　名		学　　年
		修士課程	２年
		博士後期課程	３年

推薦理由：

研究業績等：

（全ての研究業績等を記載願います。なお，紙面が足りない場合は，別紙に記載願います。）

北海道大学大学院保健科学院研究奨励賞推薦書

平成　　年　　月　　日

大学院保健科学院長　殿

主任指導教員 職名・氏名：

下記のとおり推薦します。

学生氏名	課程名	学　　年
	博士後期課程	３年

推薦理由：

研究業績等：
（全ての研究業績等を記載願います。なお，紙面が足りない場合は，別紙に記載願います。）

資料保院25

北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」の実施に関する内規

平成２８年７月２１日
学　院　教　授　会

（趣旨）
第１条　この内規は，北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」（以下「交流基金」という。）要項第７条の規定に基づき，交流基金の実施に関し必要な事項を定める。

（申請）
第２条　交流基金からの助成を希望する者は，国内外の国際学会，国際シンポジウム及び国際会議等（以下「国際学会等」という。）への参加予定日の１ヶ月前までに，別紙様式第１号による申請書を北海道大学大学院保健科学院長（以下「学院長」とする。）に提出するものとする。
２　前項の申請をすることができる者は，北海道大学大学院保健科学院（以下「学院」という。）に在籍する大学院学生とする。

（選考結果）
第３条　学院長は，要項第５条に規定する選考の結果を，別紙様式第２号及び別紙様式第３号による通知書により申請者及び主任指導教員に通知する。

（助成）
第４条　助成額は，別紙様式第１号の申請書に記載の額の範囲内において助成する。

（報告）
第５条　助成対象者は，国際学会等から帰国後１ヶ月以内に，別紙様式第４号による報告書を学院長に提出するものとする。

（辞退）
第６条　助成対象者が何らかの事情により，申請のあった国際学会等において研究発表等を実施することが困難となった場合には，その理由を添えて学院長に届け出て，許可を受けるものとする。

（雑則）
第７条　この内規に定めるもののほか，交流基金の運用に関し必要な事項は，学院教授会の議を経て学院長が別に定める。

附　則
この内規は，平成２８年７月２１日から実施する。

附　則
この内規は，平成２８年１２月１５日から実施する。

附　則
この内規は，令和元年１２月１９日から実施する。

別紙様式１号（第２条関係）

北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」申請書

令和　　年　　月　　日

大学院保健科学院長　殿

申請者　所属コース＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
課程・学年＿＿＿＿＿＿課程・　　年
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申請者の領域責任者の署名＿＿＿＿＿＿＿＿
申請者の主任指導教員の署名＿＿＿＿＿＿＿＿

私は，下記のとおり北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」を申請します。

記

１　発表する国際学会等の名称	
２　旅行先（国名・機関の名称）	
３　旅行予定期間	年　月　日　～　　年　月　日
４　口頭発表内容（タイトル）	
５　旅行費等（経費負担内容）	
６　その他参考となる事項	

※　口頭による発表であることのエビデンスを添付すること。
※　記載欄が不足する場合は，適宜，別紙に記載すること。

別紙様式２号（第３条関係）

北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」選考結果通知書

令和　　年　　月　　日

（所属コース，課程・学年，氏名）殿

大学院保健科学院長

【採択となった場合】
先に貴殿から申請のあった保健科学院「国際学術交流基金」について，選考の結果，採択することとなりましたので，通知します。
なお，今後，申請書に変更を生じる場合は，速やかに届けてください。
また、研究発表を実施することが困難となった場合は、その理由（任意様式）を添えて、速やかに届けてください。
おって，帰国後１ヶ月以内に，別紙様式第４号による報告書を提出してください。

記

助成決定額　　〇〇，〇〇〇円

【採択とならなかった場合】
先に貴殿から申請のあった保健科学院「国際学術交流基金」について，選考の結果，残念ながら採択には至りませんでしたので，通知します。

別紙様式３号（第３条関係）

北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」選考結果通知書

令和　　年　　月　　日

主任指導教員（氏名）殿

大学院保健科学院長

【採択となった場合】
先に貴職が主任指導を担当する大学院学生から申請のあった保健科学院「国際学術交流基金」について，選考の結果，採択することとなりましたので，通知します。
なお，帰国後１ヶ月以内に，別紙様式第４号による報告書を提出させてください。

記

助成決定額　　〇〇，〇〇〇円

【採択とならなかった場合】
先に貴職が主任指導を担当する大学院学生から申請のあった保健科学院「国際学術交流基金」について，選考の結果，残念ながら採択には至りませんでしたので，通知します。
なお，申請者には別途通知している旨申し添えます。

別紙様式４号（第５条関係）

北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」実施報告書

令和　　年　　月　　日

大学院保健科学院長　殿

報告者　所属コース＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
課程・学年＿＿＿＿＿＿課程・　　年
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私は，下記のとおり北海道大学大学院保健科学院「国際学術交流基金」を使用して国際学会等で口頭による研究発表をしましたので報告します。

記

１　発表した国際学会等の名称	
２　旅行先（国名・機関の名称）	
３　旅行期間	年　月　日　～　　年　月　日
４　口頭発表内容（タイトル）	
５　旅行費等（経費負担内容）	
６　報告事項（成果の詳細）	

※　記載欄が不足する場合は，適宜，別紙に記載すること。

資料保院26

北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」の実施に関する内規

平成２９年２月１６日
学　院　教　授　会

（趣旨）
第１条　この内規は，北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」（以下「奨学基金」という。）要項（以下「基金要項」という。）第８条の規定に基づき，奨学基金の実施に関し必要な事項を定める。

（申請）
第２条　奨学基金からの助成を希望する者は，領域責任者の推薦に基づき，次に掲げる書類を,本学院修士課程２年次の４月末日までに，北海道大学大学院保健科学院長（以下「学院長」とする。）に提出するものとする。
（１）北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」申請書（別紙様式第１号）
（２）修士課程１年次における成績証明書
（３）その他学院長が必要と認める書類

（選考結果）
第３条　学院長は，基金要項第６条に規定する選考の結果を，別紙様式第２号及び別紙様式第３号による通知書により申請者及び領域責任者に通知する。

（助成人数）
第４条　助成人数は，一の年度において１名を上限とする。

（助成額）
第５条　助成額は，250,000円とする。

（助成金の支給）
第６条　助成金は，受給者が指定する銀行の口座に振込支給するものとする。

（雑則）
第７条　この内規に定めるもののほか，奨学基金の運用に関し必要な事項は，本学院教授会の議を経て学院長が別に定める。

附　則
この内規は，平成２９年４月１日から適用する。

（両面印刷）

別紙様式１号（第２条関係）

北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」申請書

平成　　年　　月　　日

大学院保健科学院長　　殿

申請者　所属コース＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
課程・学年　修士課程・２年＿＿＿＿＿＿
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申請者の領域責任者の署名＿＿＿＿＿＿＿＿
申請者の主任指導教員の署名＿＿＿＿＿＿＿＿

私は，下記のとおり北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」を申請します。

記

１．奨学金を必要とする詳細な理由等

※　申請者の学歴・職歴・資格・賞罰等を記載した略歴書（任意様式）を添付すること
※　必要に応じて，根拠資料を添付すること
※　記載欄が不足する場合は，適宜，別紙に記載すること。

（裏面に続く）

２．奨学金の使用予定用途

＊使用予定用途の合計金額（概算）：＿＿＿＿,＿＿＿円

例）授業料の支払いのため：***, ***円
　　学術図書の購入のため：***, ***円

３．他の給付型奨学金の受給（予定）の有無

□　有（奨学金名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
　　（助成金額：＿＿＿＿,＿＿＿円）
□　無

４．授業料免除申請（予定）の有無

□　有（申請年月日：＿＿＿＿年＿＿月＿＿日）
□　無

５．その他参考となる事項

＊主任指導教員の所見欄＊

※　記載欄が不足する場合は，適宜，別紙に記載すること。

別紙様式２号（第３条関係）

北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」選考結果通知書

平成　　年　　月　　日

○○コース○○課程○年
○　○　○　○　殿

大学院保健科学院長

【採択となった場合】

先に貴殿から申請のあった保健科学院「助産師養成奨学基金」について，選考の結果，採択することとなりましたので，通知します。

【採択とならなかった場合】

先に貴殿から申請のあった保健科学院「助産師養成奨学基金」について，選考の結果，残念ながら採択には至りませんでしたので，通知します。

別紙様式３号（第３条関係）

北海道大学大学院保健科学院「助産師養成奨学基金」選考結果通知書

平成　　年　　月　　日

領域責任者　○　○　○　○　　殿

大学院保健科学院長

【採択となった場合】

先に貴領域所属の大学院学生から申請のあった保健科学院「助産師養成奨学基金」について，選考の結果，採択することとなりましたので，通知します。

なお，申請者には別途通知している旨申し添えます。

【採択とならなかった場合】

先に貴領域所属の大学院学生から申請のあった保健科学院「助産師養成奨学基金」について，選考の結果，残念ながら採択には至りませんでしたので，通知します。

なお，申請者には別途通知している旨申し添えます。